大臣 護ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ監督ス(外務省官制)

第二内務大臣 第二内務大臣ハ地方行政議員選擧、警察、監獄、土木、衞生、地理、社寺、出版、版權、戸籍、賑恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ中央衞生會、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス(内務省官制)

第三大藏大臣 第三大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣、郡、市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス(大藏省官制)

第四陸軍大臣 第四陸軍大臣ハ陸軍々政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス(陸軍省官制)

第五海軍大臣 第五海軍大臣ハ海軍々政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス(海軍省官制)

第六司法大臣 第六司法大臣ハ司法上ノ行政、司法警察及恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ裁判ノ執行ヲ監督シ行政事務ニ付テ裁判所ヲ監督ス(司法省官制)

第七文部大臣 第七文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス(文部省官制)

第八農商務大臣 第八農商務大臣ハ農、工、商、水產、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス(農商務省官制)

第九遞信大臣 第九遞信大臣ハ郵便、電信、鐵道、船舶、海員、航路標識及郵便爲替、郵便貯金ニ關スル事務ヲ管理シ電氣事業ヲ監督ス(遞信省官制)

主任ノ確定

七一 各省大臣ノ職權ハ右ニ述フルカ如シ而シテ其ノ主任ノ事務ハ各大臣ノ責任ノ依リテ分ルヽ所ナリ然レトモ行政事務ノ複雜ナル或ハ其ノ一個ノ事務ニシテ主任ノ明瞭ナラスシテ二省以上ニ關渉スルモノナキヲ期セス若シ此ノ如キ場合アルトキハ現行法ハ之ヲ内閣ノ決議ニ附シテ其ノ主任ヲ定ムルコトヽセリ

國務大臣ノ行政上ノ責任

七二 各省大臣モ亦齊シク行政官タリ一般ノ行政官ニシテ行政上ノ責任アル以上ハ各省大臣モ亦同シク行政上ノ責任ナカルヘカラス然レトモ各省大臣ハ行政ノ最高官府ニシテ天皇ニ服屬スルノ外他ノ官府ノ監督ヲ受ケス故ニ監督權ノ結果ニ出ツル懲戒處分ハ之ヲ各省大臣ニ適用スルコト能ハス唯天皇ハ至高ノ權力ヲ以テ大臣ヲ黜免シ懲責スルコトヲ得帝國議會ハ憲法

上ノ職權ニ依リテ質問又ハ上奏シテ其懲戒ヲ鳴ラスコトヲ得是レ各省大臣カ一般ノ行政官ト異ナリテ別ニ憲法上ノ責任ヲ負フ所以ナリ唯其ノ行政上ノ責任ノ生スヘキ場合一アリ即チ其ノ行爲カ行政裁判所ニ於テ攻撃セラルヘキ場合是レナリ行政裁判所ハ訴訟ノ原因タル各省大臣ノ違法處分カ一私人ノ權利ヲ傷害シタリト思料スルトキハ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ命スルコトヲ得各省大臣ハ其ノ判決ニ從ヒテ行政上ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルナリ

會計上ノ非違ニ關シテ各省大臣ハ國家ニ對シテ賠償ノ責任アルヤ否ヤ或ハ謂ヘラク各省大臣ハ國家ノ事務ヲ管理スル以上ハ其ノ違法處分ハ民法ニ於ケル重過失ヲ成スモノナリ議會ハ通常裁判所ニ向ヒテ之ヲ訴追スルコトヲ得ヘシト(Hervieu, Les ministeres, p. 670.)是レ專ラ民主々義ニ本ツキテ立論スルモノニシテ各省大臣ハ國民ノ財産ヲ管理スルノ結果トシテ國民ニ對シ其ノ管理上ノ責任ヲ負ハサルヘカラスト云フヲ旨趣トス外國憲法ノ議論トシテハ姑ク舍カム我カ國法上議會ハ此ノ如キ權限ヲ有セサルコトハ言ヲ俟タス蓋シ佛國一千八百十四年ノ憲法及一千八百十七年ノ財政法ニハ明カニ此ノ責任ヲ擧示セリト雖モ其ノ裁判管轄ヲ規定セサリシカ爲メニ種々ノ議論ヲ坊涌セシメタリ議院ノ裁判權ハ唯刑事ニ止リ通常裁判所ハ行政事項ヲ審理スルヲ得ス會計檢査院ハ出納官ノ責任ヲ判決スレトモ仕拂命令官ノ責任ヲ判決スルヲ得ス參事院ハ行政行爲ノ當否ヲ裁判スレトモ行政官其ノ人ニ對スル裁判ヲ爲スヲ得ス故ニ一千八百四十八年ノ憲法ハ國務大臣ノ民事上ノ責任ニ關スル一條ヲ追加シテ國民議會ハ民事上ノ賠償ノ爲メニ場合ニ依リテハ當該大臣ヲ高等法院又ハ通常裁判所ニ訴追スルコトヲ得トセリ或ハ此ノ憲法ノ條文カ今尚ホ其ノ效力ヲ保續スヘシト說ク者アリ(Haurion, l. c. e., 282)要スルニ此ノ問題ハ佛國ノ學者ニ於テモ未決ノモノタルカ如シ而シテ我カ國法上ハ固ヨリ未タ此ノ問題ヲ決スヘキ一ノ規定ナキカ故ニ若シ會計決算上ニ會計檢査院ノ指斥ヲ受ケルトキハ唯政治上ノ責任ニ歸スルノ外ナシ

七三

宮內大臣ハ國務大臣ニ非ス又各省大臣ニモ非ス內閣官制ニ內閣ハ國務大臣ヲ以テ組織ストシ內閣組織ニ關スル太政官達ニハ內閣總理大臣及前揭九大臣ヲ以テ組織スルコト、定メ宮內大臣ヲ算入セス又各省官制通則ニモ宮內省ヲ除外セリ故ニ宮內大臣ノ國務大臣ニ非ス又各省大臣ニ非サルコトハ國法上ノ解釋ニ於テ明白ナリ然レトモ我カ宮內大臣ノ位地ハ歐州諸

國ノ宮内大臣ノ位地ト一般ニ看做スヘカラサルモノアリ歐州ノ學者ノ通說ニ依レハ宮内大臣ハ君主ノ私事ノ管理者ニシテ官府ニ非ストス而ルニ我カ國法ニ依レハ宮内大臣ハ帝室ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ所部ノ官吏ヲ統督シ帝室ニ關スル諸法規ヲ制定施行シ又主任ノ事務ニ關シ臣民ニ命令シ又警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令訓令スルコト各省大臣ト異ナル所ナシ唯其ノ官制カ一般官制ノ外別ニ宮内省達ヲ以テ定メラルルノミ

第二章　内閣

内閣ノ性質

七四　内閣ハ國務大臣ヲ以テ組織シ其ノ合議ニ依リテ國家ノ政務ヲ行フ而シテ各省大臣カ同時ニ國務大臣ノ資格ヲ有スルコトハ既ニ前章ニ說ケリ故ニ各省大臣ハ單獨制ノ官府トシテ行政上ノ最高機關ヲ組織スルト同時ニ内閣ナル合議官府ヲ組織スルノ一員タリ唯國務大臣ハ必スシモ各省大臣ニ限ラサルヲ以テ内閣官制ハ各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員ニ列セラルヽコトアルヘキ旨ヲ明記セリ

内閣總理大臣ハ合議官府ノ長ニシテ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ行政各部ノ統一ヲ保持シ又須要ノ場合ニハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメテ勅裁ヲ待ツコトヲ得然レトモ内閣ノ職權ハ各省大臣ノ上ニ存スルニ非ス總理大臣ノ官職ハ各省大臣ノ外ニ在レトモ齊シク國務大臣ノ一人ニシテ又同時ニ内閣員ノ一人タリ(内閣官制、明治十八年太政官達第六十九號)唯各省大臣ハ行政實務上ノ職分ヲ有シ内閣總理大臣ハ之ヲ有セサルノ差異アルノミ然レトモ主任ノ職務ノ有無ハ國務大臣トシテ内閣ニ列スルニ妨ナシ蓋シ省ト云ハスシテ内閣ト云ヒ又其ノ議長ノ官稱ヲ總理大臣ト云フヨリシテ攷フレハ太政官ノ舊制度ニ形式上ノ變更ヲ加ヘ内閣ハ太政官ニ代ハリ總理大臣ハ太政大臣ノ職ヲ襲キ以テ其ノ各省大臣ヲ統督スル最高官府タリシ性質ヲ遺存スルカ如クナレトモ只是レ皮想ノ見ノミ明治十八年官制改正ノ詔勅ニ當ラシメ統フルニ内閣總理大臣ヲ以テシ以テ從前各省太政官ニ隷屬シ上申下行經由繁複ナルノ弊ヲ免レシム』トア リ又當時太政大臣ノ奏議ヲ見ルモ『内閣ヲ以テ宰臣會議御前ニ事ヲ奏スル所、

トシ諸宰臣入テハ太政ニ參シ出テハ各部ノ職ニ就キ『云々』トアリ又以テ內閣組織ノ精神ノ存スル所ヲ見ルニ足ルベシ

內閣ノ職權

七五 內閣ノ職權ハ內閣官制ニ依リテ定マル其ノ職權ハ左ノ諸項ヲ議決スルニ在リ

（一）法律案及豫算決算案
（二）外國條約及重要ナル國際事件
（三）官制又ハ規則及法律施行ニ關スル勅令
（四）各省間ノ權限爭議
（五）天皇ヨリ下附セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願
（六）豫算外ノ支出
（七）勅任官及地方長官ノ任免及進退
（八）各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關シ事體稍重キモノ
（九）各省大臣ノ所見ニ依リ何等ノ事件ヲ閣議ニ擧ケタルモノ

以上諸項ノ中第八項ニ至タルマテノ事件ハ必ス閣議ヲ經テ施設スヘク各大臣隨意ノ行爲ヲ許サス末項ノ事件ニ付キテハ閣議ヲ經ルト經サルト各大臣ニ於テ隨意タリ然レトモ閣議ヲ經ヘキ事項ニ付キテモ重要ナル國際事件ト云ヒ各省主任ノ事務ニシテ高等行政ニ屬シ事體稍重キモノト云フカ如キハ其ノ範圍確定セス故ニ其ノ如何ナル事件カ重要ナルヤ如何ナル事務カ事體ノ重キヤヲ判斷スルハ主任大臣ノ權限ニ屬セサルヲ得ス但內閣總理大臣ハ行政統一ノ目的ノ爲メニ須要ノ場合ニハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシムルコトヲ得ルカ故ニ主任大臣カ閣議ヲ經ルヲ要セスト思料シタル事項ト雖モ之ヲ閣議ニ附セシムルコトヲ得ト解シテ可ナリ

現行官制第七條ニ『事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ內閣ニ下付セラルヽノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ內閣總理大臣ニ報告スヘシ』トアリ故ニ事ノ軍機軍令ニ係ルモノハ閣議ヲ經ス陸海軍大臣旨ヲ承ケテ宣行シ單ニ總理大臣ニ向ヒテ報告スルニ止マルモノト解セサルヘカラス但軍機軍令ノ範圍ハ到底法律上ノ解釋ニ付スヘキニ非サルナリ

七六 內閣ニ隷屬スル官廳ニアリ一ハ天皇ノ榮典大權施行ノ機關ニシテ

屬スル官廳及內閣所屬職員

賞勳局ハ是レナリ現行官制ニ依レハ賞勳局ハ(一)勳位勳章及年金ニ關スル事項(二)記章褒章其ノ他賞件ニ關スル事項(三)外國ノ勳章記章受領及佩用ニ關スル事項ヲ掌理シ勳位勳章及年金ノ叙賜又ハ褫奪ハ賞勳會議ヲシテ議定セシム(天皇ノ榮典大權施行ノ機關トシテハ外ニ尚ホ爵位局アリ現在宮內省ニ隷屬ス)ニハ法令案ノ起草及審査ノ爲メニスル機關ニシテ法制局ハ是レナリ現行官制ニ依レハ法制局ハ(一)內閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申スルコト(二)法律命令ノ制定、廢止、改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ內閣ニ上申スルコト(三)各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ內閣ニ上申スルコト(四)前諸項ニ揭クルモノヽ外內閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申スルコトヲ掌リ尚ホ十八年太政官達第七十八號ニ依リテ府縣知事及府縣會ヨリ提出スル所ノ具狀書ヲ裁定スルノ權限ヲ有ス

內閣所屬ノ職員ニハ書記官長、恩給局長、官報局長、書記官、內閣總理大臣祕書官、恩給局審査官、屬、技手等アリ其ノ職掌ハ內閣所屬職員官制ニ定マレリ又內閣總理大臣ノ監督ニ屬スルモノニ文官試驗委員及法典調査會等アリ其ノ組織職掌ハ此ニ必スシモ說カス

樞密院ノ位置

第三章　樞密院

樞密院ノ職權

七七　樞密院ハ施政上ノ最高諮問機關ニシテ通常天皇ノ諮詢ヲ待チテ意見ヲ上奏スルノ職務ヲ有シ內閣ノ如ク自ラ進ミテ一定ノ事項ヲ議決スルコトヲ得ス又行政ノ實務ニ干與スルコトヲ得ス故ニ樞密院ハ施政上ノ一機關トシテ天皇ノ大權ノ行使ニ參與スルヲ主トスルモノニシテ之ヲ行政機關トスルコトヲ得ス故ニ普通行政組織ノ一部分トシテ此ニ其位置職權ヲ說クハ失當ノ恐ナキニ非サレトモ一般ニ中央官府ノ官制ヲ明カニセンカ爲メニ姑ク便宜ニ從ヒテ收錄セン

憲法第五十六條ニ『樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ答ヘ重要ノ國務ヲ審議ス』トアリ故ニ樞密院ハ憲法上ノ職權ヲ有シ憲法ヲ變更セサル以上ハ天皇ハ樞密院ノ制度ヲ廢シ又ハ其ノ諮詢ヲ要スル場合ニ諮詢

セサルノ自由ヲ有セス唯憲法ハ其ノ諮詢ヲ要スル場合ヲ樞密院官制ノ規定ニ讓リ其ノ官制ハ天皇ノ大權ニ本ツキテ成ルヲ以テ天皇ハ自由ニ諮詢ヲ要スル場合ヲ增減變更スルコトヲ得レトモ一旦樞密院官制ニ依リテ其ノ場合ヲ定ムルトキハ天皇ハ憲法ノ條規ニ依リ統治權ヲ行フノ結果トシテ必ス樞密院ノ職權ヲ認メサルヲ得ス故ニ現行ノ樞密院官制ニ依レハ諮詢ヲ經ル事項ニ二種アリ一ハ樞密院官制ニ列記シ諮詢ノ自由ヲ天皇ニ與ヘス一ハ之ヲ列記セスシテ諮詢ノ自由ヲ天皇ニ一任ス從ヒテ天皇カ若シ第一種ノ事項ヲ樞密院ニ諮詢セスシテ外部ニ發表スルトキハ直接ニ樞密院ノ官制ニ違反シ間接ニ憲法ノ條規ニ違反ス然レトモ諮詢ハ元來意見ヲ問フニ在リテ其ノ意見ノ採擇ハ專ラ諮詢者ノ自由ニ存スルカ故ニ天皇ハ其ノ諮詢ヲ經ルヲ要スル場合ニモ樞密院ノ意見ニ拘束セラルヽコトナク一ニ聖裁ニ依リテ其ノ採否ヲ定ムルコトヲ得

樞密院官制ニ依レハ樞密院カ意見ヲ上奏スル事項ハ左ノ如シ

(一)皇室典範ニ於テ其ノ權限ニ屬セシメタル事項(第九條、第二十七條第二十

九條第四十六條第六十二條參照但皇室典範第十九條ハ樞密院カ諮詢ヲ待タスシテ議決ヲ爲スヘキ場合ヲ定ム是レ異常ノ場合ニ於ケル特例タリ

(二)憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ノ草案及疑議

(三)憲法第十四條戒嚴令ノ宣告同第八條第七十條ノ勅令及其ノ他罰則ノ規定アル勅令

(四)列國交涉ノ條約及約束

(五)樞密院ノ官制及事務章程ノ改正ニ關スル事項

以上列記的ノ規定ニシテ諮詢ノ自由天皇ニ存セス

(六)前諸項ノ外臨時ニ諮詢セラルヽ事項

是レヲ列記的ノ規定ニ非スシテ諮詢ノ自由天皇ニ存スル事項トス

尙ホ此ノ他特別ノ規定ニ依リテ樞密院ノ權限ニ屬スルモノアリ即チ行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起レル權限爭議ハ權限爭議裁判所ノ設置セラルヽマテハ樞密院ニ於テ之ヲ裁定スルコトヽ爲レリ(行政裁判

樞密院ノ組織

所法第二十條、第四十五條)

七八 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十五人ヲ以テ組織シ天皇之ヲ親任シ特ニ年齡四十歲ニ達スルヲ以テ制限トス各大臣ハ其ノ職權上當然ニ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有シ又委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及說明ヲ爲サシムルコトヲ得蓋シ此ノ如ク國務大臣カ專任樞密顧問官ト共ニ樞密院ノ會議ヲ組織スルノ制度ハ歐洲ノ君主國ニ於ケル樞密院ノ制度ヲ斟酌シテ成レルモノニシテ英國及獨逸諸國ノ內閣(Cabinet)ハ樞密院(Conseil privé)ノ一部分ヲ成スノ狀態ナリ唯佛國ノ現今參事院(Conseil d'Etat)ト稱スルノモノハ大統領ノ顧問ト爲リ法令ノ草案ヲ作リ又併セテ行政裁判ノ終審ヲ司ル所ノ一種ノ合議官府ニシテ他國ノ樞密院ノ組織トハ全ク其ノ趣ヲ異ニス

行政裁判所及會計檢查院

第四章 行政裁判所及會計檢查院

七九 行政裁判所ハ行政訴訟ノ爲メニ設置セラレ會計檢查院ハ會計監督ノ爲メニ設置セラル共ニ獨立ノ中央官府ナリ故ニ普通行政組織ノ一部分トシテ其ノ組織及權限ヲ說クコトヲ要ス然レトモ其ノ法理ノ行政訴訟又ハ財政事務ト相關聯スル所多キヲ以テ便宜ノ爲メニ第三編及第四編ノ攻究ニ讓リテ此ニ之ヲ省ク

地方官ノ一般ノ性質

第五章 地方官

八〇 此ニ地方官ト稱スルハ地方行政區劃ニ於ケル普通行政ノ官府ヲ謂フ其ノ官府ノ性質ニ於テハ中央官府ト異ナル所ナシ等シク國家ノ機關トシテ國家ノ行政ヲ行フモノナリ唯其ノ職權ノ範圍カ行政區劃ヲ超エサルコト及其ノ同時ニ地方團體ノ機關トシテ地方行政ヲ行フノ職權アルコトハ地方官府カ中央官府ト異ナル所ナリ我カ邦ノ現行法ニ於テハ地方官ハ普通行政ノ機關タルヲ主トシ其ノ任免進退ハ一ニ國家ノ直接行爲トシ之ヲ地方團體ニ放任セス唯最下級ノ地方團體タル「市町村ニ於テノミ完全ノ自治ヲ與ヘ其ノ行政機關ハ地方團體ノ機關タルヲ主トシ特別ノ委任ニ依リテ兼テ普通

行政ヲ行ハシム現今普通ニ地方官ト稱スルモノハ府縣知事及郡長トス北海道廳長官警視總監及島司ハ地方官ノ特別組織ナリ市町村長モ亦普通行政ヲ執行スル點ニ於テハ最下級ノ地方官ト爲ル

第一　府縣知事

八一　各府縣ニ知事一人ヲ置キテ勅任トシ書記官警部長收稅長參事官典獄等其ノ他各府縣ノ須要ニ應シ一定ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ補助セシム故ニ普通行政ノ機關タル府縣知事ハ單獨制ノ官府タリ合議制ノ官府ノ長トシテ地方行政ニ干與スルモノトハ其ノ趣ヲ異ニス

知事ハ直接官府タル資格ト間接官府タル資格トヲ併有ス此ニ直接官府ト稱スルハ臣民ニ對シ其ノ固有ノ名ニ於テ命令處分スル權限ヲ有スルモノヲ謂ヒ間接官府ト稱スルハ上官ノ指揮監督ヲ受ケ其ノ所屬官トシテ命令處分スルモノヲ謂フ

知事ハ直接官府トシテハ主トシテ左ノ權限ヲ有ス

(一)府縣令ヲ發スルコト　知事ハ所轄部內ノ行政事務ニ付キ其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍內ニ於テ管內一般又ハ其ノ一部分ニ行政命令ヲ發スルコトヲ得之ヲ府縣令トス

(二)兵力ヲ請求スルコト　知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メニ兵備ヲ要スルトキハ師團長若クハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得是レ管內ノ靜謐ヲ維持スルカ爲メニ行フ非常處分ノ權限タリ

(三)所部官吏ノ監督及進退ヲ爲スコト　知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒテ之ヲ懲戒シ奏任官ノ功過ハ上官ニ具狀シ判任官ノ進退懲戒ハ之ヲ專行ス

知事ハ間接官府トシテ一般ノ事務ニ付キテハ內務大臣ノ監督指揮ヲ受ケ各省主任ノ事務ニ付キテハ各省大臣ノ監督指揮ヲ受ケテ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ總理スルノ職權アリ故ニ其ノ直接官府ノ職權ヲ以テ爲シタル行政ト雖モ內務大臣其ノ他主務大臣ニ於テ公益ヲ害シ又ハ法律命令ニ違フモノト認ムルトキハ取消シ又ハ中止ヲ命セラルヽコトアルヘシ

現今官制ニ依レハ『知事々故アルトキハ書記官其職務ヲ代理ス』トアリ故ニ知

第二郡長及島司

事ノ職務ノ全部、代理ハ知事隨意ニ之ヲ委任スルニ非スシテ書記官カ官制ノ委任ニ依リテ其ノ代理ヲ爲スモノナリ從ヒテ書記官タルモノハ若シ知事々故アル場合ニ際セハ假令ヒ知事ノ委任ナクトモ自ラ進ミテ其ノ職務ヲ處理セサルヘカラス又知事タルモノハ書記官以外ノ官吏ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得ス故ニ官制ハ若シ書記官ニ於テモ事故アルトキハ內務大臣自ラ其ノ代理ヲ指定スヘキコトヽ定メタリ然レトモ『知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得』トアルヲ見レハ職務ノ一部代理ハ知事任意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルヤ明瞭ナリ

第二　郡長及島司

八二　各郡ニ郡長一人ヲ置キ勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島司ヲ置ク其ノ職權ハ又直接官府トシテノ職權ト間接官府トシテノ職權トアリ直接官府トシテハ法律命令ノ委任若クハ府縣知事ノ委任ヲ受ケテ其ノ所轄部內ノ事務ヲ便宜施行シ又之ニ關シテ郡令ヲ發スルコトヲ得間接官府トシテハ府縣知事ノ指揮監督ヲ受ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌

第三市町村長

理ス

第三　市町村長

八三　市町村長カ普通行政ノ機關トシテ有スル職權ハ市制町村制ニ定マレリ便宜ノ爲メニ之ヲ地方行政組織ノ部ニ說明セム

第四北海道廳長官及警視總監

第四　北海道廳長官及警視總監

八四　北海道廳長官及警視總監ノ官制ハ地方官々制ノ特例タリ北海道ニ長官一人ヲ置キ其ノ部內ノ行政事務ヲ掌理セシム其ノ組織及職權ハ府縣知事ト全ク同シ警視總監ハ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ掌理スルカ爲メニ之ヲ設ク各府縣ニ警部長及典獄ヲ置クノ特例トス是レ東京カ輦轂ノ地ニシテ其ノ警察事務ノ樞要固ヨリ各府縣ノ比ニ非サルカ故ニ特ニ之ヲ府知事ノ職權外ニ分離獨立セシメタルモノナリ其ノ職權ニ關スル大體ノ法理ハ府縣知事ト異ナル所ナク唯其ノ事務カ警察事務タルニ止ルノミ一般ノ事務ニ就キテハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就キテハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ高等警察事務ニ就キテハ內閣總理大臣及內

務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第六章　臺灣ニ於ケル特別制度

臺灣ニ於ケル特別制度

臺灣ハ戰役ノ結果トシテ得タル新版圖ニシテ之ニ關スル特別ノ制度ハ普通行政ノ一部分トシテ說明セサルヘカラス

臺灣ニ於ケル行政ノ機關ニ二種アリ一ヲ臺灣總督トシ一ヲ臺灣評議會トス尙ホ一定ノ地方區劃ヲ分チテ地方官ヲ置クコト內地ト同シ

第一　臺灣總督

臺灣總督ノ法律ノ地位ニ關スル疑義

八五　臺灣總督ノ法律上ノ地位ニ就キテハ頗ル解釋ニ苦ムモノアリ其ノ內務大臣ノ監督ヲ受ケテ諸種ノ行政ヲ爲ス點ヨリ考フレハ臺灣總督ハ內務大臣ノ下級官府ニシテ一箇獨立ノ機關ニ非ス而シテ其ノ特別ノ局地ニ在リテ中央官府ニ隷屬スルコト恰モ北海道廳長官ノ內務大臣ニ於ケルカ如クナルヲ以テ見レハ臺灣總督ハ地方官ノ特別ナルモノナリト謂フコトヲ得然ルニ又其ノ任命ハ天皇ノ親任ニ出テ其ノ委任ノ範圍內ニ於テ陸海軍ヲ統率シ其ノ管轄區域內ノ防備ノ事ヲ掌リ必要ノ場合ニハ兵力ヲ使用スルコトヲ得又知事ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得ルカ如キノ點ヨリ考フレハ臺灣總督ハ內務大臣ノ下級官府ニ非ス一箇獨立ノ機關トシテ天皇ニ直隷スルモノトセサルヘカラス又臺灣總督府官制ニモ唯『內務大臣ノ監督ヲ承ケ』トアリテ北海道廳官制又ハ地方官々制ニ於ケルカ如ク『指揮監督』ナル文字ナシ是レ內務大臣ハ北海道廳長官及地方官ニ對シテハ指揮ヲ與フルコトヲ得レトモ臺灣總督ニ對シテハ唯監督ヲ爲スニ止マリテ指揮ヲ爲スコトヲ得サルノ意カ然ラハ臺灣總督ノ行爲ニ對シテハ內務大臣ハ唯消極的ニ其ノ行爲ヲ監督スルニ止マリ進ミテ或ル行爲ヲ指令又ハ訓令スル權ナキカ又若シ臺灣總督ノ行爲ニシテ法律命令ニ違反シ若クハ公益ヲ害スル場合ニ於テハ內務大臣ハ如何ニシテ監督ヲ實行セントスルカ凡ソ此等ノ事ハ官制中少シモ規定セラルヽモノナシ蓋シ單純ニ監督權アリト云フトキハ總テ此等ノ關係ハ監督權ノ結果トシテ生スルモノナレトモ一般官制ニハ細カニ此等ノ關係ヲ規定シ臺灣總督官制ニハ何等ノ規定ナキ以上ハ自ラ其ノ間ニ區別ナキ

能ハス卽チ拓殖務大臣ハ臺灣總督ノ行爲ニ對シテハ些ノ容喙干渉ヲ爲スコトヲ得サルモノト解スヘシ是レ豈監督權アリテ其ノ實ナキモノニ非サルヲ得ムヤ

二十九年法律第六十三號ハ憲法ニ違反ス

二十九年法律第六十三號カ臺灣總督ニ與フルニ其ノ管轄區域內ニ法律ノ效力ヲ有スル命令ヲ發スルノ權限ヲ以テシタルニ至リテハ更ニ解シ難キノ事ナリトス法律ノ效力ヲ有スル命令ハ憲法第八條ノ謂ハユル法律ニ代ハル命令ナリトセハ憲法上天皇ノ外其ノ命令ヲ發スルコトヲ得ス又一定ノ場合ニ一定ノ條件ヲ以テセサレハ之ヲ發スルコトヲ得ス而シテ臺灣總督ハ總督府評議會ノ決議ヲ取ルト勅裁ヲ請フトノ二條件ヲ以テ何時ニテモ之ヲ發スルコトヲ得臨時緊急ヲ要スル場合ニハ此ノ二條件ヲ要セスシテ之ヲ發スルコトヲ得此ノ如キハ決シテ憲法ノ旨ニ合ヘリトスルコトヲ得ス若シ臺灣ハ帝國ノ新版圖ナルカ故ニ憲法ヲ適用セスト云ハヽ自ラ別論タリト雖モ旣ニ臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル件ヲ定ムルニ法律ヲ以テスルニ於テハ臺灣ニ對スル統治モ亦憲法ノ條規ニ依ルノ意ハ明白ナリ而カモ尙ホ此ノ如キノ法

律ヲ制定スルハ自家撞着モ亦太甚シカラスヤ此ノ法律ノ施行期限ハ初メ滿三ケ年ト定メラレタレトモ三十二年法律第七號ヲ以テ三十五年三月三十一日マテ其ノ效力ヲ有スルコトヽセリ

臺灣總督府ハ總督官房、民政部、陸軍幕僚及海軍幕僚ヲ以テ組織ス總督官房ハ官長、事務官、參事官、技師、屬、技手、通譯生ヲ置キ官房ニハ副官及專任秘書官ヲ置ク尙ホ陸海軍幕僚ノ編制ハ各令ニ就キテ見ルヘシ（臺灣總督府陸軍幕僚條例、臺灣總督府海軍幕僚條例）

第二　臺灣總督府評議會

八六　臺灣總督府評議會ハ臺灣ニ於ケル特別ノ議事機關トシテ議決權限ヲ有スルカ故ニ總督ヲ離レテ一箇ノ機關ヲ成スモノトス總督、民政長官、陸軍幕僚參謀長、海軍參謀長、參事官長、事務官、參事官ヲ以テ組織シ總督ヲ議長トス尙ホ總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ以上職員ノ外會議ノ事件ニ關係アル文

部官ニ命シテ臨時其ノ議事ニ參與セシムルコトヲ得其ノ職權ハ專ラ二十九年法律第六十三號ニ依リテ定マリタル命令ヲ議決スルニ在リ若シ緊急ノ必要アル場合ニ其ノ議決ニ付セスシテ命令ヲ發スルトキハ總督ハ勅裁ヲ請ヒタル後之ヲ評議會ニ報告セサルヘカラス評議會ノ議案ハ總督之ヲ發シ評議會ハ絕對的ニ發案權ヲ有スルコトナシ其ノ會議ハ總員半數以上ノ出席アルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス議事ノ採決ハ出席員ノ多數決ニ依リ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三臺灣總督府地方官及其ノ他ノ機關

八七 臺灣總督府地方官及其ノ他ノ機關

臺灣地方官ノ組織及權限ハ本土ニ於ケル地方官ノ組織及權限ト同シ故ニ此ニ省略ス尙ホ此ノ外總督ニ隷屬スル機關多シ一々述ヘス

臺灣總督ト獨立シテ特別ノ機關ヲ成スモノハ會計檢查院臺灣支廳トス臺灣地方所在官廳ノ歲入出及官有物ニ關スル計算ヲ檢查スル爲メニ會計檢查院ニ一部ヲ增設シテ之ヲ臺灣ニ置クモノ是レナリ其ノ權限ハ概ネ會計檢查院法ニ依ル(二十九年法律第九十二號同勅令第百六十四號)

第二部 地方行政ノ組織

八八 地方團體ハ土地區劃ニ本ツキテ一定ノ階級ヲ成ス現行法ニ依レハ地方團體ヲ三階級ニ分チ第一府縣第二郡第三市町村トシ町村ハ最下級ノ團體ニシテ郡其ノ上ニ位シ市ハ郡ヨリ獨立シ府縣ハ郡及市ノ上ニ位ス即チ郡ハ町村ノ聯合ニ成リ府縣ハ郡市ノ聯合ニ成ル故ニ町村ノ住民ハ同時ニ町村郡及府縣ノ三團體ニ屬シ市ノ住民ハ同時ニ市及府縣ノ二團體ニ屬ス蓋シ此ノ如ク數段ノ階級ヲ設クル所以ハ多クハ歷史上ノ事由ト行政處理ノ必要トニ出ツルモノニシテ各國ノ制度其ノ揆ヲ一ニスルニ非ス例ヘハ佛國ノ如キハ郡ヲ以テ自治體トセス又普國ノ如キハ町制ト村制トヲ區別セリ要スルニ事務ノ分配ト階級ノ設置トハ各國ノ情態ニ依リテ同シカラスト雖モ町村ハ最下級ノ團體ニシテ府縣ハ最上級ノ團體ナルカ故ニ行政ノ階級ヨリスレハ府縣ノ行政ヨリ說起シテ郡市町村ニ及フヲ順序トス然レトモ地方團體ノ基本ハ市町村ニ存シ之ニ關スル法律モ亦最初ニ發布セラレタリ故ニ余輩ハ各地方團體ノ行政組織ヲ對比スルノ便ヲ計リ先ツ市及町村ノ行政ヲ說明シ然

ル後ニ郡及府縣ノ行政ヲ攷察セムト欲ス而シテ市ト町村トハ大體ノ法規ヲ同シクスルヲ以テ之ヲ合一シテ二者普通ノ法理ヲ網擧セム

第一章　市町村

第一節　市町村ノ組織

第一款　市町村ノ法律上ノ資格

八九　市町村ハ最下級ノ地方自治團體ニシテ公法上ノ人格ヲ有シ又併セテ私法上ノ人格ヲ有ス

第一公法人タル市町村　市町村ハ公法上ノ法人トシテ命令强制ノ權力及行政法上ノ訴訟能力ヲ享有スルコトヲ得

(一)市町村ハ其ノ共同ノ利益ニ關シテハ法律命令ノ範圍內ニ於テ任意ニ之ヲ處理シ其ノ住民ニ對シテ命令權ヲ行使スルカ爲メニ市町村ノ法規ヲ設定スルコトヲ得其ノ法規ニ條例及規則ノ區別アリ條例トハ市町村ノ組織又ハ市町村住民ノ權利義務ヲ規定スル法規ヲ謂ヒ規則トハ市町村ノ營造物ノ組織

及其ノ使用法ヲ規定スル法規ヲ謂フ市町村制ニ依レハ市町村ノ法規設定權ハ規則ト條例トニ於テ大差アリ即チ規則設定ノ權ハ一般ニ亘リ條例設定ノ權ハ制限セラル市町村カ其ノ規則ヲ設定スルニハ唯國家ノ監督ヲ受クルヲ以テ足レトモ條例ハ市町村制ニ明文ナキ場合若クハ明文アルモ亦特例ヲ設クルコトヲ許セル場合(例ヘハ市町村行政機關ノ組織及吏員ノ選擧俸給退隱料又ハ市町村ノ財產管理及其ノ收入徵收等ニ關シ市制町村制第十一條第十四條町村制第三十一條其ノ他各本條ニ市町村條例ノ設定ヲ特許セリ)ニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス(市制町村制第一章第三款)

(二)市町村ハ其ノ境界ノ爭强制豫算處分ノ不服(市制町村制第五條市制第百十八條町村制第百二十二條)其ノ他特別ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許セル事件ニ付キ行政訴訟ノ原告又ハ被告ト爲ルノ能力ヲ有ス其ノ訴訟能力ハ市町村カ公法人タル資格ニ伴フモノニシテ之ヲ私法上ノ訴訟能力ト區別セサルヘカラス而シテ其ノ訴訟ニ於ケル代表者ハ市ニ在リテハ市參事會町村ニ在リテハ町村長トス

第二私法人タル市町村　財産權ノ享有

第二私法人タル市町村　市町村ハ私法上ノ法人トシテ財産上ノ權利及民事訴訟ノ能力ヲ享有スルコトヲ得

(一)市町村ハ固有ノ財産ヲ所有シ法律上一個人ト同シク財産上ノ權利ヲ享有シ又義務ヲ負擔スルヲ得是レ市町村カ一般ニ任意行爲トシテ許サレタル範圍ニ屬ス故ニ其ノ處理ハ唯國家ノ監督ヲ受ケテ之ヲ爲スコトヲ得而シテ其ノ管理處分ニ關スル事項ハ市町村會之ヲ議決シ市參事會町村長之ヲ執行ス(市制、町村制第二條、市制第三十條、第六十四條、町村制第三十二條、第六十八條)

民事訴訟ノ能力

(二)市町村ハ財産能力ヲ有スルノ結果トシテ民事訴訟ノ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得又從ヒテ和解ヲ爲スコトヲ得其ノ訴訟及和解ニ關シテハ市參事會町村長ハ市町村ヲ代表ス其ノ裁判籍及訴訟書類ノ送達ニ關シテハ民事訴訟法ノ規定ニ依ル(民事訴訟法第十四條、第百三十八條)

私法人タル市町村ニ關スル問題

市町村ハ一個人ト均シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ云々』トアリ是レ市町村カ私法上ノ人格ヲ有スト云フノ意ヲ表明シタルニ過キス唯其ノ文字ノ漠然タルカ爲メニ往々疑議ヲ生シ甚シキハ法律上禁止ナキ限リハ一個人ノ爲シ得ヘキ行爲ハ市町村モ亦之ヲ爲スコトヲ得ト誤解シ無制限ニ此ノ規定ヲ適用セムトスルニ至レリ是レ一ニ公法人ノ性質ニ付キテ正確ナル見解ヲ缺キタルニ由ラスムハアラス

市町村ハ營利事業ヲ爲シ得ルカ

一個人ニ非スシテ法律上財産權ノ主體タルコトヲ得ルモノヲ民法上ノ法人トス故ニ民法上ノ法人ハ苟モ法律上ノ制限ニ觸レサル以上ハ自由ニ財産法上ノ行爲ヲ爲シ又自己ノ存立ノ爲メニ私利ヲ營ムコトヲ得然レトモ市町村其ノ他ノ公法人ニ至リテハ之ニ異ナリ等シク財産權ノ主體タリト雖モ其ノ財産權ハ團體公共ノ目的ノ爲メニ之ヲ享有シ其ノ目的以外ニハ財産法上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス法律ニ禁止ナキ以上ハ一個人ノ爲シ得ヘキ營利事業モ亦之ヲ爲シ得ルノ權能アリト解スルハ誤レリ故ニ市町村制ニモ『凡市町村ハ公共ノ事務ハ云々』トアリテ市町村ノ財産法上ノ行爲モ亦公共ノ目的ヲ以テセラルヘキコトハ明白ナリ(明治二十八年六月十八日行政裁判所判決例ヘハ水道ヲ敷設シテ上水ヲ供給シ馬車鐵道電氣鐵道等ヲ敷設シテ交通ノ利便ヲ圖ルカ如キハ固ヨリ市町村ニ於テ損失ヲ豫期シテ之ヲ爲スニ非ス必ス一定

ノ使用料ヲ徴收シテ其ノ事業ノ收入トスルカ故ニ一個人ノ營業ト相似タリト雖モ市町村カ其ノ事業トシテ行フハ公共ノ利益ヲ目的トシ營利ヲ目的トスルニ非サルナリ又例ヘハ市町村所有ノ山林ヲ賣却シテ他ノ利益アル財産ニ買換フルカ如キモ亦市町村ノ收入ヲ圖ルノ方法トシテ之ヲ爲スコトヲ得乃チ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ有價物ヲ轉換スルノ行爲タルカ故ニ一個人ノ行フ商行爲ト相似タリト雖モ市町村ノ財產處分ハ公共ノ事業ニシテ營利ヲ目的トスルニ非サルナリ之ニ因リテ得タル利益ハ公共ノ利益ニシテ一個人ノ私利ニハ非サルナリ然ラハ市町村ハ當ニ營利事業ヲ爲スコト能ハサルノミナラス單獨ノ商行爲ト雖モ亦之ヲ爲スコト能ハス大審院ノ最近判決例カ法律ニ禁止ナキヲ以テ市町村モ亦商行爲ヲ爲スコトヲ得トシタルハ假令ヒ事實ノ判斷ニ於テ誤ラストスルモ法律ノ解釋ニ於テ誤レリト謂ハサルヲ得ス(三十二年九月二十七日大審院判決)

市町村ハ商行爲ヲ爲シ得ルカ

市町村ハ無償行爲ヲ爲シ得

市町村ハ寄附又ハ補助等ノ無償行爲ヲ爲シ得ルヤ問題ナリ例ヘハ市町村カ國道府縣道ノ修築ノ爲メニ寄附金ヲ爲シ學校(國立ノ)又ハ兵營ノ建設ノ爲メニ土地若クハ金錢ヲ寄附スルカ如キハ實際屢行ハルヽ所ナリ然レトモ此ノ如キハ法律上正當ノ行爲ト看做スコトヲ得ス蓋シ國家及地方團體ノ任務ハ互ニ相關聯スルカ故ニ其ノ任務トシテ行フ事業ハ皆公共ノ事業ニ非サルハナシト雖モ其ノ任務ハ各所屬ヲ分チテ相案レス國家及上級地方團體ノ任務ニ屬スル事業ヲ以テ之ヲ市町村ノ公共事業トスルコト能ハス國道府縣道ノ修築ハ其ノ沿道市町村ノ利益ト爲リ學校又ハ兵營ノ建設カ其ノ建設地タル市町村ノ利益ト爲ルコトハ蓋シ之アラン然レトモ唯是レ社界上經濟上ノ問題タルノミ其ノ利益ヲ受クルノ一事ヲ以テ直ニ之ヲ市町ノ公共事務トスルハ妄ナリ又[國家ハ姑ク之ヲ舍キ府縣郡市町村カ無償行爲ヲ爲シ得ヘキ權能ハ法律ニ之ヲ明記スルヲ原則トス法律ハ府縣郡ニ此ノ權能ヲ與ヘタレトモ尙ホ官ノ許可ヲ受クルヲ條件トセリ(府縣制第百一條、第百三十三條、郡制第八十八條、第百十六條)而シテ市町村制ニハ何等ノ規定アルヲ見ス故ニ假令ヒ公益ニ關スル場合ニ於テモ市町村ハ原則トシテ他ノ公法人又ハ一私人ニ對シテ無償行爲ヲ爲スノ權能ナシト解スルヲ至當ト

市町村ノ財産ヲ差押フルコトヲ得ルカ

ス唯法律ニ特別ノ規定アル場合ハ然ラス市町村モ亦其ノ法律ニ定メタル條件ニ從ヒ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得例ヘハ河川ニ關スル工事若クハ費用ノ寄附又ハ補助ノ如キハ是レナリ(河川法第三十五條、第三十六條)行政裁判所カ縣道改築ヲ以テ市町村ノ公共事業ト見做シ其ノ事業ニ關スル寄附金ヲ市町村必要ノ支出トシタルハ誤レリ(二十九年五月行政裁判所判決)

市町村ノ財産ハ之ヲ差押フルコトヲ得ルカ此レ又考察ヲ要スル問題ナリ此ノ問題ハ獨リ市町村ニ關スルノミナラス廣ク公法人ニ關スレトモ此ニ便宜ノ爲メニ一言セム夫レ一私人若クハ私法上ノ法人ニ對シテハ裁判所カ民事訴訟法ノ規定ニ依リ債務ノ强制執行ノ爲メニ財産ヲ差押フルコトヲ得ルハ言ヲ待タスト雖モ民事訴訟法ニ例外ヲ示サヽルノ故ヲ以テ直ニ公法人ノ財産モ亦差押處分ヲ免レスト解スルハ不可ナリ蓋シ國家ハ法律上正直ニシテ且ツ有資力ナリト推定セラル此ノ推定ハ同性質ノ地方團體ニモ之ヲ適用シ得ヘシ佛國ノ如キハ國家及地方團體ノ財産ヲ差押フヘカラサルコトヲ裁判所及參事院ノ判決例ニ依リテ確認セリ此ノ判決例ハ元來佛國ノ法律上國家ノ財産ハ議會ノ承諾ナクシテ讓與スルコトヲ得ストノ規定アルニ由リテ出タルカ如シト雖モ此ノ規定ノ有無ハ必スシモ公法人ノ財産差押ノ問題トハ相關セス國家及地方團體ノ債務執行ニ付キテハ元來二箇ノ原則アリテ强制執行ノ處分ト相容レス一ハ會計法上ノ原則ニシテ該法上仕拂命令ト金錢ノ出納トハ之ヲ區別シ仕拂命令ナケレハ金錢ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス故ニ債權者ハ裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ承認セラルヽモ債務ノ辨濟ヲ受クルニハ先ツ仕拂命令ノ下付ヲ請求セサルヘカラス一ハ財產處分上ノ原則ニシテ國家及地方團體ノ財產處分ハ法律上一定ノ條件ヲ要スルコト例ヘハ市町村財產ノ處分ハ市町村會ノ議決ニ依リ又或ル場合ニハ更ニ官ノ許可ヲ受クルヲ要スルカ如シ故ニ裁判所ハ假令ヒ之ヲ差押フルコトヲ得トスルモ其ノ差押ヘタル財產ハ裁判所ノ處分ニ付スヘキニ非ス乃チ其ノ差押ハ法律上何等ノ效力ナキモノナリ法律上ノ效力ナキ差押ハ以テ强制執行ノ方法トスルコトヲ得ス然ラハ民事訴訟法ノ差押フヘカラサル財產中ニ公法人ノ財產ヲ揭ケスト雖モ公法人ノ性質上其ノ財產ハ差押フヘカラスト解釋セサルヲ得ス

普通行政區劃タル市町村

九〇 市町村ハ最下級ノ自治團體タルト同時ニ最下級ノ普通行政區劃タリ故ニ市町村ノ行政機關ハ市町村ノ行政ヲ施設スルノ外又其ノ區劃内ノ國家ノ行政ヲ施設セサルヘカラス世ノ學者ハ往々此ノ行政上ノ關係ヲ誤認シテ市町村カ公法人トシテ自己ノ行政トヲ處理スルカ如ク思惟スルモノアリ然レトモ地方團體ノ行政ハ地方行政ニシテ普通行政ニ非ス唯地方團體ノ機關ハ地方行政ト普通行政トヲ兼掌スルノミ市町村ハ普通行政區劃トシテ自ラ國家ノ行政ヲ行フコトナシ市町村ノ行政機關ハ直接ニ國家ノ委任ヲ受ケテ國家ノ行政ヲ行フモ市町村ハ其ノ委任ヲ受クルニハ非サルナリ

第二款、市町村ノ基礎

第一土地區域ノ訴訟

第二款 市町村ノ基礎

市町村ハ土地及住民ノ二元素ヲ以テ組織セラル

第一 市町村ノ土地

九一 土地ハ市町村ノ區域ヲ示スモノニシテ自治權ノ範圍ト爲リ又同時ニ國家ノ行政區劃ト成ル故ニ各市町村ハ其ノ土地ノ區域ニ關シテハ他ノ區

市町村ノ土地ノ變更

甲市町村ノ境界ノ變更

町村ノ侵害ヲ受ケサルノ權利ヲ有ス若シ此ノ權利ヲ侵害スルモノアルトキハ公法上ノ訴訟トシテ行政裁判ノ救濟ヲ求ムルコトヲ得(市制、町村制第五條)

九二 市町村一タヒ成立スレハ妄ニ其ノ土地ヲ變更セサルヲ原則トス然レトモ種々ノ事情ノ爲メ其ノ成立後ニ於テ土地ノ變更ヲ要スル場合ナシトセス其ノ變更ニ二樣アリ一ハ市町村ノ區域ノ伸縮ニ關スルモノニシテ之ヲ市町村境界ノ變更ト謂ヒ一ハ市町村ノ區域ノ伸縮ニ止ラス其ノ存廢ニ關スルモノニシテ之ヲ市町村ノ廢置分合ト謂フ(市制、町村制第四條)

甲、市町村ノ境界ノ變更　市町村ノ境界ヲ變更スルハ市町村全體ノ利害ニ關シ又特ニ土地所有者ノ利害ニ關ス故ニ其ノ變更ヲ爲スニハ關係アル市町村會及關係アル地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ス然レトモ關係市町村會及地主ノ意見ヲ聞クハ唯參考ノ爲メニスルニ止リテ郡參事會及府縣參事會ハ固ヨリ其ノ意見ニ拘束セラルヽノ義務ナシ故ニ通常ノ場合ニハ固ヨリ其ノ意

市町村ノ廢置分合

見ヲ容レテ專斷ノ行爲ヲ避クルヲ可トスレトモ若シ其ノ境界ノ變更ニ依リテ有力ナル市町村ヲ組織シ得ルカ如キ場合ニハ關係者ノ異議ニ拘ラスシテ之ヲ斷行スルコトヲ得

乙、市町村ノ廢置分合　廢置ト云ヒ分合ト云フモ理論上唯一ノ廢置タルニ過キス今此ノ場合ヲ擧クレハ(イ)一若クハ數多ノ市町村ノ一部分ヲ分割シテ一ノ新ナル市町村ヲ成ス場合(ロ)一ノ市町村カ分割セラレテ二以上ノ新ナル市町村ヲ成ス場合(ハ)一ノ市町村ト合併スル場合(ニ)二以上ノ市町村カ相合併シテ新ナル一ノ市町村ヲ成ス場合ノ四種アリ皆一市町村ヲ廢シ又ハ一市町村ヲ置クニ外ナラス唯此等ノ場合ニ於ケル法律上ノ結果ハ多少差異ナキヲ得ス(イ)及(ハ)ノ場合ニハ分割又ハ合併セラタル市町村ハ其ノ分割又ハ合併ノ爲メニ新ニ成立スルモノナレトモ其ノ根本タル市町村ハ依然トシテ舊來ノ成立ヲ保續ス(ロ)及(ニ)ノ場合ニハ分割セラレ又ハ合併シタル市町村ハ共ニ其ノ分割又ハ合併ノ當時ヨリ新ナル關係ヲ生シ舊來ノ市町村ハ全ク其ノ成立ヲ失フ

第二住民ノ意義

市町村ノ廢置分合ハ市町村全體ノ利害ニ關シ又同時ニ國家ノ利害ニ關ス故ニ關係市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聽キテ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ行フ然レトモ市町村ノ力貧弱ニシテ自治行政ノ運轉ニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ法律ハ關係者ノ異議ニ拘ハラス府縣參事會ヲシテ市町村ノ合併ヲ斷行スルノ自由ヲ有セシメタリ公益上ノ必要トハ蓋シ有力ナル市町村ノ組織又ハ維持ニ關スル必要ト云フノ意ナルカ如シト雖モ頗ル漠然ニ失シ府縣參事會ニ過大ノ權力ヲ與フルノ恐アリ而シテ法律ハ特ニ合併ノ場合ノミヲ規定シタレハ府縣參事會ハ市町村ノ分割ニ關シテハ如何ナル場合ニモ之ヲ斷行スルノ職權ヲ有セスト解セサルヘカラス

第二　市町村ノ住民

九三　市町村ノ住民トハ其ノ市町村內ニ住居ヲ占ムル人民ヲ謂フ故ニ苟モ其ノ市町村ニ住居ヲ占ムル者ハ本籍ト寄留トヲ問ハス齊シク之ヲ住民トス然レトモ住居ヲ占ムルトハ如何ナル事實ヲ指スカハ市町村制ニ規定ナク又理由書ニモ別ニ法令ヲ以テ制定スルコトヲ期スルカ如シ而シテ今尙ホ之

ニ關スル法令アルヲ見ス從ヒテ住居、ト滯在トノ區別ヲ明確ニスルコト甚タ難シ唯實際ノ取扱トシテハ多少永留ノ實跡アルヲ以テ住居ト認ムルカ如シト雖モ滯在ノ久シキニ亘ルモノ必スシモ之ヲ住居トスルヲ得ス例ヘハ學生カ修業ノ爲メニ滯在スルカ如キハ如何ニ其ノ時日ノ長キモ以テ住居トスルヲ得ス故ニ或ハ在留ノ市町村ニ土地家屋ヲ所有スルカ如キ又ハ一定ノ營業ヲ爲スカ如キ條件ヲ標準トシ其ノ實際ノ事情ニ依リテ住民籍ノ有無ヲ決スル外ナカルヘシ

住民ノ種類

民法總則中住所ニ關スル規定アリ之ニ依レハ民法上各人ノ生活ノ本據ヲ以テ住所トシ住所ノ知レサル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所トス卽チ住所ハ一人一箇ナルコトハ民法ノ精神ナルニ似タリ然ニ市町村制ハ一人ニシテ二箇以上ノ住所ヲ有スルコトヲ認容セリ市制、町村制第九十五條ニ「數市町村ニ住居ヲ構ヘ云々」トアルヲ以テ知ルヘシ卽チ一人ニシテ二箇以上ノ市町村ノ住民籍ヲ有スルモ亦妨ナシ故ニ假令ヒ民法ノ規定ニ依ルモ市町村ノ住民籍ニ關スル疑義ハ末タ容易ニ之カ爲メニ解クルコトヲ得サルナリ(民法第二十一條、第二十二條)

住民ヲ分チテ公民及普通住民ノ二種トス

九四

公民トハ市町村住民中其ノ市町村ノ公務ニ參與スルノ權利ヲ有シ又義務ヲ負フ者ニシテ法律上一定ノ條件ヲ具フルニ依リテ其ノ資格ヲ享有スルコトヲ得法律上ノ條件左ノ如シ

(一)帝國臣民タルコト　公民權ハ公法上ノ權利ニシテ參政權ノ之ニ伴フモノナルヲ以テ國民籍ヲ有スルニ非サレハ之ヲ取得スルコト能ハサルハ明白ノ理タリ卽チ帝國臣民ニ非サル者及外國臣民ハ其ノ市町村内ニ居住スルコトヲ得ス如何ニ久キニ亘ルモ公民タルコトヲ得

(二)公權ヲ有スル獨立ノ男子タルコト　獨立ノ男子トハ滿二十五歲以上ニシテ一戶ヲ構ヘ且ツ治產ノ禁ヲ受ケサル者ヲ謂フコトハ立法者ノ自ラ與ヘシ解釋ニ依リテ明カナリ而シテ此ニ一戶ヲ構ヘトアルハ戶主タルノ意ニ非ス戶主ニ非サル者ト雖モ公民タルコトヲ妨ケス又此ニ公權ヲ有ストアルハ刑法ニ謂ハユル公權ヲ剝奪セラレサルノ意ナリト解釋シテ可ナラム

(三)二年以來其ノ市町村ノ住民タルコト　及其ノ市町村ノ負擔ヲ分任スルコト　後ニ普通住民ノ資格ニ關シテ爲ス所ノ說明ヲ參照セヨ

(四)二年以來其ノ市町村ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルコト　直接國稅ノ何タルコトヲ法律ニ定メタルモノナシ唯明治二十一年大藏省告示第九十五號及追加告示ヲ以テ地租所得稅及營業稅ノ三種ト定メタリ而シテ公民取得ノ條件タル地租額ニハ制限ナシ如何ノ少額ヲ納ムル者ト雖モ納稅資格ヲ充タスコトヲ得故ニ二圓以上ノ直接國稅ハ所得稅及營業稅ニノミ適用セラルト解セサルヘカラス然ルニ現行法ノ所得稅ハ三圓ヲ最低額トスレハ年額二圓ノ直接國稅ハ唯營業稅ニ付キテ適用ヲ見ルノミ此ニ又最モ注意ヲ要スルハ公民資格ハ納稅義務負擔ノ事實ト相伴フノ一事トス即チ實際二年以來定額ノ租稅ヲ納付セシ者ニ公民權ヲ與ヘテ其ノ租稅ノ賦課セラルヘキ財產ヲ所有スルト否トヲ問ハス故ニ例ヘハ地租ノ第一納期ト第二納期トノ間ニ一旦土地ヲ賣却シ數日ノ後再ヒ買得セシ者アリトセハ土地所有ノ事實ハ中斷スルモ納稅ノ事實ハ繼續スルカ故ニ公民資格ヲ得ルノ條件ニ於テ缺クル所ナシ又例ヘハ質入地ノ地租ハ質權者ノ負擔ニ歸スルヲ以テ地租條例第十二條質權者ハ土地ノ所有者ニ非スト雖モ其ノ納稅義務負擔ノ結果トシテ公民權ヲ取得スルコトヲ得サルヘカラス

(五)二年以來公費ノ救助ヲ受ケサルコト　此ノ條件ノ解釋ニ關シテモ頗ル疑義アリテ一時世上ノ問題ト爲レリ或ハ曰ク公費トハ特ニ市町村ノ公費ヲ指スト或ハ曰ク然ラス地方稅及備荒儲蓄ノ救助ヲモ包容スト余輩以爲ヘラク皆非ナリト抑モ此ニ謂ハユル救助トハ貧民救助ノ事タルヤ明ケシ何トナレハ市町村制ノ精神ハ自立ノ生活ヲ爲ス能ハサル住民ニ公民權ヲ與フルハ自治ノ旨趣ト悖戻スト云フニ在ルヘケレハナリ故ニ天災若クハ其ノ他不可抗力ノ爲メニ公費ノ救助ヲ受クル場合ヲ想像セス隨ヒテ備荒儲蓄金ノ救助ヲ受ケ又ハ疫癘若クハ海難ニ際シテ地方稅ノ衞生費若クハ難破船費ノ救助ヲ受クルモ公民權ノ得喪ト相關セス殊ニ備荒儲蓄ハ强制保險ノ性質ヲ有シ其ノ救助ハ即チ保險金ヲ受クルモノニシテ固ヨリ之ヲ普通ノ救助ト同一視スヘカラス故ニ公費ノ救助ヲ一般ニ推及セムトスルハ謬レリ然レトモ現行法ハ獨逸ノ制度ニ於ケルカ如ク貧民救助ヲ以テ市町村ノ義務ト爲スモノト異ナリ寧ロ府縣ノ負擔トシテ地方稅目中ニ救育費ヲ設ケタリ故ニ假令ヒ市

町村カ其ノ公費ヲ以テ救助事務ヲ行フモノアリト雖モ公費ノ救助ハ必スシモ之ヲ市町村ノ公費ノミニ限ルヘカラス要スルニ通常貧民救助ノ目的ヲ以テセラレタル公費ハ皆此ニ謂ハユル公費ノ中ニ包容セラルヽモノトス

公民權取得ノ特別ナル方法

九五 以上ハ公民權取得ノ普通ノ方法ナリ尚ホ此ノ他一ノ特別ナル方法アリ即チ公民ニ非サルモノニシテ市町村長、助役、收入役ニ選任セラレタルトキハ同時ニ其ノ市町村ノ公民タルコトヲ得(市制第五十三條、第五十八條、町村制第五十六條第六十二條)

公民權ノ消滅及停止

九六 公民權ハ前述普通ノ取得條件ノ一ヲ缺クトキハ消滅シ又特別ナル原因即チ市町村ノ公職ニ任シタルノ故ヲ以テ得タル公民權ハ其ノ退職ノ場合ニ若シ普通ノ取得條件ヲ具ヘサレハ退職ト共ニ消滅ス

公民ハ其ノ公民權ヲ喪失セサルモ一時其ノ行使ヲ爲ス能ハサルコトアリ之ヲ公民權ノ停止ト謂フ其ノ場合ハ市制、町村制第九條第二項(二十八年法律第六號改正法律參照)第八條第三項ノ場合ニシテ即チ法律ニ特定セル理由ナクシテ公民カ市町村ノ名譽職ヲ辭退セシ場合ナリ蓋シ市町村ノ公職ハ名譽職ヲ原則トシ其ノ名譽職ニ任セラルヽハ公民ノ權利タルト同時ニ又其ノ義務タル所以ハ專ラ此ニ存ス

公民權ニ關スル救濟

九七 公民權ノ得喪及停止ハ直接ニ公民ノ資格ニ關係スルモノナルカ故ニ之ニ關スル處分ニ對シテハ救濟ノ道ナカルヘカラス故ニ一定ノ條件ニ依リテ訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

普通住民

九八 普通住民トハ公民ニ非サル一切ノ住民ヲ總稱ス其ノ權利ハ市町村制ノ規定スル所ニ從ヒ市町村ノ造營物竝ニ市町村有財產ヲ共用スルニ存シ其ノ義務ハ市町村ノ負擔ヲ分任スルニ存ス然レトモ負擔分任ノ義務アルハ必スシモ住民ニ限ラス法律ハ特ニ市町村ノ利益ヲ受クト認メテ住民ニ非サルモノニモ尚ホ此ノ義務ヲ負ハシムルコトアリ(市制、町村制第九十二條第十三條)

住民權ニ關スル救濟

九九 住民ノ權利モ亦公法上ノ權利ニシテ市町村又ハ行政官廳ハ妄リニ之ヲ侵害スヘカラス故ニ其ノ侵害ニ對シテハ訴願及訴訟ノ道ヲ與フ唯現行

法ノ解釋トシテハ前ニ述ヘタルカ如ク住民籍ヲ定ムルノ標準確定セサル故ニ各場合ノ事情ト條理トニ依リテ其ノ訴願ノ裁決及訴訟ノ裁判ヲ爲スノ外ナカルヘシ(市制第三十五條、町村制第三十七條)

第三款、市ト町村トノ組織ノ差異

第三款　市ト町村トノ組織ノ差異

一〇〇　市ト町村トハ人口ノ多寡ヲ標準トシテ區別シタルモノニシテ歐洲諸國ニ於テ歷史上ノ發達ニ依リテ區別アルトハ其ノ趣ヲ異ニス即チ我カ現今ノ制度ハ人口二萬以上ノ都會ニハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指定ヲ以テ市制ヲ施行シ市制ヲ施行セサル地ニハ悉ク町村制ヲ施行スルコトヽ爲レリ(市制第百二十六條、町村制第一條)然レトモ既ニ其ノ編成ヲ異ニスル以上ハ固ヨリ其ノ行政上ニ多少ノ差異ナキヲ得ス今市制町村制ノ定ムル所ニ從ヒテ其ノ差異ヲ指摘スレハ

第一、町村ハ郡ヲ組織スル元素タレトモ市ハ郡ヨリ獨立ス

第二、其ノ位地ノ異ナルカ爲メニ行政監督ノ順序ヲ異ニス

第三、市會ノ撰擧ハ三級撰擧法ニ依ル町村會ノ撰擧ハ二級撰擧法ニ依ル

第四、市ノ理事機關ハ合議制ニシテ町村ノ理事機關ハ單獨制ナリ

第五、町村長ハ町村會之ヲ撰擧シ市長ハ市會ノ推薦ニ依リ勅裁ヲ經テ之ヲ任ス

第四款、市町村ノ特別組織

第四款　市町村ノ特別組織

市町村ノ特別組織トハ市町村內ノ自治區及町村組合ノ組織ヲ指ス東京、京都、大阪三市ニ於ケル特別市制ハ三十一年法律第十九號ニ依リテ廢止セラレタリ

第一　市町村內ノ自治區

第一市町村內ノ自治區

一〇一　市町村ノ區域廣濶人口稠密ノ處ハ一定ノ區ヲ分チ區長又ハ代理者ヲ置キ市町村長ニ隷屬シテ其ノ區內ノ行政ヲ爲サシムルコトアリ(市制第六十條、町村制第六十四條)然レトモ此ノ如キハ唯行政ノ便宜ニ出テタル區劃ニシテ固ヨリ特立ノ團體ヲ組成スルニ非ス然ルニ市町村內ノ或ル區劃カ特別ニ組合ヲ組織シテ特別ノ財產ヲ所有シ若クハ特別ノ造營物ヲ設ケテ其ノ費用ヲ組合ノ負擔ニ歸スルトキハ其ノ區劃ハ行政ノ便宜ニ出テタルモノト

ハ全ク其ノ性質ヲ異ニス府縣參事會又ハ町村會ノ意見ヲ聞キ其ノ區劃ヲシテ財產及造營物ニ關スル事務ヲ議決スルカ爲メニ特別ノ機關ヲ設ケシムルコトヲ得此ノ種ノ區劃ハ或ハ舊來ノ慣例ニ依リテ成立シ或ハ數町村ノ合併若クハ市ト町村トノ合併ニ依リテ新ニ起生スルヲ通常トス(市制、町村制第九十九條、市制第百十三條、町村制第百十四條)而シテ其ノ議決機關ニ依リテ議決セラレタル事務ノ執行ハ出納及會計ノ事務ヲ除ク外ハ市町村ノ理事機關(市參事會及町村長)ノ義務トシテ之ヲ管理セサルヘカラス(市制第百十四條、町村制第百十五條)此ノ如ク市町村內ノ一區劃カ特別ノ財產ヲ有シ特別ノ機關ヲ設ケテ其ノ財產ニ關スル議決ヲ爲サシムルモノヲ稱シテ市町村內ノ自治區トス從ヒテ其ノ財產ハ市町村財產ト獨立シ市町村ハ假令ヒ其理事機關ヲシテ之ヲ管理セシムルノ義務アルモ其ノ處分ニ關シテハ些モ干涉スルヲ得ス

市町村內ノ一區劃カ財產ヲ所有スルモ特別ノ機關ヲ設ケテ之ヲ處理セサルトキハ其ノ區劃及其ノ財產ノ法律上ノ地位如何第一說ニ曰ク此ノ場合ノ區劃ハ法人ニ非ス故ニ其ノ財產ハ共有財產タルニ過キスト第二說ニ曰ク其ノ區劃ハ法人ニ非ス然レトモ其ノ財產ハ共有財產ニ非スシテ市町村有財產ノ一部分ナリト第三說ニ曰ク其ノ區劃ハ法人タリ從ヒテ其ノ財產ハ法人ノ財產トシテ特別ノ性質ヲ有スト市町村制理由書ハ此ノ點ニ關シテハ甚曖昧ナリト雖モ此等ノ區劃ヲ以テ獨立ノ權利ヲ有スト解スルヲ至當トス然カレトモ其ノ權利ハ單純ナル財產上ノ權利ニ過キス一箇ノ自治團體トシテ自治權ヲ有スルニハ非ラス廼チ第三說ノ如ク其ノ區劃ハ法人ニシテ其ノ財產ハ法人ノ財產ナリ蓋シ私法上法人トハ財產ノ主體ナリト云フヲ以テ最モ正當ナリトセハ法律カ或ル團體ノ所有財產ヲ認ムルトキハ其ノ團體ハ法人ナリト謂ハサルヘカラス從ヒテ市町村制ノ明文ニ於テ市町村ノ一部分カ財產ヲ所有シ得ルコトヲ認ムル以上ハ縱令ヒ自治機關ヲ設クルニ至ラストモ私法上ノ法人タルコトハ論理ノ必至スル所ナリ然ラハ其ノ財產ハ單純ナル共有財產ニ非ス又固ヨリ市町村有財產ノ一部分ニ非ラス其ノ財產ノ所有者タル一區劃自己ノ利益ノ爲メニ其ノ財產ヲ侵害セラレサルノ權利ヲ有セサルヘカラス

第二　町村組合

一〇二 町村組合ハ町村ニ特殊ナル組織ニシテ或ハ關係町村ノ協議ニ成ルモノアリ或ハ國家ノ強制ニ出ツルモノアリ蓋シ町村單獨ノ資力カ其ノ公務ヲ處理スルノ負擔ニ堪ヘス若クハ他ノ町村ト結合シテ之ヲ處理セシムルヲ公益上ノ必要アル場合ニハ關係者ノ異議ニ拘ハラスシテ町村ノ合併ヲ命スルコトアルハ既ニ述ヘタルカ如シ然レトモ事情ニ依リテハ合併ヲ命スルコト能ハス又ハ却テ之ヲ不便トスル場合ナキニ非サレハ強ヒテ其ノ合併ヲ命セス之ヲ各箇獨立ノ町村トシテ町村一切ノ事務若クハ或ル特殊ノ事務ヲ共同處理セシムルカ爲メニ一箇ノ組合ヲ設クルコトヲ許シ又之ヲ設ケシム此ノ組合ヲ稱シテ町村組合ト云フ故ニ此ノ組合ニハ二種アリ町村一切ノ事務ヲ處理スル組合及或ル特殊ノ事務ノ組合是レナリ例ヘハ町村學校組合町村連合水利土功組合(明治二十六年勅令第三十三號、二十二年法律第十一號)ノ如キハ特殊ノ事務ノ爲メニ設クル所ノ組合トス組合會議ノ組織、事務管理及費用支辨ノ方法等ハ協議的組合ト强制的組合トニ依リテ其ノ設定權ニ差異アリ協議的組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リテ設定セラレ強制的組合ハ郡參事會ヲシテ之ヲ決セシム(町村制第百十六條、第百十七條、小學校令第二十七條)

第二節 市町村ノ機關

第一款 市町村會

乾 組織及選擧

一〇三 市會ハ市會議員ヲ以テ組織シ町村會ハ町村會議員ヲ以テ組織ス其ノ議員ノ定數ハ市ニ於テハ三十人以上六十人以下トシ町村ニ於テハ八人以上三十人以下トシ其ノ定限内ニ於ケル增減ハ各市町村ニ於テ條例ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得(市制、町村制第十一條)然レトモ市町村ニシテ公民ノ數僅少ナル處ハ郡參事會ノ決議ヲ經テ代議會ヲ設ケス町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得(町村制第三十一條)

一〇四 市町村會議員ノ選擧權ハ市町村公民之ヲ有スルヲ原則トス然レトモ是ニハ二樣ノ例外アリ(一)公民權ヲ停止セラレタルモノ(市制、町村制第八條第三項、第九條第二項)及職務上參政權ナキモノ(第九條第三項)ハ假令ヒ公民

籍ヲ有スルモ其ノ權利ヲ行使スル能ハサルカ故ニ其ノ原因ノ繼續スル間ハ選擧權ヲ有スルコトヲ得ス(二)公民ニ非サルモノト雖モ其ノ市町村ニ於テ一定ノ直接市町村稅ヲ納ムル者ニ對シテハ法律ハ其ノ市町村ト利害ノ關係大ナルコトヲ認メテ之ニ選擧權ヲ與ヘタリ(第十二條第二三項)而シテ此ノ資格ヲ有スルモノハ能力者ニ限ラス又有形人ニ限ラス未成年者又ハ女子ト雖モ若クハ法人ト雖モ代人ヲ以テ其ノ選擧權ヲ行フコトヲ得

選擧權ハ平等均一ニ非ス納稅額ニ依リテ差等ヲ設ケ以テ選擧人ノ負擔ト相伴ハシムル之ヲ等級選擧ノ法トス(市制、町村制第十三條)蓋シ從來諸國ノ制度ヲ攷フルニ普通選擧ヲ用キテ選擧人ニ平等ノ權利ヲ與ヘ財產上ノ差等ヲ設ケサルモノアリ又等級選擧法ヲ用キテ選擧人ノ投票權ニ納稅ノ多寡ニ本ツケル階級ヲ附スルモノアリ佛國ノ制度ハ第一ニ依リ英國若クハ普國ノ制度ハ第二ニ依ル(但英國ト普國トハ其ノ等級制度ノ趣ヲ異ニス英國ハ租稅ノ多寡ヲ以テ投票數ニ等差ヲ置キ普國ハ唯之ヲ等級ヲ分ツノ標準トシテ各級平等ノ選擧權ヲ與フ)我カ市町村制モ亦第二ノ選擧法ヲ採用シ市町村納稅總額ヲ

定メテ之ヲ一定ノ等級ニ平分シ選擧人ノ納稅額ニ本ツキテ順次ニ其ノ多額ナルモノヨリ編入シ其ノ各級ニ平等ノ選擧權ヲ行ハシム以テ多數人民ヲシテ少數ノ財產家ヲ壓倒スルノ弊ヲ防カムトナリ卽チ市ニ於テハ三級ニ分チ町村ニ於テハ二級ニ分チ各級同數ノ議員ヲ選擧セシム然レトモ被選人ハ必ス同級內ノ者ニ限ラス他級ヲ通シテ選出スルコトヲ得何トナレハ議員ハ全市町村ヲ代表シ等級ヲ代表スルニ非サレハナリ其ノ市ト町村トニ於テ分級ノ簡繁ヲ異ニスルハ經濟上ノ實情ニ原由スルモノナリ故ニ若シ町村ノ區劃大ニシテ納稅者ノ差等繁ク或ハ其ノ區劃小ニシテ納稅者ノ差等著シカラサル土地ニハ法律ハ或ハ三級選擧法ヲ設ケ或ハ等級選擧法ニ依ラサルノ特例ヲ與ヘテ以テ一定ノ分級ヲ固執セス(第十四條)

一〇五 被選擧權ヲ有スルモノハ必ス其ノ市町村ノ公民ニ限リ又市町村公民ハ總テ被選擧權ヲ有ス故ニ公民籍ハ被選擧資格ノ必要條件ニシテ選擧資格ニ於テ唯通常ノ條件タルモノトハ異ナレリ然レトモ之ニ依リテ公民籍ヲ有スル者ハ盡ク議員タルコトヲ得ト解スヘカラス議員ノ性質ト牴觸スル

ルコトヲ得サル者

業務ヲ執ル者ハ議員ノ職務ヲ行フコトヲ得ス(市制、町村制第十五條)其ノ制限ヲ擧クレハ

(一)地方監督官廳ノ官吏　茲ニ官吏トアルハ現職ノ官吏ト解スヘシ休職ノ官吏ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケテ議員ト爲ルヲ妨ケス

(二)有給ノ市町村吏員

(三)檢察官及警察官　故ニ判事ハ市町村會議員タル資格アルカ如ク見ユレトモ特別法ニ依リテ禁セラレタリ(裁判構成法第二十七條)蓋シ檢察官及警察官ニ此ノ制限ヲ附セルハ其ノ司法事務ニ干與スルカ爲メナリトセハ判事ハ殊ニ此ノ制限ヲ受ケサルヘカラス市町村制ノ之ヲ揭ケサリシハ寧ロ脫漏ナルナカラムカ

(四)神官僧侶及其他諸宗教師　耶蘇教各流ノ宣教師ニ關シテハ我カ國法上未タ一定ノ分限及取締法ヲ定メタルモノアルヲ見ス故ニ法律上耶蘇教宣教師ノ分限ヲ知ルニ由ナシ從ヒテ此ノ制限ニ觸レサルモノト解釋スルヲ妥當トス

(五)小學校教員

此ノ他官吏ニシテ當選ニ應セムトスル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘク又父子兄弟ノ緣故アルモノハ同時ニ議員タルヲ得ス市參事會員、町村長、及助役ト父子兄弟ノ緣故アルモノハ之ト同時ニ議員タルコトヲ得ス是レ職務上又ハ身分上ノ關係ヨリ生スル制限ナリ代言人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其ノ他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業トスルモノハ議員ニ選擧セラルヽコトヲ得ス是レ特ニ其ノ人ノ品位ニ對スル制限ナリ

一〇六　選擧ハ全市町村ヲ通シテ之ヲ行フヲ通則トス然レトモ區域廣濶人口稠密ノ市ハ全市ヲ通シテ選擧ヲ行フノ不便アル場合ニハ市條例ヲ設ケテ選擧區ヲ定ムルコトヲ得東京、京都、大阪ノ三市ニ於テハ法律上當然區ヲ以テ市會議員ノ選擧區トス各選擧區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ選擧人ノ員數ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノトス(市制第十四條)

一〇七　選擧手續ハ此ニ一々細說セス唯其ノ要領ヲ示サム(市制町村制第十六條乃至市制第二十九條、町村制第三十一條)

選舉ノ時期

選舉ノ時期ハ毎三年トス之ヲ定期選舉ト謂フ而シテ議員ノ任期ハ六年ナルヲ以テ定期選舉ハ半數改選ノ制ニ依ル(歐洲諸國ニ於テハ例ヘハ佛國ノ如ク全數改選ノ制)ヲ取ルモノアリ)改選時期ニ達セスシテ議員ニ死亡若クハ退職ノ爲メニ缺員ヲ生スルトキハ其ノ補缺者ヲ選舉シテ前議員ノ任期ヲ繼カシム之ヲ補缺選舉ト謂フ通常補缺選舉ハ定期選舉ノ時期ヲ待チテ同時ニ之ヲ行フ故ニ前議員ノ任期其ノ定期選舉ノ日ヲ以テ終ハルトキハ補缺選舉ヲ行フノ必要ナシ

選舉ノ準備

選舉ノ準備ニ關スル事務ハ市町村ノ行政事務トシテ理事機關タル市長市參事會及町村長ノ執行スル所トス其ノ事務ハ選舉名簿ノ調製ヲ以テ最重ナルモノトス選舉名簿ニ二種アリ選舉原簿及選舉人名簿是レナリ即チ選舉前一定ノ期日(六十日前)ニ於テ先ツ選舉原簿ヲ作リ各選舉人ノ資格ヲ記載シ更ニ之ニ依リテ各級ノ選舉人名簿ヲ作ル選舉人名簿ハ選舉權確定ノ基礎ヲ成スモノニシテ其ノ記載ニ洩レタル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス故ニ選舉權ノ侵害ヲ避クルカ爲メニ選舉人名簿ヲ一定ノ期日間(七日間)關係者ノ縱覽ニ供ヘシム若シ關係ニ於テ名簿ノ誤謬(選舉權ヲ有スルモノニシテ記載セラレサルト選舉權ナキ者ニシテ記載セラレタルト皆誤謬ニ屬ス)ヲ發見スルトキハ其ノ期日內ニ市町村會ニ對シテ名簿訂正ノ訴願ヲ爲スコトヲ許シ行政裁判所ノ最終ノ判決ニ訴フルコトヲ許ス而シテ其ノ訂正ハ選舉前十日ヲ限リテ之ヲ行ヒ以テ確定名簿トス

選舉期日及場所

選舉期日及場所ハ市參事會町村長之ヲ定メテ公告ス其ノ期日ハ各級同一ナラス最下級ヨリ順次ニ之ヲ行フ是レ一人ニシテ數級ノ選舉ニ當選スルヲ防クカ爲メナリ然レトモ各級ノ選舉ハ獨立ナルカ故ニ下級ノ選舉無效ト爲リタルカ爲メニ既ニ有效ニ結了セル上級ノ選舉ヲモ無效トスルコトナシト解セサルヘカラス選舉會場ハ選舉人ノ外何人モ入場スルヲ得ス選舉會場ノ開閉及其ノ取締ニ關スル事務ハ選舉掛トス選舉掛ハ市町村長若クハ代理者ト臨時選舉人中ヨリ選任シタル一定ノ掛員トヲ以テ組織ス

選舉ハ匿名投票ヲ以テ行ヒ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出シ掛長ハ選舉人

名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ蓋シ匿名投票ハ詐欺若クハ重複ノ投票行ハルヽノ恐アルヲ以テ此ノ如キ嚴密ノ制限ニ依ラシムルモノトス但前ニ逃ヘタル代人ヲ以テ選擧權ヲ行フモノハ例外トス

當選ノ採決

選擧ハ有効投票ノ多數ヲ得ルモノヲ以テ當選トス投票ノ効力ノ有無ハ選擧掛之ヲ定ム其ノ採決ニ對シテハ市町村會ニ訴願シ又行政裁判所ニ最終ノ判決ヲ求ムルコトヲ得法律上當然無効トスヘキ投票ハ(一)人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ(二)被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ(例ヘハ同氏名ノ被選擧權ヲ有スル者二人アリタル場合)(三)被選擧權ナキ者ヲ記載スルモノ(四)被選擧人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ(住所、身分、職業ノ如キハ之ヲ記入スルヲ妨ケスト解スヘシ)ノ數種トス、選擧掛長ハ選擧終ハリタル後直ニ當選者ニ其ノ旨ヲ告知ス當選者ハ法律ニ特例ヲ設ケタル場合(市制、町村制第八條)ノ外之ヲ辭スルコトヲ得ス又一人ニシテ同時ニ數級又ハ數區ノ選擧ニ當選シタルトキハ一定ノ期日内ニ其ノ何レノ選擧ニ應スルヤヲ申立ツル義務ヲ負ハシム

異議ノ申立

以上ノ手續ヲ以テ終ハレル選擧ニ對シテハ左ノ場合ニ一定ノ人ヨリ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

(イ)選擧掛ノ採決誤マレル場合　例ヘハ無効投票ヲ有効投票ニ算入シ若クハ有効投票ヲ無効投票ニ算入セルカ如キトキハ其ノ投票ノ計算ヲ訂正セサルヘカラス其ノ結果トシテ當選者ニ異動ヲ來タスヘシ

(ロ)當選人被選資格ノ條件ヲ缺ク場合　此ノ場合ニハ其ノ人ノ當選ヲ無効トシ更ニ選擧ヲ行ハシム然レトモ全體ノ選擧ハ之カ爲メニ無効ト爲ラス

(ハ)選擧ノ定規ニ違背スル場合　此ノ場合ニハ選擧ハ全體ニ無効ト爲ル法文ニ選擧ノ規定ト云フハ意義稍不明ナルヲ免レスト雖モ市町村制ノ選擧ニ關スル條規ノ全體ヲ總稱スルノ意ト解スルノ外ナシ

又右ノ場合ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ

(イ)選擧人　選擧ノ効力ハ直接ニ選擧人ノ權利ニ關ス故ニ若シ選擧ノ効力ニ付キテ異議アルトキハ一定ノ期日間ニ市町村長ニ之ヲ申立ツルコトヲ得市町村會ハ其ノ訴願ニ對スル裁決ヲ爲ス(市制第三十五條第一項、町村制第三

十七條)

(ロ)地方監督官廳　市ニ於テハ府縣知事町村ニ在リテハ郡長ハ監督官廳トシテ市町村ノ選擧ヲ監督ス故ニ市町村長ハ選擧終ハリタルトキハ之ヲ府縣知事郡長ニ報告スルヲ要ス而シテ府縣知事郡長ハ選擧ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ハラス府縣參事會ニ付シテ裁決セシム

一〇八　市町村會議員ノ選擧ニ關スル罰則ハ明治二十三年法律第三十九號ヲ以テ定メラレタリ就キテ看ルヘシ此ニ詳說セス

罰則

坤、權限

市町村會ハ町村ヲ代表スルモノニ非ス

坤　權限

市町村會ハ其ノ職務ニ屬スル事項ヲ議決スルニ止リ外部ニ對シ市町村ヲ代表シテ其ノ議事ヲ執行スルコトヲ得ス法文ニ『市町村會ハ市町村ヲ代表シ』トアルハ(市制第三十條、町村制第三十二條穩當ナラス蓋シ代表トハ法律上常ニ一個人若クハ法人ノ爲メニ其ノ一個人若シクハ法人ニ代ハリ第三者ニ對シテ其ノ委任セラレタル權利ヲ行使スルノ意ナリ內部ノ作用ニ止ルモノハ之ヲ代表ト謂フコトヲ得ス故ニ理由書ニモ市町村會ハ市町村ノ代表者ナリト云フニモ拘ラス又『市會町村會ハ代表機關ト爲スト雖モ外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルハ行政機關ノ任トス卽チ市町村會ハ專ラ行政機關ニ對シテ市町村ヲ代表スルモノナリ』ト云ヘリ何ソ其ノ文意晦澁ナルヤ立法者ノ意モ選擧ハ代表ナリトノ觀察ヲ本トシテ市町村會ハ市町村住民ノ代表者ナリトスルニハ在ラサリシコトハ明白ナリ(市制第三十六條、町村制第三十八條)唯近時一派ノ學者カ人類ノ生存ヲ以テ巧ニ團體ノ生存ニ比喩シ代議ハ意思ノ發表ナリ行政ハ目的ノ實行ナリト云ヒ以テ團體ノ作用ニ劃然タル分界アルカ如ク說道シ其ノ勢力カ一時世ヲ風靡セシヨリシテ我カ立法者モ亦安ソ此ノ說ニ倣ヒ市町村ニ於ケル市町村會ハ市町村ノ意思ヲ代表スルモノナリ市參事會町村長ハ市町村ノ行爲ヲ代表スルモノナリトノ觀念ヲ法文ニ顯示シタルニ非サルナキヲ得ムヤ然レトモ法律上ノ議論トシテハ代表ニ內外ノ區別アルコトナク意思ノ代表ト行爲ノ代表トアルコトナシ代表ハ常ニ人格ノ代表ナリ第三者ニ對スルノ觀念ナリ市町村會ノ議決ハ市町村ノ意思ノ發表ナリト思惟スルハ敢テ不可ナカルヘシト雖モ之カ爲メニ市町村會カ市町村ノ代

表者ナリト云フノ必要ハ毫モ之アルコトナシ故ニ此ノ如キ不精確ノ文字ハ余輩舍キテ用キス

甲、外部ノ權限

一〇九 市町村會ハ法律又ハ勅令ニ依リテ與ヘラレタル權限ヲ有シ其ノ範圍ヲ越エテ何等ノ事項ヲモ議決スルコトヲ得ス今此ニ其ノ權限ヲ列擧スレハ左ノ如シ(市制第三十一條、町村制第三十三條以下)

甲　外部ノ權限(參政上ノ權限)

第一　市町村制ニ準據シテ市町村ニ關スル一切ノ事件ヲ議決スルコト　此ノ權限ノ範圍ハ頗ル廣シ苟モ團體共同ノ利害ニ關スル事件ハ法律ノ制限ニ觸レサル以上ハ細大トナク之ヲ議決スルコトヲ得是レ後ニ說ク府縣會郡會ノ權限ト異ナル所ニシテ市町村カ完全ナル自治團體タルハ卽チ此ニ存ス市制町村制ニ列記セル事件ハ例示的ノ規定ニ成リテ制限的ノ規定ニ非ス

第二　從前特ニ委任セラレタル事件　此ノ事件ハ必スシモ市町村ニ關スルモノヽミニ非ス普通行政ニ屬スルモノト雖モ市町村制發布以前ニ委任セラレタルモノニシテ苟モ適法ノ委任タラハ其ノ委任ノ形式ハ法律タルト勅令タルト省令、府縣令其ノ他何等ノ名稱ニ於テシタルトヲ問ハス市町村會ハ其ノ事件ヲ議決スルコトヲ得

第三　將來法律若クハ勅令ニ依リテ特ニ委任セラルヘキ事件　此ノ事件モ亦必スシモ市町村ニ關スルモノヽミニ非ス然レトモ第二ノ事件ト異ナリテ其ノ委任ノ形式ハ必ス法律若クハ勅令ヲ以テス而シテ其ノ將來ト云フハ市町村制發布後ノ意ナリト解スヘシ

第四　市町村吏員ノ選擧　市町村會ハ法律勅令ニ依リテ其ノ職權ニ屬セシメタル市町村吏員ノ選擧ヲ爲スコトヲ得市ニ在リテハ市會議長及其ノ代理者、助役、名譽職參事會員、收入役區長及其ノ代理者、臨時又ハ常置委員市制第三十條、第六十一條)町村ニ在リテハ町村長、助役、收入役、附屬吏員區長及代理者、臨時又ハ常置委員(町村制第五十三條、第六十七條、第五十一條、第五十八條、第六十一條)町村ニ在リテハ町村長、助役、收入役、附屬吏員區長及代理者、臨時又ハ常置委員(町村制第五十三條、第六十二條乃至第六十五條)等ノ選擧ハ市町村制ニ依リテ定マレル市町村會ノ職權トス其ノ勅令ニ依リテ定マルモノハ各場合ニ就キテ之ヲ知ルヘシ

第五　市町村行政ノ監督　市町村會ハ市町村ノ事務ニ關シテハ書類及計算

書ヲ檢閱シ市町村長ノ報告ヲ請求シ其ノ事務殊ニ會計事務ノ監査ヲ爲スコトヲ得但市町村會ハ自ラ市町村長ノ不法行爲ヲ訂正スルノ權ヲ有セサルカ故ニ監督權ノ行使ヲ嚴ナラシムカ爲メニ市町村會カ市町村長ノ行政ニ關シ行政法上ノ紛議起レルトキハ訴願ニ對スル始審ノ裁決ヲ爲ス其ノ場合ハ法律ニ列記セラレタルモノニ限ル(市制第三十五條第一項、町村制第三十七條第一項)若シ貧弱ノ町村ニ於テ町村會ヲ設ケス町村公民總會ヲ以テ町村會ニ代ハラシムルトキハ訴願ノ裁決ハ町村長ノ職權ニ歸ス(町村制第三十七條第二項)

乙、內部

乙　內部ノ權限(機關ノ組織及秩序上ノ權限)

第六官廳ノ諮詢ニ對スル意見ノ陳述　市町村會ノ此ノ職權ハ同時ニ其ノ任務タリ法律ハ命令的ニ意見ヲ陳述スヘシト規定シテ市町村會ニ意見ヲ差出スノ義務ヲ負ハシメタリ

第七訴願ノ裁決　市町村會ハ市町村ノ行政ニ關シ行政法上ノ紛議起レルトキハ訴願ニ對スル始審ノ裁決ヲ爲ス其ノ場合ハ法律ニ列記セラレタルモノニ限ル(市制第三十五條第一項、町村制第三十七條第一項)若シ貧弱ノ町村ニ於テ町村會ヲ設ケス町村公民總會ヲ以テ町村會ニ代ハラシムルトキハ訴願ノ裁決ハ町村長ノ職權ニ歸ス(町村制第三十七條第二項)

第一會議細則ノ設定　會議細則ノ設定ハ市町村會ノ權限ニ屬シ又寧ロ其ノ義務トシテ命セラレ而シテ其ノ細則ヲ强行スルカ爲メニ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二資格審査　資格審査トハ選擧確定後ニ當選者ノ資格ニ欠缺ヲ生シタルトキハ之ヲ審査スル方法ニシテ若シ當選者カ當選ノトキニ被選資格ノ要件ヲ有セサリシコトヲ發見シ又ハ就職後其ノ要件ヲ失ヒタルコトヲ發見スルトキハ市町村會ノ審査ヲ經テ當選ヲ無効トス

但其ノ議決ニ不服ナル者ハ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三處務規程　處務規程ハ議長ノ選任、市町村會ノ招集、採決ノ方法、議場ノ秩序保持、議事錄ノ調製等ニ關スルモノニシテ法律ニ細定アリ齋シク內部ノ職權ニ屬ス今一々之ヲ詳說スルノ煩ヲ省ク(市制第三十七條乃至第四十七條、町村制第三十九條乃至第四十九條)

第二款　市參事會及町村長

市町村行政ノ理事機關ハ町村長單獨ニテ之ニ任シ市ニ於テハ

市參事會ヲ設ケ市長及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織シ合議ニ依リテ其ノ行政ヲ施サシム蓋シ地方自治ノ目的ヨリ攷フルトキハ合議機關ヲ設置スルノ勝レルニ若カス而ルニ獨リ市ニ設置シテ町村ニ設置セサル所以ノモノハ一方ニハ町村行政カ市行政ノ複雜ナルニ若カサルト一方ニハ町村ニ多ク適任ノ名譽職ヲ得ルコトヲ望ムヘカラサルトノ實際ノ理由ニ本ツキ町村ヲ以テ特ニ簡便ノ組織ニ依ラシメタルモノナラム

市參事會町村長及市町村吏員ハ市町村ノ機關ニシテ國家ノ機關ニ非ス故ニ此等ノ機關ハ市町村自ラ之ヲ選任スルヲ以テ原則トス唯前ニモ屢〻述ヘタルカ如ク市町村ハ自治團體タルト同時ニ一方ニ於テハ國家ノ行政區劃ヲ成シ其ノ機關ハ普通行政ノ施設ニ任セサルヘカラス殊ニ理事機關ニ於テ其ノ關係密接ナリ其ノ選任ハ全ク之ヲ市町村ノ自由ニ放任スルトキハ國家全體ノ利益ト相背馳スルコトナキヲ期セス是レ法律カ理事機關ノ選任ニ關シテハ特ニ國家ノ多少ノ干涉ヲ認メタル所以ナリ(市制第五十條乃至第五十一條、町村制第五十三條乃至第五十五條)

乾　組織及選任

甲　市參事會

一一〇　市參事會ハ、市長、助役及名譽職參事會員ヲ以テ組織ス其ノ選任ノ條件及手續ヲ略述セム

第一　市長及助役

市長ハ市會ノ推薦シタル三名ノ候補者中ヨリ內務大臣ノ上奏ニ依リ裁可ヲ得テ之ヲ任シ助役ハ市會之ヲ選擧シ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ任ス(助役ノ定員ハ通常一名東京ハ三名、京都大阪ハ二名トシ必要ノ場合ニハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコヲ得)若シ市長ノ選任裁可ヲ得ス助役ノ選任認可ヲ得サルトキハ裁可及認可ヲ得ルマテ續キテ其ノ推薦及選擧ヲ爲シ其ノ間ハ內務大臣及府縣知事ハ職權ニ依リテ臨時代理者ヲ選任シ又ハ派遣スルコトヲ得」市長及助役ハ其ノ職務上ノ理由ニ本ツケル制限ニ觸レサル以上ハ(市制第五十五條、第五十六條)選任ノ條件トシテ市公民ノ資格ヲ有スルヲ要セス而シテ其ノ選任ニ依リテ市公民ノ資格ヲ取得ス其ノ任期ハ共ニ六年トス

第二名譽職市參事會員

第二　名譽職市參事會員

名譽職市參事會員ハ市ニ特別ナル吏員ニシテ市長及助役ト共ニ市ノ合議制理事機關ヲ組織スルモノナリ其ノ定員ハ通常六名東京十二名京都大阪九名ニシテ必要ノ場合ハ市條例ヲ以テ之ヲ增減スルコトヲ得其ノ選擧ハ市會ニ於テ之ヲ行ヒ一名毎ニ匿名投票ヲ以テシ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就キテ更ニ投票セシムルモ若シ投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ府縣參事會ノ採決ニ任ス(市制第五十一條第四十四條)

名譽職市參事會員ノ被選資格ハ市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル者タルコトヲ要ス其ノ當選ニ關スル法律上ノ制限ハ他ノ市町村吏員ト同シ其ノ任期ハ四年トス

名譽職參事會員ノ定期選擧ハ毎二年ニ之ヲ行ヒ其ノ半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ抽籤ヲ以テ多數ノ一半ヲ退任セシム其ノ退任者ハ再選セラルヽヲ妨ケス若シ會員任期ニ至ラスシテ闕員ヲ生シタルトキハ直ニ補闕選擧ヲ行ヒ以テ其ノ任期ヲ補充セシム市町村會議員ノ如ク定期選擧ト同時ニ補闕選擧ヲ行フコトナシ是レ其ノ機關ノ性質同シカラサルニ依ル而シテ何レノ場合ニモ其ノ撰擧ノ效力ハ市參事會自ラ之ヲ議決シ又當選後ノ資格審査モ亦參事會之ヲ議決ス其ノ議決ニ關シテハ訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

乙、町村長及助役

乙　町村長及助役

一一一　町村長及助役各一名ハ町村會之ヲ選擧シ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ任ス(但助役ノ定員ハ町村條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得)府縣知事若シ其ノ認可ヲ與ヘサル場合ニハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要シ又町村長若クハ町村會ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ不服ナルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得而シテ其ノ撰擧ノ認可ヲ得サリシ場合ニハ其ノ認可ヲ得ルマテハ認可權アル監督官廳ニ於テ臨時代理者ヲ選任シ又ハ派遣スルコトヲ得

町村長及助役ハ職務上ノ理由ニ本ツケル制限ノ外(町村制第五十三條第二項

第三項撰任ノ條件トシテ其ノ町村公民權ヲ有シ且ツ年齡三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スルコトヲ要ス但町村ノ狀況ニ依リテ有給職トシタル場合ハ市長及助役ト其ノ位置同シ其ノ任期ハ共ニ四年トス

坤、權限

市町村ノ理事機關ノ權限ヲ說明スルニ當リテハ其ノ市町村ノ機關トシテ自治行政ヲ執行スル場合ト其ノ國家ノ機關トシテ普通行政ヲ執行スル場合トヲ區別セサルヘカラス而シテ特ニ注意スヘキコトハ市ト町村トニ於テ其ノ理事機關ノ組織異ナルヨリシテ市ニ於テハ市參事會ノ權限ノ外市長カ單獨ニテ擔任スル所ノ行政事務アルコト是レナリ

甲、市參事會及町村長ノ市町村行政ニ關スル權限

一一二　甲　市參事會及町村長ノ市町村行政ニ關スル權限

市參事會及町村長ハ市町村ヲ代表シ一切ノ市町村行政ヲ施設スルモノニシテ一々其ノ權限ヲ叙スルコトヲ得ス故ニ法律ハ唯其ノ概目ヲ指示セリ(市制第六十四條、町村制第六十八條)

第一市町村會ノ議事ヲ準備シ及其ノ議決ヲ執行スルコト　市町村會ノ議

決ニ附スヘキ事件ハ既ニ市町村會ノ權限ニ於テ說明セリ而シテ其ノ議決權限ニ屬スル事件ハ市參事會及町村長ニ於テ必ス其ノ議決ニ遵依セサルヲ得ス故ニ市參事會及町村長ハ議案ノ調製、議場ノ設備等凡ソ議事ノ進行ニ必要ナル準備ヲ爲シ以テ市町村會ノ議決權限ヲ完クスルヲ得シメ又其ノ議決カ苟モ法律命令ノ範圍內ニ於テセラレタルモノハ必ス之ヲ執行スルノ義務ヲ負フモノトス假令ヒ其ノ議決ヲ實際不便ナリト思料セシ場合ニ於テモ市參事會町村長ハ尙ホ之ヲ執行セサルヲ得ス然ラサレハ職務荒廢ノ責ヲ免ルヘカラス然レトモ市參事會町村長ハ市町村會ノ議決ヲ執行スルノ職務アルト同時ニ其ノ不法ノ議決ヲモ執行スルノ職務ナシ故ニ一定ノ場合ニハ市町村會ノ議決ノ執行ヲ停止シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得其ノ場合ハ左ノ如シ」

(一)違法ノ議決ナルトキ　違法ノ議決トハ市町村會ノ議決カ法律命令ニ違反シ又ハ其ノ權限以外ニ亘リタルモノヲ謂フ抑モ議決ノ權限ハ元來法律命令ニ本ツカサルモノナシ故ニ違法ノ議決ト云フトキハ越權ノ議決ハ自ラ其ノ中ニ含蓄セラルヽモノト解セサルヲ得ス或ハ謂ヘラク越權ノ議決ハ必ス

違法ノ議決ナルモ違法ノ議決ハ必スシモ越權ノ議決ニ非ス例ヘハ法律命令ヲ以テ或ル事件ヲ議決スヘキコトヲ命シタルニ市町村會カ之ヲ議決セサリシトキハ權限ヲ越ユルニ非スシテ法律命令ニ違背シタルモノナリト然レトモ是ノ如キハ議決ヲ爲サヽリシノミ初メヨリ議決カ違法若クハ越權ナルヤ否ヤノ問題ヲ惹起サス若シ市町村會カ其ノ命セラレタル事件ヲ議セスト議決セリトセムカ是レ違法ニシテ且ツ越權ナルモノナリ故ニ市町村制ハ此ノ二箇ノ議決ヲ區別スルニモ拘ラス余輩ハ此ニ之ヲ混一ス

(二)公益ヲ害スルノ議決ナルトキ　公衆ノ利益ヲ害スル議決モ亦市參事會町村長カ其ノ執行ヲ停止シ得ルノ議決ナリ然レトモ如何ナル議決カ公衆ノ利益ニ患害アルヤハ事實問題ニシテ唯市參事會町村長若クハ監督官廳ノ意見ニ依リテ之ヲ決スルノ外ナシ

以上二箇ノ場合ニハ市參事會及町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リテ市町村會ノ議決ヲ執行セスシテ再議ニ附スルコトヲ得而シテ其ノ之ヲ執行セスシテ再議ニ附スルニハ其ノ理由ヲ指示スルコトヲ要ス若シ其ノ理由ヲ指示セサルトキハ市町村會ハ之ヲ再議ニ附セスシテ直ニ差戻スコトヲ得ヘシ又理由ヲ指示シテ再議ニ附スルモ市町村會カ尙ホ前議ヲ改メサルトキハ各自上級自治機關ノ裁決ヲ請フノ義務アリ若シ其ノ裁決ニ不服ナルトキハ違法議決ノ場合ニ限リテ行政裁判所ノ最終ノ判決ニ訴フルコトヲ得其ノ違法議決ノ場合ニ限ルハ行政裁判所ハ法律ノ疑義ヲ解釋スルノ職分アリテ利害ノ爭ヲ決スルノ職分ナケレハナリ

第二市町村有財產ノ管理　法律ハ歲入ノ管理及營造物ノ管理ヲ以テ市町村有財產ノ管理ノ外ニ規定スレトモ皆齊シク市町村ノ財產ト見做シテ可ナリ唯取得ノ方法又ハ使用目的ノ區別ニ依リテ其ノ名稱ヲ異ニスルニ過キス

第三收支ノ命令竝ニ會計上ノ監視　市町村ノ收入及支出ハ收入役ノ任スル所ナリ而シテ其ノ收入及支出ノ命令ヲ與フルハ市參事會町村長ノ權限ニ屬ス市參事會町村長ハ豫算表其ノ他市町村會ノ議決ニ依リテ收支命令ヲ發シ又收入役ノ會計事務ヲ監視セサルヘカラス

第四市町村ノ權利ノ保護　此ニ權利ト云フハ私法上及公法上市町村ノ享

市參事會內部ノ權限

有スル一切ノ權利ヲ總稱ス又既ニ保護ト云フトキハ一切ノ權利保全ノ方法ヲモ呑ムト解スルコトヲ得故ニ證書及公文書類ヲ保管シ及必要ノ場合ニハ市町村會ノ決議ヲ經テ訴訟又ハ和解ニ市町村ヲ代表スル行爲モ亦權利ノ保護ニ關スル行爲ノ一種タリ故ニ法文ニハ此等ノ行爲ヲ別項ニ掲ケタルニ拘ラス此ニハ之ヲ總括セリ

第五市町村ノ公課ノ賦課及徵收　市參事會及町村長ハ法律勅令又ハ市町村會ノ決議ニ從ヒ市町村稅、使用料、手數料、及夫役、現品等ノ公課ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第六市町村吏員及使丁ノ監督幷ニ懲戒　市參事會及町村長ハ其ノ所部吏員及使丁ノ職務執行ヲ監督シ又其ノ非違ヲ懲戒スルコトヲ得其ノ懲戒處分ノ方法ハ譴責及過怠金(市ニ於テハ十圓以下町村ニ於テ五圓以下)トス

一一三 市參事會ハ合議制ノ機關ナルカ故ニ別ニ內部ノ權限ナカルヘカラス市長ハ市參事會ノ議長ト爲リテ市參事會ヲ總理シ之ヲ準備召集シ議決ヲ執行シ一定ノ場合ニハ議決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得又其ノ議決ヲ待タスシテ專行スルコトヲ得其ノ外議決ノ方法、議事錄ノ調製及參事會員カ市長ニ對スル關係等謂ハユル處務規程ニ關スルモノハ市制ニハ唯其ノ大要ヲ定メタリ(市制第六十五條乃至第六十八條)

乙、市參事會及町村長ノ普通行政ニ關スル權限

乙　市參事會及町村長ノ普通行政ニ關スル權限

一一四 市參事會及町村長ハ市町村行政ノ權限ノ外法律命令又ハ上司ノ指令ニ依リテ委任セラレタル事務ヲ執行ス其ノ事務ハ必シモ市參事會及町村長カ市町村ノ機關トシテ執行スルモノニ止ラス國家ノ機關トシテ執行スル所ノ普通行政ヲモ包含スト雖シテ法律命令又ハ上司ノ指令ト云フカ故ニ委任ノ形式ハ法律勅令ニ限ラス行政命令又ハ中央官廳若クハ地方監督官廳ノ指令ヲ以テセラルヽコトアリ苟モ適法ノ委任タル以上ハ市參事會及町村長ハ皆之ヲ執行スルノ權限ヲ有シ又其ノ義務ヲ負フ即チ其ノ權限ハ特別ノ場合ニ特別ノ形式ニ依リテ定マルカ故ニ一々之ヲ豫定スヘカラス(市制第六十四條第九號、町村制第六十八條第九號)

普通行政

一一五 普通行政竝ニ上級地方行政ノ執行ニ關シテハ市町村制ハ市長町

機關タル市町村長

村長ニ特別ノ委任ヲ爲セルモノアリ(市制第七十四條、町村制第六十九條)此ニ聊カ注意スヘキコトハ町村ノ理事機關ハ單獨機關ナルカ故ニ其ノ委任ヲ受クル場合ニ差別ナシト雖モ市ノ理事機關ハ合議機關ナルカ故ニ其ノ合議機關タル市參事會ニ委任セラレタル場合ト市長一人ニ委任セラレタル場合トヲ區分セサルヘカラス即チ前段ニ述ヘタル普通行政ハ市參事會ニ委任スルモノニシテ其ノ執行ハ必ス合議ヲ經ルコトヲ要スレトモ市參事會ニ委任セスシテ市長ニ委任セラレタル事件ハ市長之ヲ專行スヘキモノトス今左ニ市長及町村長カ管掌スル普通行政ノ事務ヲ擧ケム

第一司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依リテ其ノ管理ニ屬スル地方警察ノ事務　司法警察ハ犯罪及犯罪人ヲ逮捕スルコトヲ掌ルモノニシテ市町村長ニ其ノ補助タル職務ヲ有セシムルハ各國普通ノ制度ナルカ如シ地方警察トハ行政警察ニシテ其ノ執行カ地方ノ區劃ニ屬スルモノヲ謂フ本邦ノ現行制度ニ依レハ警察ハ悉ク國家ノ行政ニ屬シ自治團體ノ警察權ヲ認メス又之ヲ自治團體ノ機關ニ委任セルモノナシ別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルヲ通常トス然レトモ若シ法律命令ニ依リテ特別ノ委任ヲ受クルトキハ市町村長ハ固ヨリ地方警察官トシテ其ノ委任事務ヲ執行セサルヲ得ス

第二浦役場ノ事務　浦役場ハ船籍ノ保管、船舶ノ碇泊、難波船等ニ關スル庶務ヲ取扱フモノニシテ其ノ事務ニ關スル一般ノ規則ハ不完全ナカラ明治九年太政官達第百十七號ヲ以テ制定セラレタリ又船籍規則、稅關規則其ノ他港津船舶ニ關スル特別法ニ規定セラレタル浦役場ノ事務アリ此等一切ノ事務ヲ總稱スルモノト解スヘシ

第三國ノ行政竝ニ上級地方團體ノ行政ニシテ市町村ニ屬スル事務　市町村ハ最下級ノ行政區劃ニシテ國家竝ニ上級地方團體ノ一部分ヲ成スヲ以テ國家竝ニ上級地方團體ノ事務ニシテ市町村ニ關係スルモノハ甚多シ例ヘハ戶籍、敎育、勸業、衞生等ノ如キ事務ハ皆然リ故ニ此等ノ事務ニ關シテハ市長町村長ハ法律命令ノ規定ニ準據シ其ノ委任ノ範圍內ニ於テ之ヲ管掌スルコトヲ得

以上三種ノ事務ハ市町村長ノ管掌スル所ナリ然レトモ此等ノ事務ハ市町村長必スシモ悉ク自ラ管掌スルヲ要セス市ニ於テハ市參事會員ノ一名町村ニ於テハ助役ニ之ヲ分掌セシムルヲ妨ケス但之ヲ分掌セシムルハ市町村長ノ任意ニ出ツルヲ得ス監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス

市長カ參事會ノ參與ヲ要セスシテ施爲スル委任行政事務ハ右ニ述フル所ヲ以テ明ナリ然ルニ町村長ハ單獨機關トシテ委任ヲ受クルカ故ニ市長カ一方ニハ參事會ノ一員タルモノトハ自ラ其ノ趣ヲ異ニス市制第七十四條カ第六十四條ノ外ニ規定セラルヽ理由ハ明ナレトモ町村制第六十九條カ第六十八條ノ外ニ規定セラルヽハ重複ノ嫌アルニ似タリ何トナレハ市制第六十四條第九號ノ事務ハ市參事會ノ擔任ニ屬スレハ第六十九條ニ其委任事務ヲ特記スル必要ナキニ似タレハナリ故ニ人或ハ說ヲ爲シテ曰ク市制第六十四條町村制第六十八條ノ事務ハ普通行政カ市町村ニ委任セラレタルモノニシテ市町村固有ノ事務タリ市制第七十四條町村制第六十九條ノ事務ハ市町村長カ直接ニ委任ヲ受ケテ爲スモノナリ從ヒテ前ノ場合ニハ市町村會ノ議決監督ヲ要シ後ノ場合ニハ之ヲ要セス是レ其ノ前後規定ノ旨趣ヲ異ニスル所以ナリト市町村制ノ理由書ハ此ノ點ニ於テモ亦頗ル曖昧ナレトモ論者ノ言ト殆ト相近キカ如シ然レトモ此ノ說ハ誤レリ市町村固有ノ行政ハ直接ニ市町村ニ委任セラレ市町村ニ屬スル國家ノ行政ハ直接ニ市町村ノ機關ニ委任セラルヽコトハ余輩既ニ之ヲ說ケリ然ルニ市制第七十四條町村制第六十八條ノ末號ニハ市參事會又ハ町村長ニ委任シタル事務トアリテ市町村ニ委任ノ形式ハ法律命令若クハ上司ノ指令ニ依ルコトヲ得ルヲ以テ察スレハ自治行政ヲ委任スルモノトシテハ安ソ輕擧ニ失スルモノナラサルヲ得ムヤ法律若クハ勅令ニ依リテ市町村固有ノ行政ヲ設クルハ固ヨリ當然ノ事理ニ屬スレトモ單純ノ行政命令ヲ以テ行政官廳カ妄リニ市町村固有ノ行政ヲ設クルコトアルヘカラス況ヤ指令ヲ以テスルヲヤ此ノ如キノ形式ヲ以テ市町村ノ自治ヲ委任スルコトヲ得ルハ決シテ國法上ノ原則ト謂フヲ得ス若シ夫レ法律勅令カ市町村固有ノ行政ヲ定ムルト同時ニ市參事會及町村長ノ職權ヲ定メタル場合ハ其ノ事務ハ普通行政ニ非スシテ市町村固有ノ事務タルコト明白ナリ從ヒテ市町村會ノ議決監督モ亦必要ナラム苟モ然ラスシテ單ニ市參事會町村長ハ市町村會ト獨立シテ其ノ事務ノ處理ヲ爲スコトヲ得市制第六十四條町村制第六十八條ノ末號ハ即チ此ノ意ニ成ルモノナリ然ラハ町村制ニハ何ノ必要アリテ次條ニ町村長ノ委任

事務ヲ規定セシカ殆ト其ノ理由ヲ見ルニ苦メトモ若シ強ヒテ解說セハ第六十九條ハ前條末號ノ實例ヲ示シタルモノナリト云ハムカ即チ法律ニ依リテ普通行政及府縣郡ノ行政ヲ町村長ニ委任シタルモノナリ從ヒテ市制第七十四條ト町村制第六十九條トハ全ク規定ノ旨趣ヲ異ニシ市制第七十四條ハ市長ノ專行事務ヲ定メ町村制第六十九條ハ町村長ノ專行事務ノ適例ヲ定メタルモノト爲ル姑ク記シテ疑ヲ存ス

一一六 以上論述スル所ニ依リ市町村理事機關ノ組織選任及權限ハ略ゝ之ヲ盡セリ尙ホ此ノ外市町村ノ吏員トシテハ收入役、書記、其ノ他ノ附屬員、常設又ハ臨時ノ委員竝ニ區長等アリ皆市參事會及町村長ニ從屬シテ其ノ行政事務ヲ補助シ又ハ其ノ一部分ニ參與スルノ職務ヲ有ス其ノ選任ノ手續及條件竝ニ權限ニ關シテハ市町村制ニ細定シ若クハ市町村條例ニ特別ノ規定ヲ許セルモノアリ(市制第五十八條乃至第六十三條、第七十條乃至第七十三條、町村制第六十二條乃至第六十七條、第七十條乃至第七十四條)

第三款 給料及給與

一一七 市町村ノ吏員ハ有給職ト無給職トニ分ツ名譽職ハ即チ無給職ノ謂ヒナリ而シテ市町村制ノ精神ハ主トシテ無給職員ヲ以テ市町村ノ公務ヲ處理セシムルニ存スルカ故ニ法律ニ於テ名譽職タルヘキコトヲ規定シテ特例ヲ設ケサル以上ハ市町村ハ必ス無給職ノ吏員ヲ置キ之ニ給料ヲ支給スルコトヲ得ス但其ノ職務上ノ勤勞ニ應シテ多少ノ報酬ヲ與フルコトヲ妨ケス又名譽職ノ吏員ト雖モ其ノ職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得(市制、町村制第七十五條、市制第五十條、第五十二條、第五十八條乃至第六十二條、町村制第五十五條、第五十六條、第六十二條乃至第六十六條)

有給職ト雖モ其ノ職務ニ任シタル吏員ハ職務上ノ責任ニ於テ異ナル所ナシ然レトモ法律ハ名譽職員ニ任スルヲ以テ市町村公民ノ義務トスルヨリシテ法律上ノ結果ニ左ノ如キ差異ヲ生ス

(一)有給職員ハ其ノ市町村ノ公民ニ限ラスシテ之ヲ選任スルコトヲ得レトモ無給職員ノ選任ニハ必ス其ノ市町村ノ公民籍ヲ有スルヲ條件トス(市制第五十三條、第五十八條、町村制第五十六條第二項、第六十二條)

(二)有給職員ハ隨意ニ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得レトモ無給職員ハ法律ニ特

定セル原因ニ依ルニ非サレハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス(市制、町村制第八條第二項、市制第五十五條第二項、第五十八條、町村制第五十七條、第六十二條)

(三)有給職員ハ市町村條例ノ規定ニ依レル退隱料ヲ受クルコトヲ得レトモ無給職員ハ之ヲ受クルコトヲ得ス但有給職員ト雖モ任期中ニ其ノ職ヲ辭セシ者ハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有セス(市制、町村制第七十七條、市制第五十五條第二項、町村制第五十七條)

給料及給與ノ設定方法

給料、報酬、實費辨償及退隱料ノ定額ハ市町村ノ負擔ニ屬シ市町村會之ヲ議決スル是レ市町村會カ歲出入豫算ヲ議定スルノ權限ニ出ツル當然ノ結果タリ而シテ其ノ定額ハ或ハ一般ニ條例ヲ設ケテ之ヲ定メ或ハ選任ノ前ニ特別ニ之ヲ定ムルモ市町村會ノ自由トス但退隱料ニ關シテハ必ス條例ヲ設クルコトヲ要ス又市町村長及助役ノ給料ニ關シテモ一定ノ條件アリ即チ市長ノ給料額ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ他ハ地方監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制町村制第七十五條乃至第七十七條、第七十九條、第八十條)

給料及給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ハ訴願及訴訟ニ依リテ救濟ヲ求ムルコトヲ得此ニ注意スヘキコトハ他ナシ法律ニハ汎ク給與ノ文字ヲ用キレトモ報酬ヲ此ノ中ニ包含セスト解セサルヲ得ス何トナレハ報酬ハ唯之ヲ與フル者ノ任意ニ出ツルモノニシテ之ニ依リテ權利關係ヲ生セサレハナリ理由書カ此ノ場合ニモ尙ホ訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得トセシハ恐クハ誤レリ

給料及給與ニ關スル異議

第三節　市町村行政ノ監督

第三節、市町村行政ノ監督ノ一般ノ監督

一一八

市町村行政監督ノ方法ハ一般ノ行政監督ノ方法ト異ナル所ナシ或ハ行政官廳ノ職權ニ依ルモノアリ或ハ訴願ノ手續ニ依ルモノアリ或ハ議決ノ認可ニ依ルモノアリ一々其ノ場合ヲ擧ケス而シテ其ノ監督ノ順序ハ市ト町村ト同シカラサルコトモ亦既ニ述ヘタリ今其ノ順序ヲ見ルニ市ニ在リテハ第一次ニ府縣知事第二次ニ內務大臣其ノ行政ヲ監督シ町村ニ在リテハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ內務大臣其ノ行政ヲ監督ス特別ノ事件ニ關シテハ郡參事會、府縣參事會及行政裁判所モ亦訴願ノ裁決及訴訟ノ裁判ニ依リテ間接ニ市町村ノ行政ヲ監督スルコトアリ

特別ノ監督

尙ホ此ノ外二樣ノ特別ナル監督行ハル市町村吏員ノ懲戒處分及市町村會ノ解散是レナリ市町村吏員ノ懲戒處分ハ市ニ於テハ市參事會及府縣知事之ヲ行ヒ町村ニ於テハ町村長、郡長及府縣知事之ヲ行ヒ(市制第百二十五條、第六十四條、町村制第百二十一條、第六十八條)市町村會ノ解散ハ內務大臣之ヲ行フ(市制第百二十條、町村制第百二十四條)共ニ職權ニ依ル行政監督ノ特別ナル場合ト認ムルコトヲ得ヘシ

北海道ニ於ケル區及町村

第四節　北海道ニ於ケル區及町村

北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼(二十二年勅令第一號)ニハ町村制ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其ノ制度ヲ定ムルコトヽ爲レリ(町村制第百三十二條)又市制ハ府縣知事ノ上申ニ依リ內務大臣其ノ施行ノ地ヲ指定スルモノナレトモ(市制第百二十六條)北海道及沖繩縣ニハ未タ其ノ施行セラルヽヲ見サリキ明治二十九年及三十年ニ發セラレタル二三ノ勅令ハ此ノ兩地方ニ特別ノ自治制ヲ設クルコトヽセリ

第一區

第一區。(北海道區制參照)

區ノ性質

一一九　區ハ郡ノ區域ニ屬セシメシテ別ニ行政區劃ヲ爲シ法人トシテ財產ヲ有シ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ區ノ公共事務竝ニ法律命令若クハ慣例ニ依リテ區ニ屬スル事務ヲ處理スル而シテ其ノ事務ヲ處理スルカ爲メニハ一定ノ條件ニ從ヒテ條例及規則ヲ設クルコトヲ得ルハ內地ニ於ケル市ト同シ

區制ノ特點

區ノ變置分合及境界ノ變更ニ就キテハ市町村制ニ於ケル一般ノ解釋ヲ適用スルコトヲ得唯北海道ニ於ケル地方制度ノ特別ナルニ因リテ其ノ事項ヲ掌ル官廳ヲ異ニス區ノ廢置分合ハ內務大臣之ヲ定メ其ノ境界ノ變更ハ內務大臣ノ許可ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ムル

區公民ノ資格ニ付キテハ市町村制ノ一般條件ニ特例ヲ開ケリ即チ區內住居ノ年限ヲ三年トシ又納稅資格ニ於テハ地租額ニ定限ヲ置キテ年額五十錢以上トシ直接國稅ノ年額ヲ二圓五十錢以上トシ又定額ノ地租若クハ直接國稅ヲ納メサルモ耕地宅地三町步以上ヲ所有スル者ニハ公民權ヲ與フルコトヽシ且ツ住居ノ年限ニ伴ヒテ公費ノ貧民救助ヲ受ケタル場合ニモ以後三年ヲ

經ルコトヲ必要トス(第五條)

區ノ行政機關

區ノ行政機關ニハ議事機關トシテ區長、書記、其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ區會議員ノ定數ハ人口五萬以上ノ區ニ於テハ三十人以上トシ三級選擧ノ法ニ依リテ之ヲ選擧シ書記ハ北海道廳長官之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ區長之ヲ任免ス又市ニ於ケルカ如キ合議機關タル參事會ナシ故ニ理事機關ノ選任ニ付キテハ國家之ニ干渉シ未タ十分ノ自治ヲ與ヘス尚ホ機關ノ組織選擧竝ニ職務權限等ニ多少ノ特例アレトモ大概市町村制ノ一般ノ解釋ヲ推及シテ可ナリ

第二町村町村ノ性質及階級

第二　町村(北海道一級町村制及同二級町村制參照)

一一〇　北海道ノ町村ニハ一級町村ト二級町村トノ區別アリ其ノ區別ノ標準ハ別ニ定ムル所ナシ唯町村制ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ一級町村トス爲シ又二級町村ト爲スハ內務大臣之ヲ指定スルコト、爲レリ(北海道一級町村制第百六條同二級町村制第九十九條)故ニ若シ從來ノ慣例既ニ定マレルモノアラハ之レニ從フヘシト雖モ慣例ノ定マレルモノナクハ內務大臣カ施行ノ時期ヲ定ムルト同時ニ隨意ニ其ノ區別ヲ爲スコト、解スヘシ又內地ニ於ケル市ト町村トハ人口ノ多寡ニ依リテ區別シ人口二萬以上ノ都會ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指定ヲ以テ市制ヲ施行スルコトヲ得レトモ北海道區制ニハ區制施行ノ場合ニ於テ初メテ區ト爲スハ內務大臣之ヲ指定スト アリテ(北海道區制第九十九條)區ト町村トノ區別モ亦其ノ標準ヲ見ルコトヲ得ス唯內務大臣ノ指定ニ待ツノミ

區制ト町村制ノ差別

區制ト町村制ト大體ニ於テ異ナル所ナシ唯區ハ郡ト獨立シ町村ハ郡ヲ組成スル行政區劃ナルカ故ニ其ノ位地ヲ異ニシ又從ヒテ其ノ行政監督ノ順序ヲ異ニシ又區會ノ選擧ハ三級選擧法ニ依リ町村ノ選擧ハ二級選擧法ニ依ル ノ外公民資格ノ條件ニ些少ノ差別アルノミ

一級町村ノ公民權モ二級町村ノ公民權モ三年以來町村ノ住民ト爲リタル者ニ之ヲ與フルコト區ト同シ唯一級町村ニ於テハ納稅額ヲ地租年額四十錢以上直接國稅年額二圓以上トシ二級町村ニ於テハ地租年額三十錢以上直接國稅一圓五十錢以上トシ尚ホ二級町村ニ於テハ各納稅人ノ直接町村稅平均額

以上ノ直接町村稅ヲ納ムル者ニモ公民權ヲ與フルコトヽ爲レリ是レ區ト町村トニ於ケル制度ノ差別ニシテ又等シク一級町村ト二級町村トノ制度ノ差別ナリ耕地宅地三町歩以上ヲ所有スル者ニ公民權ヲ與ヘ公費ノ貧民救助ヲ受ケテ三年ヲ經サル者公民權ヲ有セサルコト區ト町村トニ於テ皆相同シ(一級町村制二級町村第五條)

町村行政ノ機關

町村行政ノ機關ニハ議事機關トシテ町村會、理事機關トシテ町村長、書記、其ノ他必要ノ吏員ヲ置ク町村會議員ノ定數ハ人口千五百未滿ノ町村八人、五千未滿ノ町村十二人、二萬未滿ノ町村二十人、二萬以上ノ町村二十四人トシ二級選擧法ヲ以テ之ヲ選擧シ町村長ハ每町村若クハ町村組合ニ一名トシ北海道廳長官之ヲ任免シ書記ハ郡長ノ任免ニ係リ其ノ他ノ附屬員ハ町村長ノ任免ニ係ル故ニ理事機關ノ選任ニ就キテハ北海道町村ハ未タ十分ノ自治ヲ得ス

第五節、沖繩縣ニ於ケル區及間切島

第五節　沖繩縣ニ於ケル區及間切島

第一區（沖繩縣區制參照）

一一一　區（那覇首里ノ兩區）ハ郡ノ區域ニ屬セス別ニ行政區劃ヲ成スモノニシテ其ノ法律上ノ位置ハ內地ニ於ケル市ト相似タリ沖繩縣ニ於ケル郡ハ間切ト稱スル最下級ノ行政區劃ヲ以テ編成セラル間切ハ即チ內地ニ於ケル町村ナリ故ニ區ノ境界ト間切ノ境界トハ相連接シテ地方區劃ノ廢置分合上ニ關係ヲ生スルコト多シ區制第三條ハ此ノ場合ノ處分法ヲ明カニシ區ヲ變シテ郡內ノ間切トシ又ハ郡內ノ間切ヲ變シテ區ト爲スコトヲ要スルトキニ內務大臣之ヲ定メ區ノ境界ヲ變更シ又ハ郡內ノ間切ヲ區ニ合併シ又ハ區ノ區域ヲ分割スルコトヲ要スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ムルコトヽセリ

於ケル區及間切島第一、區區ノ位置及其ノ廢置分合

區ノ行政機關

區ノ行政機關ニハ議事機關トシテ區會アリ理事機關トシテ區長、區書記、其ノ他附屬員アリ其ノ組織選任ノ條件竝ニ職權等總テ北海道ニ於ケル區制ノ定ムル所ト略ヽ相同シ故ニ茲ニ一々細說セス唯特ニ注意スヘキハ區制施行ニ關スル必要事項ヲ定メタル二十九年內務省令第四號トス其ノ事項ヲ擧クレハ左ノ如シ

區制施行ニ必要ナル事項

第一、區制施行後二年間ハ區公民タルカ爲メニ區ノ負擔ヲ分任スルノ條件ヲ要セサルコト

第二、區制施行後二年間ハ等級選擧ヲ行フヲ要サルコト及等級選擧ニ依ラサル議員ハ區制施行後二年間在職スルコト

第三、地租改正ニ至ルマテハ區制ニ關シ土地所有者ト看做スヘキ者ヲ定ムル方法ハ沖繩縣知事之ヲ定ムルコト

第四、區別實施ニ際シ區ノ公告式ニ關スル區規則ヲ公告スル方法ハ沖繩縣知事之ヲ定ムルコト

尙ホ區會ノ會議及傍聽ノ紀律竝ニ取締ニ關スル規則ハ、二十九年內務省令第三號ニ依リテ定マレリ、就キテ觀ルヘシ

第二　間切島

一一一一　明治三十一年勅令第三百五十二號沖繩縣間切嶋規程ハ沖繩縣ニ於テ間切嶋ト稱スル地方區劃ニモ自治制度ヲ設クルコトヲ認許セリ故ニ間切嶋ハ前述區ト相對シテ沖繩縣ノ地方團體ヲ組織シ其ノ法律上ノ位置ハ內

地ニ於ケル町村ト同シ卽チ區ハ郡ト獨立シテ別ニ區域ヲ爲スニ反シテ間切嶋ハ郡內ノ區劃タリ又間切嶋內ニハ別ニ村アリテ特別ノ財產又ハ造營物ヲ有シ其ノ事務ノ爲メ一定ノ條件ヲ以テ村會ヲ設クルコトヲ得(間切規程第十二條)乃チ其ノ名ハ村ト云フト雖モ法律上ノ位置ハ內地ニ於ケル町村內ノ區ト同シト知ルヘシ

間切嶋ハ法人トシテ財產ヲ有シ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務ヲ處理シ又法律命令又ハ慣習ニ依リテ間切嶋ニ屬スル事務ヲモ處理スルヲ得ルコト內地町村ト異ナルコトナシ然レトモ其ノ行政上ノ權限ハ專ラ財政ニ關シ町村カ其ノ公共事務ニ付キテ廣ク自治權ヲ有スルモノトハ同シカラス又吏員ノ組織任免等ニ關シテモ國家ハ之ニ干涉シ間切長、收入役、書記、村頭皆沖繩縣知事ノ任免ニ係ル(沖繩縣間切嶋吏員規程)間切嶋會ノ組織選擧、職務、權限其ノ他一切會議ニ關スル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經テ沖繩縣知事之ヲ定ム且ツ間切島ハ島民ノ權利義務ニ關シテ條例ヲ設クルコトヲ得サルノミナラス島有財產及造營物ニ關シテモ規則ヲ設クルコトヲ得ス法律

命令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外ハ内務大臣ノ許可ヲ經テ沖繩縣知事之ヲ定ムルコトヽ爲レリ

第二章　郡

前章ニ於テ地方自治行政ノ基本タル市町村ノ行政ヲ反覆審辨セリ故ニ本章及次章ニ於テ郡府縣ノ行政ヲ觀察スルニ當リテハ唯務メテ其ノ概要ヲ擧示セムト欲ス蓋シ市町村ト云ヒ府縣郡ト云ヒ等シク地方團體ニシテ其ノ性質略ヽ相同シ唯其ノ組織權限ノ範圍分量及機關ノ構成等ニ多少ノ差異アルニ過キサレハナリ若シ夫レ全體ノ理論ハ市町村ノ行政ニ關シテ爲セル說明ニ依リテ類推スルモ大差ナカラムカ

第一節　郡ノ組織

第一節、郡ノ組織
第一款、郡ノ一般ノ性質

第一款　郡ノ一般ノ性質

一一二三　郡ハ市制ヲ施行セサル地ニ設置セラルヽ地方團體ニシテ市町村ト同シク公法上及私法上ノ人格ヲ併有シ固有ノ行政權限ヲ行ヒ又固有ノ財

産能力ヲ有ス（郡制第二條）

公法人タル郡

郡カ公法上ノ法人トシテ有スル權限即チ自治ノ權限ハ市町村ニ比スルニ頗ル狹隘ナリ市町村ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ市町村條例及規則ヲ設定スルノ權限ヲ有スレトモ郡ハ寸毫モ此ノ權限ヲ有セス何トナレハ法律ハ此ノ權限ヲ郡ニ與ヘサレハナリ或ハ曰ク郡ハ既ニ公法上ノ人格ヲ有シテ強制權ヲ行フコトヲ得又安ソ條例若クハ規則ヲ設定スルヲ妨ケムヤト然レトモ此ノ點ニ就キテハ明文ノ有無ニ依リテ決セサルヲ得ス何トナレハ自治團體ハ法律命令ノ委任ニ依ラサレハ其ノ權力ヲ有セス條例及規則ノ設定權ハ專ラ法律命令ニ從ヒ法律命令ノ範圍内ニ於テスルモノニシテ自治團體ハ其ノ當然ノ權限トシテ之ヲ設定スルコトヲ得ルニ非サレハナリ

普通行政區劃タル郡

郡ハ地方團體タルト同時ニ普通行政區劃タルコト市町村ニ同シ故ニ郡ノ行政機關モ亦同時ニ地方行政ノ機關ト普通行政ノ機關トノ資格ヲ兼有ス之ヲ歐洲ノ制度ニ考フルニ或ハ郡ヲ設ケサル國アリ或ハ郡ヲ設クルモ獨立ノ行政ヲ有セシメサル國アリ我カ邦從來ノ郡ハ府縣内ノ行政區劃ニシテ全ク獨

立ノ生存目的ヲ有セス唯府縣知事ノ命令ヲ町村ニ傳フルノ關門タルニ過キサリシカ郡制ノ實施ト共ニ郡ハ從來ノ郡ト其ノ趣ヲ異ニスルニ至レリ

郡組合

一二一四 特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得若シ郡組合會ノ組織事務ノ管理方法竝ニ其ノ費用支辨ノ方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムル手續モ亦同シ而シテ此ノ如キ條件及手續ヲ以テ設置セラレタル郡組合ハ法人トシテ特別ノ財產ヲ有シ其ノ處理スル共同事務ニ付キテハ郡ト同一ナル法律上ノ資格ヲ備フ故ニ之ニ關シテ別段ノ規定アル場合ノ外ハ郡制ノ一般ノ規定ヲ適用ス(第百五條乃至第百七條)

第二款、郡ノ基礎

第二款　郡ノ基礎

郡ニハ直接ノ土地ノ住民ナシ

一二一五 郡ハ市制ヲ施行セサル土地ニ設置セラレ町村ヲ以テ其ノ組織ノ基礎トス故ニ市町村トハ全ク其ノ組織ノ方法ヲ異ニス市町村ハ土地及住民ノ二原素ヨリ組織セラルレトモ郡ハ町村ナル法人ヲ以テ組織セラル土地及住民ハ其ノ直接ノ基礎ニ非ス町村ノ土地及住民カ間接ニ郡ノ土地及住民ヲ成スノミ(第一條)

郡ノ廢置分合及境界ノ變更

郡ノ廢置分合及境界ノ變更ハ原則トシテハ法律ヲ以テ之ヲ定ム勅令及行政命令ヲ以テスルコトヲ得ス然レトモ郡ハ市ト併立シ町村ヲ以テ其ノ組織ノ基礎トスルカ故ニ若シ郡ノ境界ニ變更ヲ來タストキハ市町村ノ境界ニ當然ノ結果トシテ郡ノ境界ノ變更ナカルヘカラス而シテ市町村ノ境界ヲ變更スル場合ニハ關係者ノ意見ヲ聞キ監督官廳ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ得テ敢テ法律ヲ以テスルコトヲ要セス故ニ此ノ場合ハ一ノ例外トシテ法律ニ依ルノ必要ナキモノトス即チ郡ノ境界變更ニハ單純ナル郡界ノ變更トノ二アリテ前者ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ後者ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要セサルモノトス蓋シ此ノ如ク法律ヲ以テ郡ノ廢置分合及境界ノ變更ヲ定ムルヲ原則トスルハ其ノ行政上ニ於ケル利害ノ關係ノ緊切ナルコト市町村ノ比ニ非サレハナリ若シ郡ノ廢置分合及境界ノ變更ト關係ナク唯郡內ノ市ヲ變シテ町村トシ若クハ町村ヲ變シテ市

トスルニハ市町村制ノ定ムル所ニ依ルト解スヘシ而シテ右孰レノ場合ニ於テモ財産ノ處分ヲ要スルトキ例ヘハ土地建物若クハ積立金穀ノ分配若クハ併合ヲ爲スカ如キ必要アルトキハ法律ニ特定セル場合ノ外內務大臣ハ關係アル府縣、郡、市參事會、町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム(第三條)

第二節、郡ノ機關
第一款、郡會
郡會ノ組織

第二節　郡ノ機關

第一款　郡會

一二六　郡會ハ郡內ノ各町村ヲ以テ選擧區トシ其ノ選擧シタル議員ヲ以テ組織ス舊制ニハ町村稅ノ賦課ヲ受クル地價一萬圓以上ノ土地ヲ有スル者ヲ大地主トシテ之ニ特權ヲ與ヘ其ノ選出議員ノ定數ハ町村選出議員ノ定數ノ三分ノ一トシ若シ選擧權ヲ行フコトヲ得ル大地主ノ員數カ三分一ニ滿タサルトキハ其ノ大地主ハ選擧ニ依ラスシテ當然ニ議員タルコトヲ得タリ是レ徒ニ外國ノ制度ヲ採リテ之ヲ本邦ニ移シタルモノ個人平等ノ主義ニ反シタルハ勿論外國ノ沿革上ニ成リタル特例ヲ以テ何等ノ沿革ナキ我カ法制ノ上ニ加ヘタルコト其ノ愚笑フニ堪ヘタリシカ三十二年法律第六十五號ハ此

選擧區
選擧權

ノ規定ヲ全廢セリ

選擧區ハ町村ノ區域ニ限ルヲ原則トス然レトモ町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ法律上當然之ヲ一選擧區トス是レ例外ノ一ナリ又特別ノ事情アルトキハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經知事ノ許可ヲ得テ數町村ノ區域ニ亘リ選擧區ヲ設クルコトヲ得是レ例外ノ二ナリ郡會議員ノ數ハ十五人以上三十人以下トシ(郡ノ狀況ニ依リテハ內務大臣ノ許可ヲ得テ四十人マテ增加スルコトヲ得)其ノ各郡ニ於ケル定數及各選擧區ヨリ選出スヘキ議員ノ數ハ郡會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム(第四條第五條)其ノ數ヲ各選擧法ニ配當スルハ人口ヲ標準トス(三十二年內務省令第十八號)

舊法ニ依レハ郡會議員ノ選擧權ハ大地主ノ外ハ一個人ニ屬セスシテ法人タル町村ニ屬シタリ乃チ舊法ハ複選法ヲ用ヰシナリ新法ハ大地主ノ特權ヲ廢スルト同時ニ郡會選擧法ノ精神ヲ改メ郡內町村ノ公民ニシテ一定ノ條件ヲ充タス者ニハ選擧權ヲ與フルコトヽセリ其ノ條件ハ(一)町村會議員ノ選擧權ヲ有スルコト(二)郡內ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムルコト、

被選擧權

ス家督相續ニ依リテ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付キ被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ自ラ爲シタルモノト見做ス故ニ被相續人ニ於テ一年以來直稅國稅年額三圓以上ヲ納メタルトキハ相續人ハ財産ト共ニ其ノ納稅資格ヲ取得ス(第六條第一項第三項)

郡會議員ノ被選擧權ハ選擧權ト其ノ條件同シ唯納稅額ニ差アルノミ即チ被選擧權ヲ得ルニハ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムルコトヲ要ス又一定ノ職務若クハ職業ニ從事スル者ハ法律上特別ノ制限ニ依リテ被選擧權ヲ有セス(第六條第二項第六項以下)

郡內ノ一町村ヨリ他町村ニ住居ヲ移シタル者ハ其ノ納稅資格ニ於テ異動ヲ生スルコトナシト雖モ公民權ヲ喪失スルカ故ニ其ノ移住シタル町村ニ於テ新ニ公民權ヲ取得シ其ノ町村會議員ノ選擧權ヲ有スルニ至ルマテハ郡會議員ノ選擧權被選擧權ヲ失フヘシ但既ニ選ハレテ議員ト爲リタル者ハ之カ爲メニ職ヲ失ハサルコト、爲レリ府縣、郡、市町村ノ廢置分合又ハ境界ノ變更ハ一個人カ自由意思ニ依リテ移住シタル場合ト異リ法律上ノ資格ハ之カ爲メ

選擧ノ時期

ニ中斷セラルヽコトク舊町村ニ於テ得タル公民權ハ廢置分合又ハ境界ノ變更ニ依リテ新ニ生シタル町村若クハ合併セラレタル町村ニ於テ繼續スルモノナレハ其ノ他ノ條件ニ於テ缺クル所ナクハ續キテ郡會議員ノ選擧權被選擧權ヲ行フコトヲ得ヘシ(第六條第四項第五項)

郡會議員ノ任期ハ四年トシ全數ヲ改選ス之ヲ定期選擧トス若シ議員中闕員ヲ生スルトキ及議員ノ定數ニ異動ヲ生シ又ハ議員ノ配當ヲ更正シタルトキハ三ケ月內ニ補闕選擧ヲ爲サシム若シ又議員ノ定數ニ異動ヲ生シ又ハ議員ノ配當ヲ更正シタルカ爲メ選擧ヲ要スルニ非スシテ却テ解任ヲ要スルトキハ其ノ解任ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム(第七條第八條)

選擧ノ方法

郡會議員ノ選擧方法ハ舊法ニ依レハ町村選出議員ハ町村選出議員ハ複選法ニ依リ大地主議員ハ互選法ニ依リタリ町村選出議員ハ町村公民カ直接ニ選擧スルニ非スシテ其ノ選擧シタル町村會カ之ヲ選擧シ大地主議員ハ其ノ定數以上ニ及フ限リハ選擧權ヲ行フコトヲ得ル大地主カ互ニ其ノ大地主中ヨリ之ヲ選擧シタレトモ新法ハ大地主ノ特權ヲ廢シ又單選法ヲ採用シタルカ故ニ一定ノ選擧

郡會ノ權限

權ヲ有スル者カ一定ノ被選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧スレハ足ル尚ホ選擧ノ準備及選擧會ノ手續竝ニ選擧ノ效力等ニ關スル規則ハ法律ニ細定アリ一々之ヲ說カス唯此ニ注意スヘキハ市町村會議員モ郡會議員モ等シク名譽職ナレトモ一ハ義務トシテ命セラレ一ハ敢テ義務トシテ任スルヲ要セサルコト是レナリ市町村議員ハ特定ノ場合ニ非サレハ當選ヲ辭スルコトヲ得サレトモ郡會議員ニ付キテハ辭任ノ場合ニ制限ナシ故ニ其ノ辭任ノ爲メニ法律上ノ制裁ヲ受クルコトナシ(第九條乃至第二十八條)

一一一七 郡會ノ權限モ亦外部ノ權限ト內部ノ權限トニ分チテ之ヲ攷察スルコトヲ得其ノ外部ノ權限ハ左ノ如シ(第二十九條乃至第三十三條)

第一郡制ニ列記セル事件ヲ議決スルコト　郡制ニ列記セル事件七皆郡有財產ノ管理處分及會計ノ事ニ關ス此ニ一々說述スルヲ要セス唯一言スヘキコトハ此ノ列記ハ制限的ノ列記ニシテ例示的ノ列記ニ非サルコト是レナリ故ニ郡會ノ議決權限ハ列記事件ノ外ニ出ツルヲ得ス市町村會カ市町村一切ノ事件ヲ議決スルノ權限アルモノトハ異ナレリ

第二法律命令ニ依リテ權限ニ屬スル事項ヲ議決スルコト　郡參事會員ノ選擧及無給吏員ノ選擧ノ如キハ其ノ一例ナリ

第三官廳ノ諮問ニ應シ意見ヲ陳述スルコト　是レ市町村會ニ付キテ述ヘタル所ニ同シ

第四郡長又ハ監督官廳ニ意見ヲ呈出スルコト　郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付キテハ郡會ハ郡長又ハ監督官廳ニ意見ヲ呈出スルコトヲ得

郡會ノ權限ハ以上述フル所ヲ出テス而シテ其ノ議決權限ニ屬スル事件ハ郡會自ラ之ヲ議決セスシテ郡參事會ニ委任スルコトヲ得(第三十條)是レ專ラ郡會ニ一ノ便法ヲ授ケタルモノニシテ例ヘハ開期短クシテ悉ク其ノ權限ニ屬スル事項ヲ議了スル能ハス若クハ其ノ事項ノ重要ナラスシテ臨時會ヲ開クノ必要ナシト認ムルカ如キ場合ニハ郡會ハ適宜ニ自己ノ權限ニ屬スル事項ヲ郡參事會ニ委任スルヲ得ルモノナリ

郡會內部ノ權限ニ關シテハ郡制第三十五條乃至第五十二條ニ其ノ大要ヲ定

ム而シテ議事規則竝ニ傍聽人取締規則ハ郡會之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ經テ之ヲ施行スヘキコトヽ爲レリ

第二款　郡參事會

第二款、郡參事會、郡參事會ノ組織

一一一八　郡參事會ハ郡長及名譽職參事會員五名ヲ以テ組織シ郡長ヲ以テ議長トス名譽職參事會員ハ郡會ニ於テ其ノ議員中ヨリ互選シ其ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ又郡會ハ同數ノ補充員ヲ互選シ名譽職參事會員ニ闕員アル場合ニハ郡長ハ補充員中ヨリ一定ノ順序ニ從ヒテ補充セシム仍ホ闕員ヲ生シタル場合ニハ臨時補闕選擧ヲ行ハサルヘカラス(第五十四條、第五十五條)

郡參事會ノ權限

一一一九　郡參事會ノ權限ハ郡制ニ列記セラレタル事件及法律命令ニ依リテ其ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理スルニ在リ郡制ノ列記ハ制限的ノ列記ニシテ市町村制ノ如ク概目ヲ揭ケタルニ非ス法律命令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ハ町村制ニ於テ多ク其ノ例ヲ見ル郡會議員被選權ノ有無及選擧ノ効力ニ關スル裁決ノ如キハ郡制ニ依リテ郡參事會ノ權限ニ屬スルモノナリ(第五十六條、第二十三條、第二十六條)

郡長

郡長ハ郡ヲ統轄シ又之ヲ代表シ郡會及郡參事會ノ議決ニ付スヘキ議案ヲ發シ郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行シ郡財產及造營物ヲ管理シ郡費其ノ他ノ賦課徵收ヲ爲シ其ノ他一切法律命令ニ依リテ其ノ職權ニ屬スル事項ヲ擔任ス(第六十六條)若シ郡會又ハ郡參事會成立セス若クハ招集ニ應セス若クハ特定ノ原因ニ因リ會議ヲ開ク能ハサルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請ヒテ郡會及郡參事會ノ議決ニ付スヘキ事項ヲ專決處分スルコトヲ得臨時急施ヲ要シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナシト認メタルトキモ亦同シ但シ此等ノ場合ニハ次回ノ郡會又ハ郡參事會ニ其ノ處分ヲ報告スルコトヲ要ス(第七十二條第七十三條)尙ホ郡長カ郡會又ハ郡參事會ニ對スル職務上ノ關係ハ郡制第六十七條以下ニ就キテ見ルヘシ

其ノ他ノ郡吏員

官制ニ依リテ定マレル郡官吏ノ外尙ホ有給若クハ無給ノ郡吏員ヲ設クルコトヲ得有給吏員ノ定數ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定メ府縣知事之ヲ任免ス無給吏員ノ組織選任等ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム(第六十三條乃至第六十四條)

第三節、郡行政ノ監督

第三節　郡行政ノ監督

一三〇　郡行政ノ監督ニ於テモ大體ノ理論ハ市町村行政ノ監督ニ於ケルト異ナル所ナシ唯團體ノ階級異ナルカ故ニ其ノ監督ノ順序ヲ異ニスルノミ即チ郡ノ監督ハ市ノ監督ト同シク第一次ニ府縣知事第二次ニ內務大臣之ヲ行フ而シテ特ニ法律命令ノ指定スル場合ニハ府縣參事會及行政裁判モ亦一種ノ監督ヲ行フコト市町村制ト立法ノ旨趣全ク相同シ(第百八條乃至第百十九條)尙ホ郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ハ明治三十二年勅令第百十五號ニ就キテ知ルヘシ

第三章　府縣

第一節、府縣ノ組織

第一節　府縣ノ組織

一三一　府縣ノ一般ノ性質ハ郡ト畧ヽ相肖タリ郡及市ヲ以テ組織セラレタル最上級ノ地方團體ニシテ公法上及私法上ノ人格ヲ併有ス然レトモ其ノ公法上ノ人格ハ郡ト同シク完全ナル人格タルコトヲ得ス蓋シ行政上實際ノ必要カ未タ全然ニ自治權ヲ與フヘカラサルモノアルニ依ル之ヲ歐洲諸國ノ制度ニ攷フルモ府縣若クハ州ノ成立ハ市町村ト異ナリテ多クハ法律ノ創設ニ係リ固有行政ノ範圍狹クシテ普通行政ノ權限廣キヲ常トス殊ニ我カ邦ノ如キニ至リテハ府縣ハ全ク明治行政ノ新設セシ所ニシテ毫モ舊來ノ歷史ト相關セス而シテ其ノ新設ノ府縣ハ單純ナル普通行政區劃ニシテ地方團體ノ性質ヲ有セサリシカ府縣制ノ制定アルニ及ヒテ始メテ府縣ノ公法上ノ人格ヲ認メ國家ノ行政ノ外ニ府縣ノ行政アルニ至レリ(府縣制第二條)

府縣ノ基礎

府縣ハ郡及市ヲ以テ組織セラル故ニ其ノ組織ノ基礎郡ト其ノ趣ヲ同シクシ市町村ノ如ク直接ノ土地及住民ナク郡若クハ市カ府縣直接ノ基礎ヲ成シ其ノ區町內ノ市町村ノ土地及住民カ間接ニ府縣ノ土地及住民ト爲ルニ過キス(第一條)

府縣ノ廢置分合

一三二　府縣ノ廢置分合及境界ノ變更ハ法律ヲ以テ定ムルヲ通則トスルコト郡ト同シ然レトモ府縣ノ下ニハ幾多ノ小團體アルカ故ニ府縣其ノ物ノ境界ヲ變更スルニ非スシテ其ノ區劃內ノ小團體ノ境界變更ニ依リテ府縣ノ

境界ニ變更ヲ來タスコトアリ而シテ郡ノ境界變更ハ齊シク法律ヲ以テ定ムルカ故ニ府縣ノ境界ニ變更ヲ來タスモ其ノ法律ニ依レル結果タルニ於テ一ナリト雖モ市若クハ郡内ノ町村ノ境界變更ハ法律ヲ以テスルノ必要ナキカ故ニ此等ノ場合ニ間接ノ結果トシテ府縣ノ境界ヲ變更スルモ別ニ法律ニ依ルヲ要セス而シテ就レノ場合ニ於テモ府縣ノ廢置分合及境界變更ノ爲メニ財産處分ヲ要スルトキハ法律ニ特定アル場合ノ外ハ内務大臣之ヲ定ムルコト猶ホ郡制ニ於テ財産處分カ府縣知事ノ職權ニ歸スルカ如シ(第三條)

第二節、府縣ノ機關
第一款、府縣會ノ組織

第二節　府縣ノ機關

第一款　府縣會

一三三三　府縣會ハ郡及市ニ於テ選擧シタル議員ヲ以テ組織ス議員ノ定數ハ管内ノ人口七十萬マテハ議員三十名ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬マテハ五萬ヲ加フル毎ニ一名ヲ增シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一名ヲ增ス府縣會規則(明治十三年太政官布告第十五號)ニ依レハ郡及區ヲ以テ府縣會員ノ選擧區トセシカトモ市町村制施行ノ今日ニ於テハ區ハ既ニ廢セラレ市ハ郡

選擧權及被選擧權
選擧ノ時期

ト相並フノ地位ニ至レルヲ以テ府縣制ハ郡及市ヲ以テ選擧區トセシナリ但東京、京都、大阪ノ三市其ノ他特別ノ規定アル市ニ於テハ區ヲ以テ選擧區トス(第四條第五條)

府縣會議員ノ選擧權及被選擧權ヲ有スルニハ府縣内市町村ノ公民タルコト及其ノ府縣ニ於テ一定ノ租稅ヲ納ムルコトヲ要ス之ヲ郡制ニ比スルニ被選擧權ニ必要ナル財產資格ニ於テ差異アリ府縣會議員ニ選擧セラルヽニハ其ノ府縣内ニ於テ一年間以來直接國稅年額十圓以上ヲ納メサルヘカラス其ノ標本ヲ市町村公民權ニ取ルニ至リテハ皆相同シ而シテ移住ノ一事ヲ以テ市町村公民權ヲ失ヒタル者ハ仍ホ府縣會議員ノ職ヲ失フコトナキモ郡制ニ於ケルト其ノ旨趣ヲ同シクス其ノ當選ニ要スル分限又ハ職業上ノ制限ハ略、相似タリ(第六條)

府縣會議員ノ任期ハ四年トシ全數ヲ改選スルヲ以テ定期選擧トス補闕選擧ハ議員ヲ生シタル日ヨリ三ケ月以内ニ之ヲ行フ議員ノ定數ニ異動ヲ生シ又ハ議員ノ配當ヲ更正シタルカ爲メ議員ノ選擧ヲ要スルトキモ亦同シ(第七條

第八條）

選擧ノ方法

舊法ニハ府縣會議員ノ選擧方法ハ郡會議員ト同シク特殊ノ複選法ニ依レリ即チ府縣內ノ市町村公民カ直接ニ選擧ヲ爲サス府縣ヲ組織スル郡及市ニ於テ之ヲ爲シ市ニ在リテハ市會及市參事會同シ市長ヲ會長トシ郡ニ在リテハ郡會及郡參事會同シ郡長ヲ會長トシテ法律ニ定メタル手續ヲ以テ選擧ヲ行ヒタレトモ新法ハ單選法ヲ採用シテ選擧權ヲ有スル者ヨリ選擧スルコト、爲レリ尙ホ選擧ノ手續及効力ノ判定ニ關シテハ法律ニ細定アリ一々之ヲ說クヲ要セス（第九條乃至第四十條）

府縣會ノ權限

一三四 府縣會ノ權限ニ就キテハ多言ヲ要セス其ノ外部ノ權限トシテハ府縣制ニ列記セラレタル事件及法律命令ニ依リ權限ニ屬スル事件ヲ議決スル之ヲ從前ノ府縣會規則ニ依リテ規定セラレタル府縣會ノ權限ニ比スレハ稍〻其ノ權限ヲ擴充シ且其ノ區域ヲ明晰ニセシモノアリ（第十五條府縣會規則第一條第六條）尙ホ此ノ他官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ答申シ府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付キテ府縣知事又ハ內務大臣ニ意見ヲ呈出シ又便宜ニ從ヒテ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得ルハ郡會ノ權限ト大略相似タリ（第四十一條乃至第四十五條）

府縣會ニ於ケル市部會及郡部會ノ特例

議長副議長ノ選任、會議ノ招集、開閉、採決ノ方法、議場ノ秩序保持等即チ內部ノ權限ニ關スル規則ハ一々此ニ之ヲ述ヘス尙ホ議事規則及傍聽人取締規則ハ府縣會之ヲ設定シ內務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ施行セサルヘカラス（第四十七條乃至第六十四條）

一三五 舊法ニ依レハ三府及從前市部會、郡部會ヲ置キタル縣ニ於テハ府縣會ニ關シテ一ノ特例ヲ設クルコトヲ得タリ即チ其ノ府縣ニ於テ府縣會ニ屬スル事件ヲ市ニ專屬スルモノト其ノ他ノ部分ニ屬スルトニ分別スルノ必要アルトキハ府縣會ノ議決ニ依リテ之ヲ分別シ市部議員ハ市部ニ於テ選擧シ郡部議員ハ其ノ他ノ部分ニ於テ選擧シ市ニ專屬スル事件ハ郡部議員其ノ議事ニ參與シ議決ニ加ハルコトヲ得ス其ノ他ノ部分ニ關スル事件ハ市部議員其ノ議事ニ參シ議決ニ加ハルコトヲ得ス各部議員ハ各自臨時議長ヲ互選シテ其ノ議事ヲ開クヘキコト、爲レリ蓋シ此ノ特例ヲ設ケタルハ郡部ト市

部ニ於テ頗ル利害ノ關係ヲ異ニスルモノアルニ依ル例ヘハ全市ニ瓦斯ヲ點スルカ如キ水道ノ改良ヲ爲スカ如キ橋梁ノ架設ヲ企ツルカ如キ獨リ市ノ利害ノミニ關係シ全ク郡部ト其ノ經濟ヲ異ニスル必要アリ若シ此ノ場合ニ郡部議員ヲシテ議事ニ參與セシムルトキハ啻ニ市ノ事情ニ疎ナルノミナラス往々失當ノ措畫アルヲ免レス是レ各部會ノ分別ヲ置キタル所以ナリ新法ニ於テモ亦同シク此ノ特例ヲ認メサルニハ非サレトモ專ラ勅令ノ定ムル所ニ依ルモノトシ又三府及從前市郡部ノ分別アリタル府縣ノミニハ限ラス廣ク特別ノ事情アル府縣ニハ之ヲ行フコトヲ得ルト同時ニ從前市郡ノ經濟ヲ異ニシタル府縣モ特別ノ事情ト云フキヘモノナキニ於テハ特例ヲ廢シテ全管內統一ノ行政ヲ爲サシメムコトヲ期ス此ノ場合ノ府縣財產ノ處分ハ內務大臣之ヲ定ム(第百四十條)

明治三十二年六月勅令第二百八十五號ニ依レハ從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會、郡部會、市部參事會、郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得ト定メ同年內務省令第二十五號ハ之ニ本ツキテ東京、京都、大阪ノ三府及神奈川、兵庫、愛知、廣島ノ四縣ニ此ノ特例ヲ設クヘキヲ命セリ又同勅令ニ依レハ市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル議員ヲ以テ組織シ各部議員ノ定數ヲ十二名トシ十二名ニ滿タサルトキハ府縣制第五條ノ定員ニ拘ラスシテ之ヲ十二名トシ府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ決議ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定メ若シ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ムルコトヽ爲レリ府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ニ付キテモ亦同シ而シテ此ノ二ノ場合ノ決議ヲ爲スニハ議員定數五分ノ四以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二款　府縣參事會

一二六　府縣參事會ハ府縣知事、高等官及名譽職參事會員ヲ以テ組織シ府縣知事ヲ議長トス名譽職參事會員ハ府ニ於テハ八名ヲ定數トシ縣ニ於テハ六名ヲ定數トシ府縣會議員中ヨリ互選ス參事會員タル高等官ハ其ノ府縣高

等官中ヨリ內務大臣之ヲ命ス名譽職參事會員ノ任期ハ府縣會議員ノ任期ニ從フ其ノ闕員ヲ生シタル場合ノ補充方法ハ郡制ニ於ケルト同シ即チ府縣會ハ定期選擧毎ニ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選擧シ闕員ノ生スル場合ハ府縣知事ニ於テ補充員中ヨリ一定ノ順序ニ依リテ補充ス仍ホ闕員ヲ生シタル場合ハ臨時補闕選擧ヲ行フヘキモノトス(第六十五條第六十七條)

府縣參事會ノ權限

一三七 府縣參事會ノ職權ニ付キテモ亦多言ヲ要セス府縣制ニ列記シタル事件及法律命令ニ依リテ其ノ職權ニ屬スル事件ヲ處理ス府縣制ニ列記シタル事件ハ主トシテ府縣ノ財政ニ關ス法律命令ニ依ル職權ハ郡制市町村制等ニ定マレル裁決權ノ如キ明治二十四年勅令第百九十六號ニ定マル土地收用審査及所得稅審査ノ事務ノ如キ是レナリ其ノ內部ノ處務規程モ亦法文ヲ參照セハ足ラム(第六十八條乃至第七十四條)

府縣知事及爾餘ノ府縣吏員

府縣知事カ府縣行政ノ理事機關トシテノ權限及有給無給ノ府縣職員ニ關スル規定モ亦郡制ト其ノ旨趣ヲ同シクス故ニ此ニ詳述セス(第七十五條乃至第九十二條)

第三節 府縣行政ノ監督

府縣參事會ニ於ケル市部會郡部會ノ特例

一三八 府縣參事會ニ於テモ府縣會ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣參事會ヲ分チテ市部參事會郡部參事會ヲ置クコトヲ得(第百四十條)

明治三十二年勅令第二百八十五號ニ依レハ此ノ特例ヲ設ケタル縣ノ名譽職參事會員ノ定數ヲ府ト同シク八名トシ又此ノ特別ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ市部會及郡部會ニ於テ定員ノ半數ヲ選擧スルコトヽ爲レリ乃チ舊府縣制ノ規定ト異ナル所ナシ尙モ此ノ特別ヲ設クヘキ府縣ハ前ニ示シタル所ヲ看ヨ

市部會ノ設置アルモノヽ外假令ヒ其ノ府縣內ニ市制ヲ施行スル地アリトモ其ノ市ハ郡部ノ中ニ算入セサルヘカラス例ヘハ東京府管內ニ於テ東京市以外ニ市アリトスルモ其ノ市ハ市部會ノ組織ヲ有セス從ヒテ市部名譽職參事會員ノミヲ以テ議事ヲ開クコトヲ得ス即チ府縣廳所在ノ市ニ於テノミ市部會ノ特例ヲ適用セラルヽナリ今其ノ好例證ヲ求ムレハ兵庫縣ニ於ケル姬路市ノ如キハ然リ神戸市ニノミ市部會ノ特例ヲ適用シ姬路市ニハ之ヲ適用セス

府縣行政ノ監督

一三九 府縣行政ノ監督ハ内務大臣之ヲ行フ又行政裁判所モ亦間接ニ之ヲ行フ其ノ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキ場合ハ法律勅令ノ定ムル所ニ依リ且其ノ場合ニハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得サルコト郡制、市町村制ノ規定ノ旨趣ト異ナル所ナシ尚ホ府縣行政ニ關シテ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ハ三十二年勅令第百十五號ニ定マレリ

特別行政ノ組織セラルヽ原由

第三部 特別行政ノ組織

第一章 特別行政ノ必要

一四〇 國家ハ自ラ一切ノ政務ニ酬應スル能ハス苟モ其ノ利害ノ緊切ナルニ非スムハ務メテ之ヲ地方團體ノ自治ニ委ヲ以テ自己ノ負擔ヲ輕減セムコトヲ要ス然レトモ行政事務ノ錯雜ナル未タ地方團體ノ自治ヲ以テ足レリトセス國家ハ特別ノ目的ノ爲メニ特別ノ行政機關ヲ組織スルコトアリ抑モ社會百般ノ事物ノ進歩ヲ計ラムト欲セハ宜シク一個人ノ能力ヲ啓發スルト同時ニ共同事業ノ伸達ヲ奬勵スヘシ故ニ個人的勞力ノ自由ヲ保護スルト同

幕府時代ノ特別行政組織

時ニ共同組合ノ設備ヲ保護スルハ近世文化諸國ノ通態ナリ其ノ共同組合ヲ保護スル方法ニ二アリ曰ク私法上ノ作用ヲ附スルモノ是レナリ私法上ニ共同組合ヲ保護スルハ會社法規ノ依リテ存スル所以ナリ其ノ共同組合ニ公法上ノ作用ヲ附スルモノ曰ク公法上ノ作用ヲ附スルハ特別行政組織法規ノ依リテ存スル所以ナリ私法上ノ共同組合ハ普通法ノ範圍ニ屬ス公法上ノ共同組合ハ特ニ行政法ニ於テ攷察スヘキノ材料タリ

一四一 歐洲諸國ノ法制ヲ案スルニ農、工、商業、宗教、教育、救恤、儲蓄其ノ他諸種ノ事業ノ爲メニ設ケラレタル公共組合頗ル多シ本邦ニ於テモ舊幕時代ニ在リテ諸業組合ハ夙ニ公共組合ノ面目ヲ具ヘ組合ノ自治ニ依リテ其ノ行政ヲ施爲セシノ慣習アリキ即チ營業ノ種類ニ從ヒテ各自團體ヲ組成シ例ヘハ酒屋仲間、木綿問屋仲間、旅人宿仲間ト云フ如ク皆各業ノ組合アリテ一定ノ規約ヲ立テ行事、老分等組合ノ機關ノ合議ニ依リテ共同ノ事務ヲ執行シ又稅金ノ如キモ酒屋仲間ハ千兩、木綿問屋仲間ハ五百兩ト云フカ如キ定額アリテ幕府ハ皆直接ニ組合ニ賦課シ組合ハ其ノ行事老分ノ合議ニ依リテ

之ヲ各營業者ニ分賦シタルコト恰モ現時ノ分配稅ノ如キモノアリキ又殊ニ夫役現品ノ賦課ハ主トシテ各組合ニ於テ負擔シ例ヘハ河川ノ浚渫ハ河川ヲ通行スルニ最モ利便ヲ感スル石屋、材木屋、筏乘等ノ役務トシ御用ノ魚介ハ魚問屋、蔬菜ハ青物市場ヨリ納メ疊ハ疊町、染物ハ紺屋町ニ賦課スト云フカ如キ各組合ノ負擔ヲ分チ又町會所ノ設立アリテ一定ノ積金ヲ有シ之ヲ勘定所用達ニ委託貸附ヲ爲シ其ノ利息ヲ以テ會所ノ吏員、用達商人、年番、肝煎、名主等ニ給與シ其ノ餘ハ計算帳ニ編入シテ家賃、貸附、積立米穀買入竝ニ會所米倉ノ修繕費等ヲ支拂ヒ其ノ積立金穀ヲ以テ市民ノ窮乏ヲ賑恤セリ(町會所ノ設立ハ寛政三年松平定信ノ創意ニ係ル定信江戸ノ市制ヲ改革シ天明五年ヨリ寛政元年ニ至ルマテ五个年間ノ收支ヲ精算シ務メテ冗費ヲ節減シ將來一个年ノ豫算ト前五个年平均ノ決算トヲ對比シ其ノ減額ノ一分ハ臨時支出ニ充テ二分ハ地主ノ增收トシ七分ヲ以テ積金ト定メタリト云フ維新ノ後此ノ會所ハ廢シタレトモ其ノ遺金ハ區部共有金ト爲リ存シテ今日ニ至リ東京府廳ノ新築費ノ如キハ其ノ財源ノ大半ヲ此ノ遺金ニ仰ケリト云フ)獨リ江戸ニ於テ然

ルノミナラス當時各藩ノ諸業組合制度モ亦大同小異ナリキ又農業、信用、組合モ、亦各地ニ組織セラレ二宮尊德ノ報德社ノ如キ最モ著ハレタリ要スルニ當時ノ組合組織ハ固ヨリ不完全ナリシナルヘシト雖モ其ノ一種ノ自治團體トシテ公務ヲ處理センコトハ又殆ト疑ナシ然ルニ維新ノ大變革ト共ニ一切ノ舊制ヲ打破シ公共組合ノ組織モ亦全ク絕滅ニ歸セリ現今世上ニ行ハル、組合ハ多クハ私益ヲ計畫スルカ爲メニ成リ若クハ單純ノ申合規則ヲ設ケテ之ヲ守ルニ過キス眞正ノ公共組合ト稱スヘキモノハ極メテ尠ク從ヒテ之ニ關スル法規モ未タ十分ナラサルモノアリ蓋シ公共組合ノ發達ハ自治ノ精神ノ發達ニ伴フモノニシテ法律ノ劇カニ創設スヘカラサルモノナレハ我カ現行法ノ此ノ點ニ於テ完備セサルモ亦偶然ニ非ス

第二章　公共組合ノ成立

一四二　公共體合ハ公法上ノ人格ヲ有シテ權力ヲ行フコト地方團體ト異ナル所ナシ唯其ノ事務ノ特定セルト其ノ組織ノ元素カ組合員ニ限ルトノ二

公共組合カ地方團體ト差異アル點

點ニ於テ地方團體ト同シカラス或ハ公共組合ノ組織カ土地區劃ヲ限ルヲ見テ其ノ必スシモ組合員ノミヲ元素トセサルカ如ク思惟スル者アリ公共組合モ亦固ヨリ一定ノ土地區劃ヲ限ルヲ常トス然レトモ其ノ土地區劃ハ組合員ヲ定ムルノ標準ニシテ組合ノ權力カ其ノ土地區劃ハ組合組織ノ元素ニ非ス又或ハ町村組合及市町村內ノ自治區ヲ以テ公共組合ノ一種ト思惟スルモノアリ町村組合ノ如キハ特定ノ事務ノ爲メニ設ケラルヽコトナキニ非スト雖モ亦一般ノ事務ノ爲メニモ之ヲ設クルコトヲ妨ケス又市町村內ノ自治區ニ至リテモ亦同シ假令ヒ此等ノ組合ノ事務特定セル場合ニ於テモ其ノ組合ハ單ニ組合員ヲ以テ成立スルニ非スシテ一定ノ土地區劃ヲ有ス故ニ之ヲ地方團體ノ組織ノ特殊ナルモノトスルコトヲ得ルモ以テ公共組合ノ一種トスルヲ得ス之ヲ要スルニ公共組合ハ其ノ如何ナル目的ノ爲メニ成立セルヲ問ハス其ノ組織カ土地區劃ニ依ラスシテ特定ノ事務ノ爲メニ行政權ノ一部分ヲ享有スルノ能力ヲ有スルモノハ皆之ヲ公共組合ト總稱シテ可ナリ而シテ此ノ行政權享有ノ能力ハ組合カ行政法上ノ人

公共組合カ私法上ノ組合ト差異アル點

佛國行政法學者ノ公共組合ニ關スル謬見

格ヲ有スル所以ニシテ又其ノ私法上ノ組合ト確然區別ノ存スル所以ナリ

公共組合ハ行政法上ノ人格ヲ有ス故ニ國家及地方團體ト竝ヒテ一種ノ行政組織ヲ成ス若シ此ノ人格ヲ有セサレハ其ノ組合ハ假令ヒ公共ノ事業ニ從事スルモ偶々其ノ事業カ公共ノ利益ニ關スト云フニ止ル以テ行政上ノ組織ヲ成スコトヲ得ス佛國ノ行政法書ヲ見レハ公法上ノ組合ヲ分チテ公共組合及公益ノ組合(Etablissemlnts publics, etablissements d'utilitl publique)ノ二種トスルモノ多シ然レトモ此ノ二種ノ組合ノ性質ヲ說キ得テ分明ナルモノナシ例ヘハシモネー氏ノ如キハ首ニ此ノ區別ノ必要ヲ極言セルニ拘ハラス究竟之ヲ曖昧塗糊ニ付シ只公益ノ組合ハ純然タル行政機關ニ非スシテ單ニ其ノ補充ヲ爲スモノナルカ故ニ之ヲ公共組合ニ比スレハ法人ノ資格ヲ與フル場合少ク又行政監督ノ點ニ於テモ國家ハ同一ノ監督權ヲ有セサル代ハリニ之ヲ補助スルノ義務モアルコトナシトノ數語ヲ以テ此ノ二者ノ區別ヲ立テタリ余輩ノ考フル所ニ依レハ公益ノ組合ハ公法上ノ組合ニ非ス佛國ノ學者カ通常公益ノ組合トシテ擧クル所ノ女子敎育及救恤組合,學術文學組合,相互保險組

合等ノ如キ唯一私人ノ結合カ一般ニ對シテ公益ヲ與フト云フニ過キス又其ノ說明ノ依ル所ヲ見ルモ此等ノ組合カ法人トシテ財産ヲ所有スルコトヲ許サルレハ佛國ノ學者ハ直ニ之ヲ公共組合ノ一種ト見做スモノヽ如シ然レトモ私法上ノ人格何ソ公法上ノ人格ト相關セムヤ公益ノ組合カ假令ヒ私法上ニ財産能力ヲ有スルモ只私法上ノ法人タルニ止ル何ノ必要アリテ之ヲ公共組合ト謂ハムヤ獨リオーリユー氏ノ行政法綱要ハ能ク此ノ二者ヲ分別シ謂ハユル公益ノ組合ハ公法上ノ組合ニ非ストセリ曰ク公益ノ組合ハ公衆ノ爲メニ務ム然レトモ其ノ事務ハ公務ニ非スシテ私事タリ實際或ル場合ニ同一ノ法規カ公益ノ組合ト公共組合トノ上ニ適用セラルヽコトアレトモ國家ハ同一ノ方法ヲ以テ監督スルノミ公共組合ハ公法人ニシテ公益ノ組合ト混淆スヘカラス唯或ル學者カ漫然トシテ公益ノ組合ヲ稱呼スルニ公法人(Personne morale publique)ナル語ヲ以テシテ知ラス識ラス之ヲ混淆スルニ至レルノミト蓋シ佛國ノ學者カ大抵此ノ間ノ區別ヲ瞹昧ニ附シ去ルノミナラス立法者モ亦嘗テ之ヲ混同セリ今日ニ至リテハ參事院ノ判決例ニ於テモ學者ノ論說ニ

於テモ此ノ區別ヲ確認シ立法者モ亦截然二者ヲ分界セルカ如シト雖モ學者ノ多數ハ今尙ホ公法上ノ組合ニ此ノ二種ノ組合アリト考フルモノヽ如シ是全ク公私法人ノ性質ヲ明確ニセサルノ誤リニ出ツト謂フヘシ(Simonet l. c., p. 5 14-1518, Haurion, l. c., p. 229)

以上反覆辯明セル所ニ依リテ公共組合ノ何タルコトハ略ホ瞭然タルヘシ然レトモ公共組合ニ非サルモノモ尙ホ國家ノ權力ヲ賦與セラルヽコトアリ或ル場合ニハ私法上ノ法人カ頗ル強大ナル權力ヲ行使スルヲ妨ケス若シ權力ヲ行フノ一事カ公法上ノ人格ヲ表示ストセハ此ノ如キ組合モ亦公共組合ト稱スルコトヲ得ルカ曰ク否然ラハ將タ如何ニシテ其ノ差異ヲ審識セムカ余輩ノ卑見ニ依レハ私法上ノ組合カ強制權ヲ行フハ全ク特別ノ場合ニ特別ノ許可ヲ要スルモノニシテ法律ニ依リテ當然ニ其ノ權能ヲ享有スルニ非ス特許ニ依リテ得タル所ノ特權タリ唯其レ特權タリ故ニ一般ノ理論ノ範圍內ニ於テ之ヲ說クヘカラス即チ行政法上ノ權力ノ委任ト毫モ相干繫セスシテ解釋セラルヘシ故ニ例ヘハ銀行ニ紙幣發行ノ權ヲ與フルモ其ノ權ハ一種ノ特權

タルノミ銀行ハ之カ爲メニ公共組合ト爲ルニ非ス又例ヘハ私設鐵道會社ヲシテ行政警察權ノ一部分ヲ行使セシムルコトアルモ私設鐵道會社ハ此ノ特權ヲ有スルカ爲メニ公共組合ト爲ルニ非ス又更ニ顯著ナルモノヲ擧クレハ移民會社ノ如キハ曾ニ移民ニ對シテ租稅ヲ徵收シ警察ヲ施行スルノ權力ヲ賦與セラルヽノミナラス時トシテハ臨機ニ兵力ヲ動カスノ全權ヲ賦與セラルヽコトアルモ移民會社ハ此ノ特權ヲ有スルカ爲メニ公共組合ト爲ルニ非ス又以テ特權ノ賦與ハ公法上ノ人格ノ賦與ト相干繫セサルコトヲ知ルヘシ故ニ私法上ノ組合カ或ル場合ニ特許ニ依リテ特權ヲ賦與セラルヽコトアルモ之ニ依リテ公法上ノ人格ヲ取得スルコトナシ

公共組合ノ種類

第三章　公共組合ノ種類

一四三　現行法ニ依レハ公共組合ノ種類ニ二アリ

第一國家カ強制的ニ設立スルモノ　此ノ種ノ組合ハ國家カ必要ノ場合ニ一定ノ手續ニ依リ一個人ノ意思如何ニ拘ラス命令權ノ作用ヲ以テ積極的ニ設立スルモノ　此ノ種ノ組合ハ一個人ノ自由意思ニ本ツキテ設立セラレ國家カ消極的ニ之ヲ認可スルモノニシテ通常公共組合ハ此ノ種ノ組合ニ屬スルモノ多シ何トナレハ公共組合ハ自治ノ精神ノ發達ニ伴ヒテ共同利益ノ目的ノ爲メニ組織セラルヽヲ以テ原則トスレハナリ例ヘハ普通水利組合商業會議所等ノ如キハ是レナリ

第二關係者ノ申請ニ依リテ設立スルモノ　此ノ種ノ組合ハ一個人ノ自由意思ニ本ツキテ設立セラレ國家カ消極的ニ之ヲ認可スルモノニシテ通常公共組合ハ此ノ種ノ組合ニ屬スルモノ多シ何トナレハ公共組合ハ自治ノ精神ノ發達ニ伴ヒテ共同利益ノ目的ノ爲メニ組織セラルヽヲ以テ原則トスレハナリ例ヘハ普通水利組合商業會議所等ノ如キハ是レナリ

此ノ二種ノ組合ハ國家カ共ニ一定ノ區劃内ニ於テ共同利益ノ關係ヲ有スト認ムルモノヲシテ之ヲ組織セシメ固有ノ財產能力ノ外ニ強制權ヲ行使スルノ能力ヲ有セシムルモノニシテ國家ハ其ノ自己ノ利害トノ關係ヲ忽ニセサラムカ爲メニ適當ノ方法ヲ以テ其ノ行爲ヲ監督スルコト地方團體ニ於ケルト異ナル所ナシ

歐洲諸國ニ於ケル公共組合

之ヲ歐洲ノ制度ニ察スルニ公共組合ハ或ハ國家ノ行政ニ關スルモノアリ或ハ地方團體ノ行政ニ關スルモノアリ國家ノ行政ニ關スル公共組合トシテハ

宗教、教育、農工商業、土功水利ニ關スル組合幷ニ公吏ノ組合等其ノ重要ナルモノナリ地方團體ノ行政ニ關スル公共組合トシテハ病院、貧院、救濟院、小學貯蓄金庫等其ノ重要ナルモノナリ然レトモ我カ邦ニ於テハ前ニモ說述セルカ如ク特別行政ノ組織ハ尙ホ未タ十分ニ發達セス故ニ歐洲諸國ニ於テ公共組合ノ自治ニ委任スル事務モ國家若クハ地方團體カ自ラ之ヲ處理スルモノアリ又間ニ組合ノ設置アルモ多クハ唯行政上ノ諮詢機關タルニ過キス尙ホ公共組合ノ組織ハ行政事務法規ト相關聯スルカ故ニ第三編中ニ更ニ論究スル所アルヘシ此ニ唯其ノ概要ヲ觀察セムト

第一節　水利組合（明治二十三年法律第四十六號水利組合條例）

第一節、水利組合

水利組合ノ種類

一四四　凡ソ水利土功ニ關スル事業ハ其ノ利害ノ關係スル地方團體ノ費用ヲ以テ之ヲ經營スルヲ通例トス然レトモ其ノ事業カ府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セス其ノ利害關係ノ區域カ市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スルモ二市町村以上ニ涉リ之ヲ市町村若クハ町村組合ノ事業トスルコト能ハサル事情アルトキハ特別ノ組合ヲ設置シテ其ノ事業ヲ經營スルコトヲ得之ヲ稱シテ水利組合ト云フ此ノ組合ニ二種アリ一ヲ普通水利組合ト曰ヒ一ヲ水害豫防組合ト曰フ普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲メニ設置スルモノニシテ水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲メニスル堤防浚渫、沙防等普通水利組合ニ屬セサル工事ノ爲メニ設置スルモノナリ此ノ二種ノ組合ハ公私法人ノ人格ヲ兼有シ特立財產ノ主體トシテ權利能力ヲ有スルト同時ニ其ノ組合員ニ對シテ強制權ヲ行使スルコトヲ得其ノ議事機關トシテ組合會ヲ設ケ組合員ノ選擧シタル組合會議員ヲ以テ組織シ其ノ理事機關トシテ管理者ヲ置キ市町村長若クハ郡長之ニ任ス組合ノ監督ハ町村長ノ管理ニ屬スルモノハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ內務大臣之ニ任シ郡市長ノ管理ニ屬スルモノハ第一次ニ府縣知事第二次ニ內務大臣之ニ任シ特別ノ場合ニハ郡參事會、府縣參事會、及行政裁判所モ亦間接ノ監督ヲ爲スコト總テ市町村ノ行政ニ於ケルト大體ノ關係同シ

水利組合ノ機關及其ノ行政ノ監督

普通水利組合ト水害豫防組合トハ左ノ諸點ニ於テ法律ノ規定ヲ異ニス

普通水利

組合ト水害豫防組合トノ差異

(一)設置及廢止ノ方法ヲ異ニス　普通水利組合ハ組合員タルコトヲ得ルモノ五名以上ノ請願又ハ組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ一定ノ手續ヲ以テ認可シ其ノ廢止ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事之ヲ認可ス水害豫防組合ハ關係者ノ申請ヲ待タス府縣知事ニ於テ一定ノ手續ヲ以テ設置シ其ノ廢置ハ組合會ノ意見ヲ聞クヲ以テ足ル約言スレハ普通水利組合ハ關係者ノ申立ニ依リテ任意的ニ廢置セラレ水害豫防組合ハ地方長官ノ職權ニ依リ强制的ニ廢置セラル故ニ其ノ監督ノ方法ノ如キモ亦從ヒテ多少寬嚴ノ度ヲ異ニス

(二)組織ノ元素ヲ異ニス　普通水利組合ハ組合事業ノ利益ヲ受クル土地區域內ノ土地所有者ヲ以テ組織シ水害豫防組合ハ水害ヲ受クヘキ土地區域內ノ土地家屋ノ所有者ヲ以テ組織シ又水害ヲ受ケサルモ水害ヲ受クヘキ土地ニ接近シ組合事業ノ直接ノ利益ヲ受クル土地區域內ノ土地所有者ヲモ其ノ組合員トスルコトヲ得

(三)組合費ノ負擔ヲ異ニス　是レ組合組織ノ差異ヨリ當然ニ生スル結果ナリ即チ普通水利組合ニ於テハ其ノ組合費ヲ土地所有者ニ賦課シ水害豫防組合ニ於テハ其ノ組合費ノ土地及家屋ノ所有者ニ賦課ス(法文ニ依レハ土地又ハ家屋カ組合費ヲ負擔スルカ如ク見ユレトモ土地又ハ家屋ノ所有者カ之ヲ負擔スト解セサルヘカラズ何トナレハ組合員ハ組合費ノ負擔ニ任スルハ當然ニシテ土地又ハ家屋ノ所有者ハ即チ組合員ナレハナリ)又夫役現品ノ賦課ニ關シテハ普通水利組合ハ其ノ組合員ノ外ニ賦課スル能ハサレトモ水害豫防組合ニ於テハ夫役ニ限リ其ノ區域內ノ一般人民ニ賦課スルコトヲ得

第二節、商業會議所

商業會議所ノ設定

第二節　商業會議所

一號商業會議所條例(明治二十三年法律第八十二號)同農商務省令第十二號條例施行規則、二十八年法律第二十三號改正法律)

一四五　商業會議所ハ商業ノ發達及拯濟ノ目的ノ爲メニ設立セラレタル公共組合ニシテ公法上私法上ノ人格ヲ兼有ス其ノ設立ハ通常市町村ノ區域ニ依リ其ノ地ノ商業者中會員タルヲ得ヘキモノヽ申請ヲ待チテ農商務大臣

之ヲ認可ス其ノ申請ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半數以上ニ當タル發起人ニ於テ地方長官ヲ經由シ地方長官ハ郡參事會若クハ市參事會ノ意見及自己ノ意見ヲ附シテ主務大臣ニ進達スルヲ要ス(第二條、第三條)

商業會議所ノ組織

商業會議所ハ十五名以上五十名以下ノ會員ヲ以テ組織ス其ノ會員ハ會議所設立地ニ於テ一定ノ條件資格ニ依リテ商業者中ヨリ選擧ス商業者ト稱スルモノハ何タルコトハ法律ニ列擧セリ(改正法律第一條)會員ハ無給職トシ特定ノ理由アル場合ノ外ハ辭任ヲ許サス尚ホ此ノ外特別會員トシテ學術、技藝、若クハ商業上ノ經驗アル者ヲ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ議決ニ加ハルコトヲ得ス(第五條乃至第十七條)

商業會議所ノ權限

會議所ノ行政上ノ權限ハ商業ノ保持發達ニ關スル方案ヲ議定シ商業ノ實況及統計ヲ行政官廳其ノ他ニ報告シ商業ニ關スル法律命令ノ制定、改廢、施行方法ニ付キテ意見ヲ行政官廳ニ開申シ商業上ノ利害ニ關シテ意見ヲ行政官廳其ノ他ニ表示シ及商業ニ關スル事項ニ付キ行政官廳ノ諮問ニ應答シ商業上ノ紛議ヲ仲裁シ商業上ノ秩序ヲ維持シ法律命令及行政官廳ノ委任ニ依リテ商業上ノ營造物ヲ管理スルニ在リ其ノ內部ノ處務規程ニ屬スルモノハ會議所ノ定款ニ之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘキモノトス(第四條、第二十條)

會議所ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ以テ會議所ノ一切ノ費途ニ充テサルヘカラス其ノ財產ハ通常經費ノ收入手數料過怠金又ハ過料等ヨリ成ル經費ニ豫算ニ編成シ會員ノ選擧權ヲ有スル商業者ヨリ徵收シ手數料ハ紛議仲裁ノ場合ニ關係人ヨリ徵收ス過怠金ハ法律上特定ノ理由ニ依ラスシテ會員職ヲ辭退シタル者ニ課シ過料ハ經費納付ノ義務ヲ完クセサル者ニ課ス(第十八條、第十九條、第十二條、第十五條)

第三節　營業組合

舊時ノ營業組合

一四六　營業組合ハ一定ノ地域ニ於テ農工商業ニ從事スル者カ同業者共同ノ利益ヲ增進シ又其ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ目的トス乃チ其ノ目的ハ組合員ノ私利ヲ計ルニ在ラスシテ營業上ノ公益ヲ圖ルニ在リ故ニ國家ハ其ノ組合ノ設立及監督ノ方法ヲ定メ又其ノ組合ノ人格ヲ認メテ公務ノ一部分ニ干與セシム是レ現今行ハルヽ營業組合法ノ面目タリ舊時ノ營業組合ハ然ラ

ス往々同業者ノ數ヲ制限シテ自由競爭ヲ防キ以テ營業ノ特權ヲ得ルヲ旨趣トシタルモノアリ政府モ亦此ノ種ノ組合ヨリ多額ノ特許料ヲ徵收シテ國庫ノ收入ヲ得ルノ一方法トシタリ然レトモ此ノ如キハ營業上ノ公益ヲ圖ル所以ニ非スシテ却テ組合ヲシテ其ノ私益ヲ專ラニセシムルノミ其ノ外形ハ齊シク營業組合ト云フト雖モ內實ハ公共組合ニ非スシテ寧ロ一箇ノ特許組合ナリ營業ノ自由ハ近世諸國ノ通義タリ而シテ特許組合ハ營業ノ自由ト相反ス特別ノ事情アルニ非サルヨリハ其ノ設立ヲ許スヘカラサルナリ

營業組合ニ關スル現行法ニハ一般ノモノト特別ノモノトアリ同業組合準則ハ一般法ニシテ重要輸出品同業組合法、茶業組合規則、漁業組合規則等ハ特別法ナリ

現行營業組合法

第一款 同業組合

第一款 同業組合(明治十七年農商務省令第三十七號同業組合準則)

一四七 同業組合ハ從來ノ習慣ニ依リテ成立シタルモノ多シ唯法規ノ不備ナリシカ爲メニ往々其ノ目的ヲ達スルコト能ハスシテ唯單純ナル團合ニ過キサルモノアリキ故ニ同業組合準則ハ組合ノ設立、組織竝ニ其ノ監督ノ方法ヲ定メテ以テ組合ノ目的ヲ達セシメムコトヲ期セリ唯其ノ規定スル所簡ニ過キ之ニ據リテ十分ノ解說ヲ爲シ難シ

第一組合ノ設立

第一組合ノ設立　農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者若クハ其ノ營業上ノ利害ヲ共ニスル者相集リ組合ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區ヲ定メ其ノ地區內同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作リ管轄廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ認可ヲ要スルハ組合設立ノ目的、組織及存立ノ方法等カ行政ノ目的ト相合スルヤ否ヤヲ審査セムカ爲メナリ

第二組合ノ事業

第二組合ノ事業　組合ハ專ラ營業上ノ弊害ヲ矯メ其ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス是レ組合ノ事業ニシテ又同時ニ國家ニ對スルノ公務ナリ故ニ組合ハ官ノ監督ヲ受ケテ其ノ事業ヲ行ヒ事業ノ成績及會計ハ每年之ヲ管轄廳ニ報告セサルヘカラス又組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第三組合ノ組織

第三組合ノ組織　組合ノ組織ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル規約ニ揭クヘキ事項ニハ法定ノモノト任意ノモノトアリ同業組合準則ニ列記セラレタル

事項ハ法定事項ニシテ組合ハ必ス之ヲ規約ニ定ムルノ義務ヲ有ス任意事項ハ即チ組合ニ於テ規約ニ定ムルヲ必要トスルモノニシテ豫メ一定シ難シ規約ハ總テ管轄廳ノ認可ヲ受クヘク規約ヲ改正シ又ハ組合ノ分立若クハ合併ヲ爲ストキニ於テモ亦同シ若シ二箇以上ノ組合カ聯合會ヲ設クルトキハ又規約ヲ作リテ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二款　重要輸出品同業組合

（重要輸出品同業組合法、同農商務省令第十七號施行細則）

一四八　重要輸出品ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ニシテ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リ法規ノ定ムル所ニ從ヒ組合ヲ設置スルトキハ之ヲ重要輸出品同業組合ト稱ス重要輸出品及密接ノ關係アル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル故ニ此ニ之ヲ解說スルノ要ナシ茶業ハ重要輸出品ノ一タルヘシト雖モ之ニ關スル組合ハ別ニ茶業組合規則ヲ適用セラル

重要輸出品同業組合ノ設立ニハ其ノ地區内郡市以上ノ地域ヲ限ルヲ通例トス同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ又二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設ケムトスルトキハ各種ノ營業毎ニ五分ノ四以上ノ同意ヲ要ス故ニ重要輸出品同業組合ハ一般ノ同業組合ト其ノ設立ノ同意ヲ得ヘキ營業者ノ手數ヲ異ニス又此ノ組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ營業ヲ爲ス者ハ其ノ組合ニ加入スヘキノ義務アリ廼チ組合員タル資格ハ法律ニ依リテ生シ各人ノ任意ニ出ツルニ非ス又組合ハ其ノ加入ヲ拒絶スルコトヲ得ス是レ亦其ノ一般同業組合ト異ナル所ナリ

重要輸出品同業組合ハ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ維持スルヲ以テ目的トシ營利事業ヲ爲スコトヲ得サルハ一般同業組合ト異ナル所ナシ唯法律ハ組合カ法人トシテ財產ヲ所有シ又訴訟能力ヲ有スルコトヲ明記セリ故ニ一見スレハ從來ノ一般同業組合ハ單純ナル營業者ノ集合ニ止マリテ人格ヲ有セス重要輸出品同業組合ノミ獨リ人格ヲ有スルカ如ク思惟セラルレトモ一般

同業組合ハ多少慣習上ノ制度ニシテ同業組合準則ハ主トシテ其ノ監督方法ヲ定メタルニ過キス而シテ同業組合カ從來特別ノ財産ヲ有シタリトセハ同業組合ハ慣習上法人タリシコトハ論ナク且準則カ組合規約中ニ費用ノ徴收及賦課法ヲ掲クヘキコトヲ定メ又組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ禁シタルヲ觀レハ準則カ一般同業組合ニ法律上ノ人格アルコトヲ認メタルコトヲ知ルヘキナリ

組合ノ組織

重要輸出品組合ニハ組長一名副組長一名評議員若干名ヲ置キ組合員中ヨリ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ任ス但地區内ニ於テ組合ヲ組織スル營業ニ從事シ一箇年ヲ經サル者公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ其ノ停止中ノ者復權セサル破産者及家資分散者ハ被選資格ヲ有セス

組合ノ監督

組合監督ノ方法ニ關シテモ重要輸出品同業組合法ハ之ヲ規定シテ詳ナリ農商務大臣ハ當ニ組合ノ設置定款ノ規定等ニ付キ認可ヲ與ヘ又ハ業務ノ成績及會計ノ報告ヲ爲サシムルノミナラス尙ホ進ミテ組合事業ノ臨檢ヲ行ヒ又組合又ハ役員ノ行爲若クハ組合會議ノ決議カ法律命令ニ違反シ若クハ公益ヲ害スト認ムルトキ又ハ組合カ農商務大臣ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ組合ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止若クハ役員ノ全部又ハ一部ノ改選若クハ決議ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第三款　茶業組合

茶業ノ意義

一四九　茶業者トハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス（第一條）此等ノ營業者相集リ製品ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設クルトキハ之ヲ茶業組合トス茶業者ハ法律上ノ義務トシテ其ノ組合ニ加入セサルヘカラス

茶業組合規則ノ特例

組合ノ設立及組織ニ關シテハ大體ニ於テ前ニ述ヘタル所ト同シ唯組合ノ地區ヲ郡市ニ限ルコト（若シ一郡市内ノ茶業者小數ナルトキハ他ノ郡市ノ同業者ト合併スルコトヲ得）府縣ノ區劃ニ依リ聯合會議所ヲ設ケ及全國便宜ノ地

ニ中央會議所ヲ設クヘキコトヲ定メタルハ茶業組合規則ノ特例ナリ一般同業組合ニ於テハ地區ヲ定ムルハ同業者ニ一任シ重要輸出品同業組合ニ於テハ郡市以上ニ限ルヲ通例トシ又其ノ聯合組合ハ同業者ノ自由ニ任シ管轄廳ノ認可ヲ經ルニ止マレトモ茶業組合ニ於テハ規則ヲ以テ地區ヲ限リ又聯合會議所及中央會議所ノ設置ヲ命セリ尚ホ組合及會議所ノ組織竝ニ役員ノ選任ニ關スル規定ハ一々就キテ看ルヘシ

第四款　漁業組合

漁業ノ意義

漁業組合ノ種類

第四款　漁業組合(明治十九年農商務省令第七號漁業組合準則)

一五〇　漁業トハ水產動植物ノ採捕ヲ爲ス業務ヲ總稱ス(第一條)其ノ業務ニ從事スル者ハ營業上ノ公益ノ爲メニ適宜區劃ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作リ管轄ノ認可ヲ受クヘシ其ノ組合ニハ捕魚採藻(遠海漁業若クハ大地引、臺網、捕鯨、鯡漁、混布採收ノ類)各其ノ種類ニ從ヒ特ニ組合ヲ組織スルモノト河海湖、沼、沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混合シテ組合ヲ組織スルモノトノ二種アリ地方ノ狀況ト同業者ノ意思トニ依リ其ノ組合ノ性質ヲ定ムルコトヲ得若シ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲ爲ス場合ニハ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合ヲ組織セサルヘカラス此ノ他漁業組合ニ關スル規定ハ極メテ簡單ニシテ一般同業組合ニ準則ト大差ナシ

第三編　行政事務

行政事務ノ部門

一五一　余輩ハ前二編ニ於テ行政一般ノ原則竝ニ行政ノ組織ヲ講究セリ今此ノ編ニ講究セムト欲スル所ノモノハ行政各部ノ事務ニ關スル法規ナリ蓋シ行政ノ事務ハ範圍廣漠ニシテ材料繁雜ナレハ豫メ之ヲ一定ノ部門ニ拾收シテ其ノ原理ヲ講究スルニ非サレハ徒ニ散漫ニ失スルノ恐ナシトセス然レトモ從來學者ノ樹立セシ部門ハ一樣ナラス或ハ政務發達ノ順序ニ從フモノアリ或ハ政務分配ノ形式ニ從フモノアリ或ハ政務施設ノ目的ニ從フモノアリ國家發達ノ順序ニ從ヒテ行政事務ノ部門ヲ分ツハ第一ニ國家ノ存立ニ必要ナル事務例ヘハ軍備、財政及外交等ヲ置キ第二ニ內部ノ秩序ニ關スル事務例ヘハ民籍、裁判、警察、遞信等ヲ置クト云フカ如キ方法ヲ採リ政務分配ノ形式ニ從ヒテ行政事務ノ部門ヲ分ツハ內務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、農商務、遞信、文部ト云フカ如キ行政官廳ノ區別ニ依ル此ノ二種ノ彙類法モ亦固ヨリ誤謬アリトスルヲ得ス之ニ依リテ行政事務ノ各法規ヲ知悉シテ遺憾ナキヲ得ル

オーコック氏ノ分類

ニ於テハ或ハ勝レリ然レトモ國家發達ノ順序ニ依リテ行政事務ヲ論究スルハ必スシモ實際行政必要ノ程度ト符合セス且既ニ發達シタルモノヲ網羅シ盡スヘシト雖モ未タ發達セサルモノヲ拋棄スルノ恐アリ政務分配ノ形式ニ就キテ行政事務ヲ論究スルハ實際ノ便宜ハ之アルヘシト雖モ學理上ノ觀念ヲ得ルニ乏シ故ニ輓近ノ學者ハ行政施設ノ目的ヲ本トシテ行政事務ヲ彙類セムコトヲ求ムルモノアリ唯其ノ目的ヲ定ムルニ於テハ學者ノ間ニ各自把ル所ノ標準ヲ異ニスルヲ以テ行政事務ノ彙類モ亦從ヒテ一ナラス

オーコック氏ノ行政法講義ニ依レハ行政ノ目的ヲ二種ニ大別シ一ヲ管理行爲ヲ目的トスル行政トシ二ヲ保安行爲ヲ目的トスル行政ヲ細別シテ(一)社會生存ノ必須資力ニ關スル事務即チ軍務及財務(二)國民ノ共同需要ヲ充足セシムルカ爲メノ事務即チ宗教、教育、土木、賑恤等トシ保安行爲ヲ目的トスル行政中ニハ道路、河川、衞生、貯蓄其ノ他農工商業上一切保安ニ關スル事務ヲ包括セシメタリ然レトモ此ノ彙類ノ方法ニ依レハ何ヲ管理行爲ト謂ヒ何ヲ保安行爲ト謂フカ意義截然タラス通常保安行爲ノ

シモ子ー氏ノ分類

最モ著明ナルモノナリトスル軍務ヲ以テ管理行爲ニ屬セシムルカ如キハ殆ト解シ難キノミナラス一切ノ行政事務ハ皆國民ノ共同需要ニ本ツカサルモノナシトセンニハ單ニ管理行爲ヲ目的トスル行政事務ノ一部分ニノミ共同需要ヲ充足セシムルカ爲メノ行政ト云フ如キ名稱ヲ冠スルハ恐クハ妥當ナラス (Aucoc, l. c., p. 20-25)

佛國最近ノ行政法書中シモ子ー氏ノ行政法大意ニ載セタル分類ハ稍觀ルヘキモノアリ其ノ分類中ニハ尚ホ幾多ノ重要ナル行政事務ヲ遺漏セルモノアリトモ雖モ一切ノ行政事務其ノ大體ニ付キテ區別スレハ氏ノ指示セル五種ノ分類中ニ歸納シ得ヘキニ似タリ今其ノ分類ヲ擧クレハ

(一)國民ノ物質的生活ニ關スル事務
(二)國民ノ精神的生活ニ關スル事務
(三)公共ノ賑恤ニ關スル事務
(四)公共ノ安寧ニ關スル事務
(五)資財ニ關スル事務

顧フニ此ノ分類ト雖モ學理上未タ精確ナリト謂フヲ得ス何トナレハ一切ノ公共事務ハ皆國家存立ノ目的ノ爲メニ共同生活ノ必要ニ順應スルニ非サルハナク而シテ一切ノ共同生活ハ之ヲ物質的生活ト精神的生活トニ區別スルコトヲ得ヘケレハナリ然レトモ安寧ニ關スル事務ハ通常物質的及精神的ノ生活ヲ鞏固ナラシムルノ目的ニ出テ賑恤ニ關スル事務ハ尚ホ此ノ外一個人カ其ノ生活ヲ支持スル能ハスシテ孑獨頼ルナキヲ救助スルノ目的ニ出テ資財ニ關スル事務ハ以上諸般ノ事務ヲ施爲スルカ爲メニ必要ナル費途ヲ支辨スルノ目的ニ出ツルモノナリトスレハ此ノ分類モ亦便宜上ノ分類トシテ採用スルハ敢テ大不可ナカルヘシ故ニ余輩モ亦姑ク之ニ依リ本編ノ部門ヲ分タムト欲ス

佛國ノ行政學者ニシテ行政事務ヲ分チテ一編トセシハ一千八百二十九年ゼラン|ドーノ行政法書ニ行政事項(Matières administratives)ト云フ表題ヲ掲ケタルヲ始マリ(Gérando,Institutes administratives) 一千八百六十年ノ佛國政府ノ行政法試驗課目ニモ亦之ヲ載セタルニ依リテ學者モ往々之ト同一若クハ類似ノ表題ヲ設ケテ行政法中ノ一編トスルモノアリト雖モ多數ハ此ノ如キ特別ノ編次ヲ爲サス他ノ表題ノ下ニ於

テ關係問題ト繫屬セシメテ便宜的ノ講說ヲ取レリ獨國ノ行政法書ハ一般ニ行政法ヲ分チテ二卷シ第一ヲ汎論トシ行政普通ノ法規ヲ說キ第二ヲ各論トシテ行政各部ノ法規ヲ說ケリ其ノ謂ハユル各論ハ余輩カ本編ニ於テ說ク所ノ行政事務論ト相當ス而シテ獨國公法學者ノ行政各論ヲ分類スルハ一般ニ成法ヲ基礎トシ實質上ヨリ行政事務ノ區別ヲ爲サスシテ外務、內務、財務、軍務及司法ノ五門ニ分ツモノヽ如シ又是レ一種ノ攷究方法タリ

行政事務ニ關スル重要問題

行政事務ノ法理ヲ說明スルニ當リテ豫メ一二ノ重要ナル問題ヲ決セサルヘカラス何ヲカ重要ノ問題ト謂フ曰ク今代國家ノ任務及國家ノ任務ノ變遷是レナリ

第一近世國家ノ任務

第一　今代國家ノ任務

一五二　凡ソ社會ニハ國民的有機體(Organisme national)ト國家ト併存シテ相混セス國民的有機體ハ自然ノ發達ニ成リテ國家ノ指導ヲ要セス然レトモ自然ノ發達ハ不平等ナリ國民的有機體ニ於ケル生存ノ競爭ハ優者ヲシテ勝ヲ制シ劣者ヲシテ敗ニ歸セシメ以テ一個人ノ痛苦ヲ致シ又延キテ共同ノ不幸ヲ生ス是ニ於テ近世ノ學者ハ國家ノ任務如何ヲ論究シ以テ國家ハ其ノ權力

國家任務論ノ由リテ起ル原因

ニ賴リテ如何ナル程度ニ至ルマテ國民的有機體ヲ指導セサルヘカラサルカノ問題ヲ解釋セムコトヲ努ムルカ如シ蓋シ此ノ問題タルヤ元來政治學ノ範圍ニ屬シ法律學ノ領域ニ非ス故ニ余輩カ玆ニ容喙セムハ聊カ失當ノ嫌ナキヲ得サレトモ歐州學者ノ間ニ喧傳セル問題ニシテ殊ニ行政事務ノ法規ト直接ノ關係アルヲ以テ此ニ其ノ概要ヲ提擧セムト欲ス

社會主義ト無政府主義

(一)社會主義(Socialisme)ト無政府主義(Anarchisme)國家ノ任務ニ關スル二大反對主義ヲ社會主義及無政府主義トス社會主義ノ議論ニ依レハ國家ハ人類一切ノ共同事業ヲ指導スルヲ要スルカ故ニ國民的有機體ハ全ク國家ノ中ニ吸收セラレサルヘカラス唯純然タル個人的權利ハ社會主義ト雖モ强ヒテ之ヲ制限スルヲ欲セスト雖モ苟モ其ノ共同ニ屬スル事業ニ至リテハ國家ノ權力ヲ以テ人類ノ不平等ヲ芟除スルヲ目的トス無政府主義ノ議論ハ之ニ反シ一切ノ災惡ヲ以テ國家ノ存立ニ歸シ國家消滅セハ人類ノ共同事業ハ自然ノ方法ニ依リテ行ハルヘシトス故ニ無政府主義ニ於テハ國家ハ宜シク消滅スヘクシテ國民的有機體ハ宜シク獨リ存續セサルヘカラス

二大主義ノ相反スルコト其レ此ノ如シ乃チ共ニ極度ノ急進論ニシテ到底之ヲ實際ニ施スコト能ハス是ニ於テカ共ニ自然ニ面目ヲ一變シテ以テ復二箇ノ反對ノ主義ヲ順致セリ左ニ說ク所ハ即チ是レナリ

國家主義ト個人主義

(二)國家主義(Etatisme)ト個人主義(Individualisme) 國家主義ト個人主義トノ分ルヽ所ハ國家ノ統治ヲ皇張スルト皇張セサルトニ在リ國家主義ハ常ニ國家ノ權力ヲ强大ニシテ個人ノ事業ニ干涉スルニ傾キ個人主義ハ專ラ國家ノ權力ヲ制限シテ人類ノ創意力ヲ發達セシメムコトヲ期ス故ニ社會主義ノ趨向スル所ハ國家主義ト爲リ無政府主義ノ歸着スル所ハ個人主義ト爲ル是レ國家主義ヲ呼ヒテ一ニ干涉主義又ハ講壇社會主義(Interventionisme,Socialismede chaire)ト云フ所以ナリ

國家ノ任務ニ關スル事實上ノ觀察

案スルニ國家主義ト個人主義トノ衝突ハ實ニ近世國家ニ於ケル一大表觀ニシテ容易ニ其ノ是非得喪ヲ斷定シ難シ然レトモ是レ唯理論ノ衝突ノミ事實ハ常ニ其ノ衝突ヲ調和スルモノアリ抑モ政治ヤ經濟ヤ立法ヤ其ノ時其ノ處ニ應シテ施設スルニ過キス故ニ或ハ國家主義ニ依ルコトアルヘク或ハ個人主義ニ依ルコトアルヘク或ハ一方ニハ國家ノ特權ヲ留保スルモ又一方ニハ個人ニ或ル新設ノ權利ヲ許スコトヲ得ルニ非スヤ佛國ノ大革命ハ一方ニハ人權ノ宣布ヲ斷行セリ現今ノ歐州諸國ハ立法ニ依リテ勞力ノ時間ヲ制限シ勞力ノ賃金ヲ豫定スルモ尙ホ同時ニ契約ノ自由ヲ認識シ勞力者組合ノ自由ヲ認許ス又以テ國家ノ政務ハ時ニ處シ變ニ應シテ施設シ必スシモ一定ノ主義ヲ偏執セサルヲ知ルニ足ル然ラハ國家ニ依リテ指導セラルヽ共同事業ト個人ノ自由ニ放任スル共同事業トノ間ニ常ニ一定ノ權衡アリテ存スルハ實際事理ノ明白ナルモノナリ唯人類ノ共同事業ハ文化ノ進歩ニ從ヒテ絕エス其ノ必要ヲ增加スルノ故ヲ以テ此ノ權衡ハ時々刻々ニ壞滅セラルヽヲ免レス而シテ再ヒ此ノ權衡ヲ建設スルニハ或ハ主トシテ國家主義ニ依ルコトアルヘシ或ハ主トシテ個人主義ニ依ルコトアルヘシ之ヲ要スルニ苟モ文化ノ進歩ニシテ一日モ輟息セスムハ國家ト個人トハ共ニ俱ニ其ノ任務ノ領域ヲ增張セサルヘカラサルナリ

對內任務ト對外任務

人類共同ノ關係ハ獨リ一國ノ疆域ニ止ラスシテ數國ノ人民ノ間ニ及フ故ニ國民的有機體ノ外又國際的有機體(Organisme international)ノ存立スルアリ近世ノ國家ニ於テ殊ニ著シ隨ヒテ國家ノ任務如何ハ此ノ國際的有機體ニ對シテモ亦齊シク論定セラレサルヘカラス是ニ於テ國家ノ任務ニ對內任務ト對外任務トノ區別ヲ生ス而シテ人類生存ノ競爭ハ國際的有機體ニ於テ殊ニ劇シトス國家ハ啻ニ平和ノ際樽俎ノ間ニ於テ國民ノ利益ヲ保護スルノミナラス須要ニ應シテハ干戈ニ訴ヘテ以テ國權ノ伸張ヲ圖ラサルヘカラス然ラハ國家ノ任務ハ國際ノ關係ニ於テ更ニ重要ナルモノ存スルヲ見ル

行政法ノ範圍ニ屬スル國家ノ事務

國家ハ其ノ固有ノ目的ヲ達スルカ爲メニ必要ナル任務ヲ負ハサルヘカラサルコト此ノ如シ然レトモ其ノ如何ナル事務カ一個人ノ權能ニ歸スルカヲ定ムルハ政治學ノ本領ニシテ行政法攷究ノ範圍ニ存セス且其ノ國家ノ任務ニ屬スルモノト雖モ其ノ純然タル政策ニ屬スルモノハ行政事務ト些モ關係ナシ故ニ余輩ハ本編ニ於テ敢テ抽象的ノ見解ニ依リテ國家ノ任務ヲ論定スルニ非ス唯其ノ行政法規ヲ以テ定メラレタルモノニ就キテ法律上ノ關係ヲ攷察スルニ過キサルナリ

第二　行政事務ノ變遷

第二行政事務ノ變遷

一五三　行政ノ事務ハ古代ノ國家ト今世ノ國家トニ於テ大ニ其ノ施設ノ目的ヲ異ニスルモノアリ故ニ今行政事務ノ法規ヲ攷究スルニ當リテ先ツ其ノ變遷ヲ討探スルモ亦頗ル緊要ノ事タリ是レ本編ノ首ニ於テ特ニ之ヲ略說スル所以ナリ

行政事務ノ施設ハ古今其ノ目的ヲ異ニス

苟モ國家ノ組織アレハ必ス多少ノ政務アラサルハナシ唯人民ノ智能、德器、古今其ノ程度ヲ異ニシ社會ノ文物、典章、古今其ノ狀態ヲ一ニセス隨ヒテ行政ノ事務モ亦其ノ面目ヲ變シ其ノ精神ヲ改メ以テ今日ニ至レルモノナキヲ得ス故ニ古代ノ組織單簡ナル國家ニ在リテ存セサリシ行政ノ事務ニシテ今世ノ進歩セル國家ニ於テ著シク增加セシモノアルハ自然ノ事理ノミ固ヨリ怪ムニ足ルコトナシ然レトモ余輩カ此ニ行政事務ノ變遷ト云フハ此ノ如キノ損益變遷ヲ稱スルニ非ス唯其ノ施設セラルル目的カ古今其ノ揆ヲ同シクセサル所以ヲ表白セムコトヲ旨趣トス若シ夫レ東西古今ノ制度ヲ把リテ仔細ニ

其ノ沿革ヲ點檢スルハ別ニ自ラ一種ノ研究ノ地ヲ成スモノニシテ余輩ノ旨趣トスル所ニ非サルナリ

氣候、風土、人情、習俗各地相異ナレハ其ノ制度モ亦隨ヒテ異ナラサルヲ得ス故ニ歐州ニ於ケル行政事務變遷ノ形跡ト本邦ニ於ケル行政事務變遷ノ形跡トヲ把リテ一概ニ論スルヲ得スト雖モ其ノ大體ノ方向ハ恐クハ異ナル所ナカルヘシ左ニ說ク所ノ行政事務變遷ノ形跡ニ見テ此ノ理ノ謬妄ナラサルヲ知ラム

內務行政ハ輓近ノ行政ナリ

行政ノ任務ハ其ノ形式ニ就キテ大別スルトキハ內務、外務、司法、軍務及財務トヲ爲ル而シテ內務行政ノ包容スル範圍ハ他ノ行政ニ比シテ最モ廣ク其ノ事務モ亦隨ヒテ多端ニシテ實際數箇ノ特別ナル官廳ヲ置キテ其ノ事務ヲ分掌セシムルヲ常トス故ニ現今國家ノ行政事務中最モ大部分ヲ占ムルハ內務行政ナリ然レトモ行政發達ノ順序ヨリ考フルトキハ內務行政ハ却テ輓近ノ行政ニ屬ス蓋シ古代國家ノ尙ホ未タ成育セサリシニ當リテ國家ハ專ラ國權ノ維持ニ力ヲ致シ兵備ヲ戒嚴シテ以テ外敵ニ備ヘ財實ヲ蓄積シテ以テ來寇ヲ防キ君王ノ威嚴ヲ保チ政府ノ權力ヲ張ルカ如キ國家對外ノ政治ト國力養成ノ任務トヲ以テ主トシ國家ノ內部ニ於テ人民ノ利害得喪ヲ顧慮スルノ遑ナカリシナリ近世ノ諸國ハ大ニ內務行政ノ範圍ヲ擴充シ社會ノ組織社會ノ交通其ノ他一般ノ安寧幸福ヲ計圖シ增進スルヲ以テ國家政務ノ最大部分トスルニ至レリ彼ノ土木ニ觀スヤ古代ノ土木ハ專ラ城廓壘砦ノ築造、關門障壁ノ建設等ノ爲メニ行ハレ其ノ道路ノ修築、河川ノ開鑿淘浚ノ如キモ亦國家ノ防禦ヲ主トシテ人民ノ保護ハ之カ從タルニ過キサリキ彼ノ警察ニ觀スヤ古代ノ警察ハ只國家ノ安寧ヲ保持スルカ爲メニ人民ノ自由ヲ制限スルニ在リテ或ハ軍國ノ事務ト混淆シ或ハ裁判ノ職掌ト關聯シ其ノ目的ハ一ニ國家ノ存立ヲ保チ國家ノ權力ヲ完クスルヲ主トシテ人民ノ保護ハ之カ從タルニ過キサリキ抑モ國家ノ初メハ國家ノ權力獨リ熾ニ一個人ハ其ノ權力中ニ吸收セラレテ能力ヲ發揮スルコト能ハス一切ノ律令典章ハ悉ク國家ノ存立ヲ鞏保スルヲ以テ主眼トセリ故ニ古代ノ國政ハ主トシテ軍務財務等國力ノ强大ヲ致スヲ專ラトシ偶々其ノ內務ニ屬スルモノアリト雖モ今日ノ如ク個人ノ幸福

古代ノ行政ハ國家ノ保立ヲ維持スルヲ以テ主一ノ目的トス

今代ノ行政ハ國家

ノ存立ト一個人ノ幸福トヲ併セテ保護ス

ヲ增進シ個人ノ安寧ヲ保護スルカ如キノ精神ニ出テ、之ヲ施設セシニハ非サルナリ然ルニ近世ニ及ヒテ民智ノ漸次ニ啓發スルニ從ヒ個人ノ思想益〻興起シ其ノ品位能力亦愈〻高キヲ加フルニ至リ凡百ノ制度ハ漸ク其ノ觀ヲ改メ國家ノ存立ト人民ノ幸福トヲ幷セテ保護スルノ必要生シ其ノ專ラ公益ノ發達ヲ目的トスル內務行政ノ範圍大ニ擴充セラレテ行政事務ノ最要部分ヲ占ムルニ至レリ是レ古今ニ於ケル行政事務上ノ一大變遷ナリ

第一節、民籍事務ノ性質

第一部　國民ノ物質的生活ニ關スル行政事務

第一章　民籍

第一節　民籍事務ノ性質

一五四　國家ハ其ノ行政ノ目的ヲ達セムカ爲メニハ先ツ國家ト其ノ行政ヲ受クヘキ一個人トノ關係ヲ明確ニスルノ必要生ス古來各國ノ史籍ヲ見ルニ此ノ目的ヲ以テ特定ノ法制ヲ設ケサルモノアラサルハナシ然レトモ古代

民籍事務ト校民事務トノ關係

ノ國家ハ一家ヲ以テ基礎トセス家長獨リ法律上ノ人格ヲ有シテ家族ハ唯其ノ統率ニ任スルノミナリシカ故ニ一個人ハ未タ國家ニ對シテ直接ノ關係ヲ生スルニ至ラサリシナリ近世ニ及ヒテ國家ハ一個人ヲ以テ組織ノ元素トシ之ニ與フルニ平等ノ位置ヲ以テシテ社會ノ階級ヲ廢スルニ至リ晝一ノ法規ヲ立テ、以テ國家ト一個人トノ關係ヲ明確ニスルコトヽハ爲レリ而シテ一個人カ公私法上ニ有スル一切ノ權利義務ハ皆源ヲ此ノ關係ニ發セサルハナシ民籍事務トハ即チ此ノ國家ト一個人トノ關係ヲ明確ニスルカ爲メニ一個人ノ身分又ハ屬籍ノ動靜ヲ統轄スル所ノ事務ヲ總稱ス故ニ民籍事務ハ又之ヲ身分事務及屬籍事務ノ二種ニ區別スルコトヲ得身分事務トハ一個人カ社會ニ對シテ有スル特定ノ位置ヲ證明スルヲ目的トシ屬籍事務トハ一個人ト其ノ居住ノ土地區劃トノ關係ヲ證明スルヲ目的トス

一五五　民籍事務ノ實用ハ諸般ノ行政事務ニ於テ之ヲ見ル例ヘハ內外國人ノ區別、裁判ノ管轄、選擧權被選擧權ノ有無、兵役ノ順序收稅ノ手續等凡ソ國家內外ノ政務ニ關シテ民籍事務ヲ確立スルノ必要ハ此ニ言說スルヲ待タサ

ルヘシ然レトモ國家ハ其ノ行政ノ必要上只其ノ國家ノ一員タル各個人ノ身分屬籍ヲ明確ニスルヲ以テ足レリトセス必ス之ト同時ニ國家全體ノ利害ノ爲メニ各個人ノ增減ヲ計校シテ其ノ口數ヲ調査セサルヘカラス之ヲ稱シテ校民事務ト云フ故ニ校民事務ハ各國皆民籍事務ト相附隨シテ之ヲ施設スルヲ常トス

第二節　民籍事務ノ變遷

第二節、民籍事務ノ變遷

大寶ノ制

宗門改

一五六　民籍事務ノ發達ハ古今其ノ趣ヲ異ニスルコト前ニ述ヘタルカ如シ我カ邦ノ古ニ稽フルニ大寶ノ制ニハ民籍ニ關スル規定ナク唯一定ノ年限ヲ隔テ、戸籍調査ヲ行フノ事アリシカトモ專ラ班田ノ分布及租調庸ノ負擔ヲ校察スルカ爲メニシタルモノヽ如シ降リテ武門ノ時代ト爲ルニ及ヒテハ戸籍ノ事務ハ社寺ニ委チラルヽノ慣例ト爲リ明治維新ニ至ルマテハ謂ハユル宗門改ト稱スルモノ行ハレタルコト宛モ歐洲諸國ニ於テ今世紀ノ初メニ至ルマテハ僧侶カ身分取扱吏ノ職務ヲ管掌セシト東西期セスシテ其ノ揆ヲ一ニセリ歐洲ニ於テ民籍事務カ僧侶ノ手ヲ離レテ國法ノ規定ニ入リ行政官

戸籍規則ノ制定

ノ掌理ニ屬スルニ至リシハ實ニ佛國民法カ人事編中ニ身分ニ關スル規定ヲ設ケ身分取扱吏ヲシテ之ヲ掌ラシメタルヲ以テ權輿トス然レトモ民籍法ヲ民法中ニ編入スルハ現今ノ進歩セル法律ニ於テハ之ヲ採ラス其ノ身分ノ證明ヲ以テ目的トスル點ヨリ考フレハ人事法ト相關聯スル所アルハ言ヲ俟タサレトモ民籍ノ事タルヤ元來個人相互ノ關係ニ非スシテ國家カ各個人ニ對シテ行フ行政權ノ關係ナルヲ以テ之ヲ特別法トシテ規定スルヲ至當トス故ニ獨帝國ノ如キハ一千八百七十五年二月ノ法律ヲ以テ身分及結婚ノ證認ニ關スル事項ヲ規定シ又我カ舊民法ノ如キモ身分證書ニ關スル規則ハ僅ニ數條ヲ存シ其ノ細則ハ之ヲ行政法規ニ讓ルノ主義ヲ採レリ民籍ニ關スル從來ノ法規ハ明治四年四月太政官布告戸籍法則ヲ本トシ其ノ他二三ノ不完全ナル補充規則アリシニ過キサレトモ從來宗門ニ放任セシ戸籍事務ヲ收メテ之ヲ政府ニ回復シ錯雜亂蕪ナリシ舊習ヲ改メテ全國畫一ノ制度ヲ用キルニ至リシハ實ニ此ノ布告ノ最大効績ナリト謂ハサルヲ得ス該布告ノ前文ニ云ク

『中古以來各方民治趣ヲ異ニセシヨリ僅ニ東西ヲ隔ツレハ忽チ情態ヲ殊ニシ

聊カ遠近アレハ即チ志行ヲ同ウセス隨テ戸籍ノ法モ終ニ錯雜ノ弊ヲ免レス或ハ此籍ヲ逃レ或ハ彼籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニ依ラス因襲ノ習人々自ラ度外ニ附スルニ至ル云々』ト其ノ第一則ニ云ク『戸籍舊習ノ錯雜アル所以ハ族籍ヲ分チテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ收メサルヲ以テ遺漏ノ事アリト雖モ之ヲ檢査スルノ便ヲ得サルニ依レリ故ニ此度編製ノ法臣民一般其住居ノ地ニ就テ之ヲ收メ專ラ遺スコトナキヲ旨トス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區劃ヲ定メ每區戸長竝ニ副ヲシテ其區內戸數、人員、生死、出入等ヲ詳ニスルコトヲ掌ラシムヘシト』又以テ此ノ戸籍法則カ如何ニ舊來ノ弊竇ヲ一洗スルニ與カリテ力アリシヤヲ見ルニ足ルヘキナリ現行法ハ明治三十一年法律第十二號戸籍法及三十六年法律第六十六號國籍法ニ依ル

現行法ノ特色

一家ヲ以テ國家ノ單位トスルモノヲ家族制度ト云ヒ一個人ヲ以テ國家ノ單位トスルモノヲ個人制度ト云フ而シテ古代ノ國家カ家族制度ニ據リ今代ノ國家カ個人制度ヲ本トスルコトハ既ニ之ヲ說ケリ歐洲諸國ニ於テハ家族制度ハ夙ニ頹廢シ今ハ全ク個人制度ノ世ト爲リ法律上住所アリテ家ナク親族

現行法

アリテ家族ナク身分證書アリテ戸籍ナシ從ヒテ家督相續ノ制アルコトナク又隱居養子ノ制アルコトナシ我カ邦ニ於テハ維新以前ハ純然タル家族制度ヲ以テ立國ノ基ト爲シタリ維新以後歐洲ノ文物制度ヲ採用スルニ及ヒテ大ニ法律政治ノ面目ヲ改メタレトモ二千年來ノ舊慣ハ未タ俄カニ之ヲ廢スルコトヲ得ス是ヲ以テ政府ハ鋭意個人制度ニ依リテ法律ヲ制定スルト同時ニ又家族制度ニモ參酌スル所アリ民法ハ先ツ家ノ法律上ノ地位ヲ認メテ戸主及家族ノ關係ヲ定メ戸籍法ハ之ニ續キテ身分登記ト戸籍トヲ幷セ定メタリ要スルニ我カ現行法ハ個人制度ト家族制度トヲ混合シテ其ノ中間ニ在リト謂フヘシ

第三節　民籍ノ登記

一五七　身分ノ得喪變更ハ一個人ノ權利義務ノ消長ト相關シ又世上一般人ノ利害トモ相關ス故ニ之ヲ公簿ニ登記シテ其ノ確實ヲ保セサルヘカラス又家族制度ノ舊慣存スル以上ハ當ニ一個人ノ身分ノミナラス一家ノ成立ヲ公證スル書類ナリ今夫ヲ證明スルノ制ナキヲ得ス戸籍ハ即チ一家ノ成立

レ家ハ人ヲ以テ成ル故ニ身分登記ニ依リテ一個人ノ身分明瞭ナレハ別ニ一家ノ成立ヲ證明スルノ要ナキニ似タリ

然レトモ戸籍ハ人ノ身分ヲ證明スルヲ以テ目的トス既ニ其目的ヲ異ニスル二者固ヨリ相混スルヲ許サス只其ノ關係ハ極メテ密接ニシテ相離ルヽコトナク二者相待チテ其ノ効用ヲ全クスルコトヲ得身分ノ得喪變更ハ戸籍ニ關係ヲ及ホスコトハ言ヲ俟タス而シテ身分ノ得喪變更ハ其由リテ生スル所ノ事情複雜シテ之ヲ戸籍ニ細記スルコト難シ是レ戸籍以外ニ身分登記ヲ設クル所以ニシテ又戸籍カ身分登記ニ待タサルヲ得サル所以ナリ又身分ノ得喪變更ニ關スル事實ハ其ノ人ニ依リテ同シカラス故ニ或ル事實カ或ル人ノ身分ニ如何ノ變動ヲ來タシタルカヲ知ラムト欲セハ必スヤ之ヲ戸籍ニ觀サルヘカラス是レ身分登記カ戸籍ニ待タサルヲ得サル所以ナリ

家トハ家屋ノ謂ヒニ非ス人ト其ノ人ノ所屬ノ場處トヲ連絡スルカ爲メノ法律上ノ觀念ナリ故ニ同一ノ家屋ニ二箇以上ノ家アルコトヲ妨ケス唯家ハ必ス一定ノ場所ニ存スルコトヲ要シ場所不定ノ家アルコトヲ許サヽルナリ又家ハ必スシモ人ノ集合體タルコトヲ要セス戸主及家族ヲ以テ家ヲ成スコトヲ通常トスレトモ戸主一人ノミニテモ其ノ家タルニ於テハ同シ唯人ハ必ス家ニ屬シ家ニ必ス一人以上ノ人アルコトヲ要スルノミ家族制度ノ本旨ハ家ノ成立ニ在リ其ノ家ノ成立チ證明スルハ即チ戸籍ニシテ其ノ戸籍ノ存在スル處ハ即チ屬籍ナリ身分ノ證明ハ主トシテ一個人相互ノ關係ニ止マル戸主、家族、夫婦、親子、後見人、被後見人等ノ關係ハ皆人ノ私權ニ關ス故ニ身分登記ハ私法上ノ關係チ明ニスルチ旨トス戸籍ハ之ニ異リ人ノ屬籍チ明ニシテ國家及地方行政區劃ノ管轄チ定メ選擧ノ權利チ行ヒ兵役ノ義務ニ任スルカ如キ場合ノ標準チ示ス乃チ其ノ關係ハ國家ト人民トノ關係ナリ故ニ戸籍ハ公法上ノ關係チ明ニスルチ主トス從セテ日本ノ國籍チ有セサル者ニハ身分アリテ戸籍ナシ

第一　戸籍吏

一五八　戸籍及身分登記ニ關スル事務ヲ取扱フ者ヲ戸籍吏トシ市、町、村長ヲ以テ之ニ充ツ但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

（明治三十一年司法省令第十二號ハ東京、京都、大阪ノ三市ニ於テハ區長ヲ以テ

戸籍吏ノ職務ニ付キテノ制限

戸籍吏トスルコトヲ定メタリ)然レトモ市町村長又ハ區長ハ如何ナル場合ニモ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ルニ非ス法律ニ定メタル場合ニハ一定ノ人ニ其ノ職務ヲ讓ラサルヘカラス蓋シ戸籍及身分登記ハ前ニモ述ヘタルカ如ク公私法上ノ關係ヲ定ムルノ標準ト爲ルモノニシテ之ニ關スル事務ノ取扱ハ最モ確實無私ナルヲ要ス然レトモ戸籍吏カ自己又ハ自己ノ同籍者ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事務ヲ取扱フニ當リテハ或ハ私利私情ニ蔽ハレテ登記事項ニ多少ノ變改修飾ヲ爲スコトナキヲ保セス此ノ如キ場合ニモ尚ホ職務ヲ厲行セシメムコトハ人情ノ難スル所ヲ責ムルノミナラス戸籍及身分登記ノ正確ヲ失スルノ恐レアリ故ニ法律ハ此ノ場合ニハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者ヲシテ戸籍吏ノ職務ヲ行ハシメ尚ホ其ノ代理者ニ於テモ同一ノ理由ニ因リ職務ヲ行フコトヲ得サル場合ニハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者ヲシテ之ヲ行ハシムル又總テ戸籍吏ノ職務ハ所轄區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督シ以テ其ノ職務ヲ適法ニ行ハシメムコトヲ期シ且戸籍吏カ其ノ職務ノ執行ニ付キ故

監督

民事上ノ責任

意又ハ重大ナル過失ニ因リテ届出人其ノ他ノ者ニ損害ヲ加ヘタル場合ニハ其ノ損害ヲ賠償スルノ責ニ任セシム故意ノ何タルコトハ必スシモ說カス重大ナル過失トハ最不注意ノ人ノ爲スコトアルヘキ過失ニシテ些少ノ注意ヲ用キルトキハ避クルコトヲ得ヘカリシモノヲ謂フ戸籍吏ノ如何ナル過失カ重大ノ過失ニ屬スルカハ事實問題トシテ決スルノ外ナシト雖モ其ノ受理シタル届出ヲ登記スルコトヲ忘レタルカ如キハ通常重大ナル過失ト見テ可ナラム而シテ其ノ届出人其ノ他ノ者ニ對シテモ賠償ノ責任アルハ利害ノ關係ハ届出人ノミニ限ラス例ヘハ後見ノ届出ノ如キハ後見人ニ於テ之ヲ爲スモ被後見人ハ無論又被後見人ノ債權者ノ如キモ損害ヲ受クルコトアルヘケレハナリ

第二公簿公簿ノ種類

第二　公簿

一五九　民籍ニ關スル公簿ハ大別シテ身分登記簿戸籍簿ノ二トシ身分登記簿ハ更ニ之ヲ本籍人身分登記簿ト非本籍人身分登記簿トニ分ツ本籍人身分登記簿ハ其ノ戸籍役場ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有スル者ノ身分ヲ登記スル

モノニシテ非本籍人身分登記簿ハ一切本籍人ニ非サル者即チ寄留者若クハ滞在者等ノ身分ヲ登記スルモノトス

身分登記簿ノ編製及保存

身分登記簿ハ各種ニ正副二本ヲ備ヘ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存シ副本ハ所轄地方裁判所ニ納付シ永久ニ其ノ地方裁判所ニ保存スルコトヲ要ス各種ノ登記簿ハ法律ニ定メタル届出事件ノ區別ニ依リテ各別冊トシテ之ヲ編製スルヲ原則トシ其ノ使用期限ハ一箇年ニ止マルヲ以テ登記事項ノ混淆ト帳簿ノ破損磨滅トヲ避クルナリ而シテ其ノ毎年編製ヲ要スルカ故ニ翌年ニ於テ使用スヘキ帳簿ハ前年ニ於テ豫メ之ヲ作リ置クノ必要アリ其ノ帳簿ニハ監督區裁判所判事契印ヲ爲シ且表紙ノ裏面ニ枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス蓋シ帳簿ノ編製ヲ嚴ニシテ其ノ改變轉換ヲ防クナリ

戸籍簿ノ編製及保存

戸籍ハ戸籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製シ其ノ編製シタル戸籍ヲ合綴シテ帳簿ヲ作ルニハ地番號ノ順序ニ依ル正副二本ヲ備ヘ戸籍役場ト所轄地方裁判所トニ分チ之ヲ保存スルコト身分登記簿ト同シ

帳簿ノ公示

身分登記簿及戸籍簿ハ事變ヲ避クルカ爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場以外ニ持出スコトヲ得ス是レ唯其ノ紛失散亂ノ憂アルニ由ルノミナラス其ノ帳簿ハ何人ト雖モ之ヲ閲覽シ又ハ其ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルノ權利アルカ故ニ常ニ之ヲ戸籍役場ニ備ヘ置ク必要アリ其ノ帳簿ノ公示ヲ請求スル者ハ閲覽ニ付キテハ一回手數料金十錢、謄本抄本ニ付キテハ原本ノ枚數ニ依リ一枚毎ニ金十錢ヲ納ムルコトヲ要ス(三十一年司法省令第十三號)

帳簿ノ再製及補完

身分登記簿及戸籍簿ノ保存ニ就キテハ嚴重ナル手續アリト雖モ天災事變等ノ爲メニ滅失スルコトナキヲ保セス若シ其ノ全部又ハ一部ノ滅失シタル場合ニハ司法大臣ハ其ノ旨ヲ告示シ且帳簿ノ再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ爲サヽルヘカラス

登記ノ手續

一六〇 民籍ニ關スル公簿ノ登記ハ之ヲ愼重セサルヘカラス故ニ法律ハ其ノ手續ヲ細定セリ一々此ニ說明セス唯其ノ要領ヲ示サム

身分登記

身分登記ヲ爲スヘキ場合ハ法律ニ列記スルモノニ限リ其ノ以外ニハ決シテ

登記ヲ爲スコトヲ許サス又其ノ列記セラレタル場合ニ於テモ届出、送付其ノ他ノ手續カ法律ノ規定ニ依リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス是レ一ニ身分ノ登記ヲシテ整齊明確ニシテ誤謬ナカラシメムトノ意ニ出ツ身分登記ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ如シ(第十五條)

一、戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其ノ届書ノ送付ヲ受ケタルトキ　凡ソ出生、婚姻、死亡其ノ他身分ニ關スル事項ハ一私人ヨリ直接ニ届出ツルヲ原則トス此ニ届出ト云フハ即チ是レナリ然レトモ或ル場合ニハ他ノ戸籍吏カ届出ヲ受ケテ其ノ書類ヲ送付スルコトアリ此ニ届書ノ送付ト云フハ即チ是レナリ例ヘハ本籍地ヲ變更スル場合ニ戸籍吏カ新管轄ノ戸籍吏ニ届書ノ正本ヲ送付スルカ如キハ然リ(第三十三條乃至第三十五條)

二、戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ　例ヘハ死刑ノ執行アリタル場合ニ監獄長官カ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲シ又ハ船舶ノ難破ニ因リテ死亡者アリタル場合ニ其ノ難破ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署カ死亡者ノ本籍ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲シタルトキ等ノ如シ(第百二十九

條、第百三十一條等)

三、戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ　例ヘハ外國ニ在ル日本人カ其ノ國ノ法式ニ從ヒ身分證書ヲ作ラシメタル場合ニハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其ノ證書ノ謄本ヲ差出スヲ原則トスレトモ若シ公使又ハ領事駐在セサルトキハ本人歸國後本籍地ノ戸籍吏ニ其ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス又公使又ハ領事カ證書ノ謄本ヲ受取リタルトキハ外務大臣ヲ經テ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス此等ノ場合ニ於テ戸籍吏ハ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其ノ謄本ノ送付ヲ受クルナリ(第六十條第六十一條)

四、戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ　艦船ノ航海中ニ生シタル諸般ノ事項ヲ記載スルカ爲メニ備フル日誌ヲ航海日誌ト爲ス艦長又ハ船長ハ航海中ニ出生死亡等アリタルトキハ其ノ旨ヲ航海日誌ニ記載シ艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキ航海日誌ノ謄本ヲ其ノ地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要シ又外國ノ港ニ着シタルトキハ其ノ

國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其ノ謄本ヲ差出シ公使又ハ領事ハ外務大臣ヲ經テ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス(第七十八條第百三十條)

五、戸籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ　申請ハ一私人カ登記ノ取消又ハ變更ヲ求ムル場合ニシテ請求ハ檢事カ之ヲ求ムル場合ナリ例ヘハ民法ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ニハ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルモノトス然ルニ父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其ノ父ハ前ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス又棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス又婚姻其ノ子ヲ引取ルトキハ棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス又婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタルトキ若シ檢事カ其ノ訴ヲ提起シタル場合ニハ檢事ハ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要シ又隱居ノ取消ノ裁判確定シタルトキニ其ノ訴ヲ提起シタル檢事カ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要スルカ如シ(第七十三條第七十六條第百六條第二項第百二十二條第二項等)登記ノ取消又ハ變更ノ方式ハ欄外ニ取消又ハ變更ノ旨ヲ記載シテ前登記ヲ抹消又ハ

變更スルニ在リ(第二十四條第二十五條)而シテ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外ハ登記ノ取消又ハ變更ヲ爲スコトヲ得ス(第十七條)

六、戸籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ　例ヘハ戸籍吏ノ處分ヲ不當トシテ抗告ヲ爲シタル者アリタルトキ區裁判カ其ノ抗告ヲ理由アリトシテ戸籍吏ニ登記ヲ命シタル場合ノ如キハ然リ(第二百七條)

身分登記簿ニハ本籍人身分登記簿ヲ區別シ又登記ヲ爲スヘキ事件即チ出生、婚姻、死亡、相續等各其ノ區分ニ從ヒテ登記簿ヲ區別スルコトヲ要ス而シテ登記事項ノ關係元ト單一ナラサルヨリシテ本籍人及非本籍人ノ區分ニ付キ往々疑議ヲ生スルコトナシトセス法律ハ其ノ場合ヲ豫見シテ之ニ應スル手續ヲ規定セリ(第二十條第二十一條第二十六條)

一、被登記者ノ本籍カ届出其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄ニ歸スル場合例ヘハ出生ノ届出ニ依リテ其ノ子カ新ニ本籍人ト爲ル場合ハ勿論非本籍人カ本籍人ノ妻又ハ養子ト爲リタルトキニ婚姻又ハ養子緣組ノ届出ニ依リテ其ノ妻又ハ養子カ新ニ本籍人ト爲ル場合ニモ等シク本籍人身分登記簿ニ

登記スルコトヲ要ス

二、被登記者ノ本籍カ届出其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄ヲ離ルヽ場合此場合ニモ本籍人カ非本籍人ト爲ルニ因リテ戸籍吏ノ管轄ヲ離ルヽ場合ト本籍人カ單ニ其ノ管轄ヲ離ルヽ場合トヲ含ム例ヘハ婚姻又ハ養子縁組ニ依リテ本籍人カ非本籍人ト爲ルトキモ又本籍人カ死亡シタルトキモ其ノ共ニ戸籍吏ノ管轄ヲ離ルヽニ於テハ同シ此ノ場合ニハ被登記者ハ既ニ本籍人ニ非サレトモ從來本籍人タリシヲ以テ其ノ事由ヲ本籍人身分登記簿ニ記載シテ其ノ管轄ヲ離レタル所以ヲ明白ニスルコトヲ要ス

三、同一ノ登記ニシテ同時ニ本籍人及非本籍人ニ關スル場合　例ヘハ本籍人カ非本籍人ノ妻又ハ養子ト爲リタルトキハ其ノ妻又ハ養子ハ婚姻又ハ養子縁組ノ届出ニ依リテ非本籍人ト爲ルモノニシテ前述ノ如ク本籍人身分登記簿ニ之ヲ登記スルト同時ニ非本籍人タル夫又ハ養親ニ就キテハ別ニ非本籍人身分登記簿ニ之ヲ登記シテ其ノ關係ヲ明ニセサルヘカラス此ノ如ク同時ニ二箇ノ身分登記簿ニ登記スルトキハ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

四、被登記者ノ本籍分明ナラサル場合　例ヘハ棄兒又ハ行旅死亡人等ハ本籍ノ分明ナラサルヲ通例トス此ノ場合ニハ何レノ身分登記簿ニ登記スヘキカ法律ハ非本籍人身分登記簿ニ登記スヘキコトヲ命セリ蓋シ本籍人タルノ確證ナキ以上ハ之ヲ非本籍人ト看做スヲ以テ正當ナリトシタルナリ若シ後日ニ至リ本籍ノ分明シタルトキハ原登記ノ欄外ニ其ノ事由ヲ登記シ又其ノ本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ更ニ本籍人身分登記簿ニ登記シ其ノ登記及原登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス尚ホ此ノ外身分登記ノ手續、登記ノ事項、登記ノ字體、訂正挿入又ハ削除ノ方式等ハ法文ニ參照シテ之ヲ知ルヘシ

戸籍ニ記載スヘキ事項

戸籍ハ家ノ成立ヲ證明スルモノニシテ其ノ編製ハ各戸ニ就キテ之ヲ爲スヘキコトハ既ニ述ヘタリ即チ一戸毎ニ一ルヘカラス戸籍吏ハ身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出又ハ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニハ法律ノ定ムル手續ニ從ヒテ身分登記簿ノ外更ニ戸籍ヲ作ラサ

附記スルコトヲ要ス

ルヘカラス其ノ手續ハ此ニ省キヲ述ヘス唯如何ナル事項カ戸籍ニ記載セラルヘキカヲ觀テ戸籍ノ性質ヲ明ニスルニ便ナラシムヘシ

一、戸主、前戸主及家族ノ氏名　戸主ハ一家ノ長ナリ前戸主ハ現戸主ノ由リテ出タル處ナリ家族ハ戸主ニ屬シテ一家ヲ組成スル者ナリ故ニ戸籍ニハ此等ノ氏名ヲ記載スルヲ以テ第一トス其ノ記載ノ順序ハ第七十七條ニ規定セラル

二、戸主ノ族稱及本籍地但家族トシテ戸主ト族稱ヲ異ニスル場合ニ於テハ家族ニ付キテモ其ノ族稱ヲ記載スルコトヲ要ス　族稱ハ一種ノ社會上ノ位地ニシテ特別ノ待遇之ニ伴フコトアリ故ニ之ヲ記載シテ社會上戸主又ハ家族カ如何ナル地位ヲ有スルカヲ明ニスル必要アリ又其ノ戸主ノ本籍地ヲ記載スルハ以テ家ノ所在ヲ明ニスルナリ

三、戸主及家族ノ出生ノ年月日　年齡ハ戸主及家族ノ權利義務ト相關シ又戸主及家族カ一個人トシテ公私法上ニ有スル權利義務トモ相關ス故ニ其ノ出生ノ年月日ヲ明記スルノ必要ハ言ヲ俟タス

四、戸主又ハ家族ト爲リタル原因及年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付キテハ此ノ記載ヲ要セス　戸主ト爲リタル原因トハ家督相續、分家、廢家又ハ絕家ノ再興等ヲ謂フ家族ト爲リタル原因トハ出生、婚姻、養子緣組、私生子ノ認知等ヲ謂フ此等ノ原因ヲ記載スルハ戸主ノ責任ヲ明ニシ又家族ノ相續權ノ順序ヲ知ルカ如キ點ニ於テ必要ナレハナリ而シテ出生ハ家族ト爲ル原因中最モ普通ニシテ最モ明瞭ナルノミナラス家族ノ出生年月日ヲ記載スルハ以上ハ更ニ家族ト爲リタル原因トシテ出生ヲ記載スルコトヲ要セサルナリ

五、戸主並ニ家族ノ父母ノ氏名及其ノ父母ト戸主又ハ家族トノ續柄　一家ノ關係ヲ明ニスルハ戸籍ノ目的上當然ノ事タルノミナラス民法上扶養ノ義務ノ所在ヲ知ルニ於テ必要アリ

六、戸主ト前戸主トノ續柄及家族ト戸主トノ續柄但家族ノ中他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付キテハ其ノ者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要セス　戸主ト前戸主トノ續柄トハ戸主カ前戸主ノ子若クハ孫ナル

カ又ハ前戸主カ妻ニシテ戸主カ入夫ナルカト云フカ如キ關係ヲ謂ヒ家族ト戸主トノ續柄トハ家族カ戸主ノ母、妻、子又ハ弟ト云フカ如キ關係ヲ謂フ家族ノ中他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲ナリタル者トハ家族タル長男ノ妻ニシテ他家ヨリ入リ來タル者ノ如キヲ指シ他ノ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者トハ戸主ノ長男ノ子女ノ如ク其父ヲ經テ戸主ト伯姪又ハ祖孫ノ親族關係ヲ有スルヲ指ス此等ノ者ト戸主トノ續柄ハ別ニ記載スルコトヲ要セス蓋シ他ノ家族ト戸主トノ續柄ニテ容易ニ此等ノ者ト戸主トノ關係ヲモ知リ得ヘケレハナリ

七、他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其ノ原籍地、原籍ノ戸主ノ氏名、族稱及其ノ戸主ト戸主又ハ家族トナリタル者トノ續柄　入夫ニシテ戸主ト爲リタル者養子ト爲リタル者等ハ他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ナリ此等ノ者ノ原籍地原籍ノ戸主ノ氏名、族稱及其ノ戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄ヲ記載スルハ一ニ戸主又ハ家族ノ出處ヲ明ニスルノ意ナリ

八、他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ニ付キテハ其ノ者ト他ノ家族トノ續柄　例ヘハ戸主ノ婿養子ト爲リ又ハ戸主ノ長男ノ妻ト爲リタル者ニシテ其ノ婿養子カ他家ニ於テ有シタル子又ハ其ノ長男ノ妻カ他家ニ於テ產ミタル子ヲ戸主又ハ配偶者ノ同意ヲ得テ呼ヒ入ルヽ場合ノ如キニ於テハ此等ノ者ト婿養子又ハ長男ノ妻ト間コソ親子ノ關係アレトモ戸主トハ毫モ親族關係アルニ非ス故ニ唯親族關係アルル者ノ續柄ノミヲ記載スレハ足ル

九、戸主又ハ家族ノ身分ノ變更及其ノ原因並ニ年月日　戸主及家族ノ身分ヲ證明スルハ戸籍ノ目的タリ故ニ其ノ身分ニ變更アルトキハ其ノ變更及變更ノ原因並ニ年月日ヲ記載スルハ當然ノ事トス

十、後見人アル者ニ付キテハ後見人ノ氏名、住所及後見人ノ就職並ニ任務終了ノ年月日　後見人ノ責任ノ終始ヲ正確ニスルカ爲メニ此等ノ事項ヲ記載スルノ必要ハ說明ヲ竢タサルヘシ

第四節　身分

身分ニ關スル民籍法ノ目的

一六一　身分トハ法律ニ依リテ認メラレタル一個人ノ社會上ノ地位ニシテ戸主、家族、夫婦、親子、後見人、相續人、日本臣民等皆是レナリ身分ノ得喪變更及ヒ身分ニ伴ヒテ生スル權利義務ハ主トシテ民法及國籍法等ニ規定セラル此ニ論述スヘキノ限ニ在ラス民籍法ノ目的ハ專ラ此等ノ諸法ニ依リテ定マレル身分ヲ證明スルニ在リ然レトモ民籍ノ證明ハ戸籍吏カ自ラ進ミテ之ヲ行フヘキモノニ非スシテ必ス届出其ノ他ノ事由發生シタル後ニ之ヲ行フヘキモノトス故ニ法律ハ其ノ届出ニ關スル事項ヲ細定シ以テ民籍ノ確實明瞭ナラムコトヲ期ス

身分ニ關スル届出ニ付キテハ先ヲ左ノ諸項ヲ明ニセサルヘカラス

身分ニ關スル届出ハ其ノ届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ原則トス其ノ届出人カ本籍地ニ在ルト本籍地外ニ在ルトヲ問ハサルナリ然レトモ本籍地外ニ在ル者ニシテ一々本籍地ノ戸籍吏ニ届出テムコトハ頗ル不便ナル場合ナシトセス故ニ法律ハ届出人ニ選擇ノ自由ヲ與ヘ其ノ所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得シメタリ但本籍地ノ戸

第一届出ヲ爲スヘキ場所

一般ノ通則

戸籍吏ニ届出ヲ爲ス場合ニハ届書ハ正本一通ニテ足レトモ所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲ス場合ニハ正副二通ノ届書ヲ差出スコトヲ要ス（第五十三條又凡ソ人ハ必ス本籍地ヲ有スヘキモノナレトモ或ハ往々本籍ヲ有セサルモノナシトセス此ノ場合ニハ法律ハ其ノ現在ノ所在地ヲ以テ本籍地ト看做シ其ノ地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スヘキモノトス

特別ノ規則

此ニ述フル所ハ一般ノ通則ナリ故ニ法律カ特別ニ届出ノ場所ヲ規定シタルモノハ各其ノ規定ニ從フヘシ例ヘハ出生、養子、緣組、婚姻、後見、死亡等ノ届出ヲ爲ス場處ノ如キハ是レナリ（第六十九條、第九十條、第百四條、第百十八條、第百二十七條）

第二届出ノ方式

第二届出ノ方式　届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ原則トシ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス場合ニハ一定ノ條件ヲ必要トス即チ正當ノ理由アルコト及届出人カ其ノ理由ヲ戸籍吏ニ陳述スルコトヲ是レナリ正當ノ理由ノ何タルコトハ事實問題トシテ之ヲ決スヘシト雖モ例ヘハ目ニ一丁字ナキ者又ハ身體拘攣ノ疾アル者等自ラ筆ヲ把ルコト能ハス又他人ニ依頼セムニモ其ノ人ナシト云

フカ如キ場合ハ正當ノ理由タルコト疑ナカルヘシ但特別ニ口頭ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ許シタル場合例ヘハ婚姻又ハ養子緣組ノ届出ノ如キハ届出人カ當然口頭ヲ以テ爲シ得ヘキモノニシテ正當ノ理由アルト否トヲ問ハサルナリ(民法第七十七條第八百四十七條)

書面ヲ以テスル届出

書面ヲ以テ届出ツル場合ニハ其ノ届書ニ(一)届出事件(二)届出ノ年月日(三)届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及本籍地ヲ記載シ届出人之ニ署名捺印スルコトヲ要シ届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ其ノ間ノ續柄ヲ記載シ届出人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス法律ノ規定ニ依リテ届書ニ記載スヘキ事項中其ノ事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノハ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ缺略スルコトヲ得レトモ其ノ記載スヘキ事項以外ノモノハ如何ナル場合ニモ之ヲ記載スルコトヲ得ス是レ專ラ身分登記ノ正確ヲ保タムカ爲メナリ

口頭ヲ以テスル届出

口頭ヲ以テ届出ツル場合ニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其ノ届出事項ヲ陳述シ戸籍吏ハ直ニ其ノ口述並ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且ツ届出人ヲシテ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス思フニ此ノ場合ニハ届出人ハ多クハ署名スルコトヲ能ハス且ツ印ヲ有セサルコト多カルヘシ然ルトキハ戸籍吏ハ其ノ事由ヲ附記シテ名ヲ代署セシメ拇印セシムルコトヲ得(第二百十八條)

外國ニ在ル日本人ノ身分届出

外國ニ在ル日本人カ身分ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ法律ハ其ノ日本ノ方式ニ依ルト在留國ノ方式ニ依ルトニ付キテ選擇ノ自由ヲ與ヘタリ而シテ其ノ日本ノ方式ニ依リテ届出ヲ爲スニ當リテ一々之ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ爲スヘシトスルハ頗ル不便タリ故ニ法律ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ許セリ若シ又外國ニ在ル日本人カ其ノ國ノ方式ニ從ヒテ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三个月以内ニ其ノ國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其ノ證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス公使又ハ領事ハ何レノ場合ニ於テモ其ノ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ヲ三个月以内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日以内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ送附スヘキコトヽ爲レリ

第三届出義務者

第三届出義務者竝ニ證人　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トシ其ノ届書ニハ届出人ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及本籍ヲ記載スル外無能力ノ原因竝ニ届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコトヲ記載スヘシ但法律ニ例外ヲ設ケタル場合即チ無能力者カ法定代理人ノ同意ヲ經ス獨立シテ行フコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ハ無能力者自ラ之ヲ爲スコトヲ得例ヘハ無能力者カ隱居ヲ爲ス場合禁治産者カ婚姻又ハ養子緣組ヲ爲ス場合ノ如キハ是レナリ(民法第七百五十六條、第七百七十四條、第八百四十七條又届出事件ニハ證人ヲ要スルモノアリ婚姻又ハ養子緣組ノ如キハ然リ(民法第七百七十五條第二項、第八百四十七條、第八百四十八條)此等ノ事件ノ届出ニ付キテハ證人ハ届書ニ其ノ證人タルコト、出生ノ年月日、職業及本籍地ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第四届出期間

第四届出期間　届出期間ハ届出事件ニ從ヒテ異ナリ或ハ時ヲ以テ定ムルモノアリ棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時間ニ其ノ旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要スルカ如キハ是レナリ(第七十五條)或ハ日ヲ以テ定ムルモノアリ出生

期間ノ計算通則

ハ十日以内ニ届出ツルコトヲ要スルカ如キハ是レナリ(第六十八條)或ハ月ヲ以テ定ムルモノアリ棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其ノ兒ヲ引取リタルトキハ一箇月以内ニ届出ツルコトヲ要スルカ如シ(第七十六條)此ノ如ク期間ヲ定ムル以上ハ期間ノ計算法ヲ定ムルコト必要ナリ法律ハ總テ届出事件ノ發生シタル日ヨリ起算スルコトヽセリ故ニ日又ハ月ヲ以テ數フル期間ハ皆其ノ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算スヘシ時ヲ以テスルモノニ於テハ別ニ其ノ計算法ヲ設ケサレトモ其ノ届出事件ノ發生シタル時ヨリ起算スヘキコトハ言ヲ竢タサルナリ

特例

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ計算スヘキ場合ニ於テハ届出ヲ爲スヘキ者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス是レ期間ノ計算ニ關スル特例ノ一ナリ尚ホ或ル種類ノ届出事件ニ付キテハ法律ハ特ニ其ノ期間ノ起算日ヲ指定シタルモノアリ例ヘハ後見ノ届出ハ後見人就職ノ日ヨリ十日以内ニ於テシ死亡ノ届出ハ届出ヲ爲スヘキ者カ死亡ヲ知リタル日ヨリ五日以内ニ於テスルカ如キ是レ

ナリ(第百十四條第百二十五條)此等ノ場合ニハ勿論其ノ指定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘシ是レ期間ノ計算ニ關スル特例ノ二ナリ

届出期間ヲ經過シタル場合ノ方法

届出ノ期間内ニ届出ヲ怠リタル者ハ一定ノ過料ニ處セラル然レトモ民籍事務ハ處罰ヲ以テ終ルニ非ス故ニ戸籍吏ハ催告ノ方法ニ由リテ必ス其ノ届出ヲ爲サシムルコトヲ勉メサルヘカラス又届出期間ヲ經過シタル届出ト雖モ之ヲ受理スルコトヲ要ス蓋シ此ノ如クナラスムハ身分登記ノ制ヲ設ケテ人ノ身分ヲ證明スルノ目的ヲ達スルコト能ハサレハナリ

第五届出事件

第五届出事件　届出ヲ爲スヘキ事件ハ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ規定セラル(一)出生(二)嫡出子否認(三)私生子認知(四)養子緣組(五)養子離緣(六)婚姻(七)離婚(八)後見(九)隱居(一〇)失踪(一一)死亡(一二)家督相續(一三)推定家督相續人ノ廢除(一四)家督相續人ノ指定(一五)入籍離籍及復籍拒絕(一六)廢家及絕家(一七)分家及廢絕家再興(一八)國籍ノ喪失(一九)氏名及族稱ノ變更是レナリ總テ此等ノ事件ノ法律關係ハ民法國籍法其ノ他特別法ノ規定スル所ニ係ル戸籍法ハ届出ノ場所、事項、届出ノ義務者並ニ届出ノ期間其ノ他一切届出ニ關スル手續ヲ定メタリ然レトモ余輩ハ既ニ前ニ述ヘタル所ヲ以テ身分ノ届出ニ關スル大體ノ說明ヲ了ヘタルカ故ニ此ニ各事件ニ付キテ其ノ届出ノ手續ヲ細說セス

第五節　屬籍

一六二　屬籍ハ地方行政ノ各區劃内ニ居住スル人民カ其ノ區劃竝ニ國家ニ對スル權利義務ノ關係ヲ定ムル標準ニシテ又之ヲ管轄ト稱ス蓋シ管轄トハ上ヨリ下ニ對スル語ニシテ屬籍トハ下ヨリ上ニ對スル語ナリ即チ互ニ相表裏スルモノニシテ屬籍アレハ必ス管轄アリ管轄アレハ必ス屬籍アリ二者齊シク行政權ノ各個人ニ及ホス關係ヲ定ムルニ外ナラス而シテ其ノ屬籍ハ行政ノ事務ニ從ヒテ一ナラス又實際ニ於テ交互錯綜スルカ故ニ一人ニシテ數多ノ屬籍ヲ有スルコトアリ今左ニ屬籍ヨリ生スル法律關係ヲ說カム

第一款　國籍

一六三　憲法第十八條ニ『日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル』トアリ國籍法ハ即チ日本臣民タルノ要件ヲ定メタルモノナリ凡ソ日本臣民ハ

法律ノ定ムル所ニ從ヒ公私法上一切ノ權利ヲ享有スト雖モ外國人ハ選擧權被選擧權等公權ハ之ヲ享有スルコトヲ得サルノミナラス私權モ亦法律又ハ條約ニ禁止ナキ限ニ於テ之ヲ享有スルコトヲ得例ヘハ土地所有ノ權、鑛物採掘ノ權、日本船舶所有ノ權、日本銀行又ハ取引ノ株主ト爲ル權ノ如キハ現行法ニ於テ之ヲ外國人ニ與ヘス故ニ國籍ヲ知ルノ必要ハ種々ノ點ニ於テ存スルナリ

國籍ニ關スル規定ハ左ノ區別ニ從ヒテ之ヲ考察スルコトヲ得

第一、國籍ノ取得

第一國籍ノ取得　國籍ノ取得ニハ生來ノ日本國籍取得ニ關スルモノトアリ生來ノ國籍ハ出生ノ事實ニ因リテ定マルモノニシテ或ハ血緣ニ因リ或ハ出生地ニ因ル血緣ニ因レハ子ハ父ノ國籍ニ從フヲ原則トシ父知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニハ母ノ國籍ニ從フ故ニ出生ノ時其ノ父カ日本人ナルトキハ其ノ子ハ之ヲ日本人トス又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ其ノ母カ日本人ナルトキハ其ノ子ハ之ヲ日本人トス出生地ニ因ルハ特別ノ場合ニシテ即チ日本ニ於テ生マレタル

外國人カ日本ノ養子又ハ人夫ト爲リ又日本人タル父母ニ認知セラルヽ場合ノ條件

子ノ父母カ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキニ於テ其ノ子ハ之ヲ日本人トス蓋シ無籍國人ヲ生セシメサルノ意ニ出ツ外國人カ日本ノ國權ヲ取得スル原因ニハ親族法ノ關係ニ出スルモノト特別ノ處分ニ出スルモノトアリ親族法ノ關係ニ出ツルモノハ(一)日本人ノ妻ト爲リタルトキ(二)日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ(三)日本人ノ養子ト爲リタルトキ是レナリ特別ノ處分ニ出スルモノハ歸化卽チ是ナリ」

外國人カ日本人ノ養子又ハ入夫ト爲ル場合ニ關シテハ特別ノ規定アリ內務大臣ハ其ノ外國人カ一年以上引續キ日本ニ住所又ハ居所ヲ有シ且ツ品行端正ナルニ非サレハ許可スルコトヲ得ス是レ專ラ無賴ノ徒カ我カ國籍ニ入ルコトヲ防クナリ(明治三十一年法律第二十一號)又外國人カ認知ニ依リテ國籍ヲ取得スルニハ本國法ニ於テ未成年者タルコト若クハ外國人ノ妻ニ非サルコトヲ要シ且ツ父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコトヲ要ス其ノ未成年者タル成年者ハ行爲ノ能

歸化ノ許可及條件

力ヲ有スルカ故ニ國籍ノ變更ヲ以テ其ノ自由意思ニ任セムト欲スルナリ其ノ外國人ノ妻ニ非サルコトヲ要スルハ外國人ノ妻タルモノハ日本ノ國籍ヲ失フヲ以テ原則トスレハナリ而シテ父母同時ニ認知ヲ爲セハ父ノ國籍ニ從ハシメ時ヲ異ニシテ認知ヲ爲セハ其ノ先ツ認知ヲ爲シタル者ノ國籍ニ從ハシムルヲ以テ旨意トスルナリ

外國人ハ歸化ヲ爲スノ權利ヲ有スルニ非ス一定ノ條件ヲ具備スル者ニ對シ內務大臣之ヲ許可スルニ依リテ歸化ハ始メテ成立スルコトヲ得其ノ條件ハ左ノ如シ

(一)引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト

(二)滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト

(三)品行端正ナルコト

(四)獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資產又ハ技能アルコト

(五)國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其ノ國籍ヲ失フヘキコト

(六)妻ハ其ノ夫ト共ニスヘキコト

寬大ノ條件ニ付セラルヽ者

歸化ノ効力

或ル種類ノ國籍取得者ニ對

此ノ諸條件ハ全ク歸化ヲ愼重ニシ眞實ニ故國ヲ離レテ我ニ歸スルノ念アルヲ證シ無賴ノ徒若クハ無產無能ノ人ヲシテ我カ國籍ヲ汚サヽラシメ且國籍ノ衝突ヲ生セサラムカ爲メニ設ケラレタルナリ然レトモ是レ普通ノ場合ニ於ケル條件ナリ特殊ノ關係ヲ有スル外國人ニ對シテハ法律ハ更ニ歸化ノ條件ヲ寬大ニセリ乃チ父又ハ母ノ日本人タリシ者、妻ノ日本人タリシ者、日本ニ於テ生レタル者引續十年以上日本ニ居所ヲ有スル者、竝ニ日本ニ特別ノ功勞アル者是レナリ

歸化ノ効力ハ官報ニ告示スルニ始メテ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得而シテ國籍取得ノ効力ハ取得者ノ妻又ハ未成年者タル子ニ對シテハ其ノ本國法ニ反對ノ規定ナキ限ハ當然及フモノトス乃チ其ノ妻又ハ子ハ夫又ハ父若クハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得スル蓋シ夫婦親子其ノ國籍ヲ同クスルハ事理ノ當然ナルモノナレハナリ

日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本臣民トシテ一切ノ能力ヲ有スルヲ原則トスレトモ或ル種類ノ國籍取得者ハ公法上ノ能力ヲ制限セラル仍チ歸化人、歸

スル制限

化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及日本人ノ養子又ハ入夫ト爲リタルニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ニ對シテハ無制限ニ權利ヲ享有セシムルハ危險ナキヲ保セサルカ故ニ法律ハ國務大臣、樞密院ノ議長、副議長、又ハ顧問官、宮內勅任官、特命全權公使、陸海軍ノ將官、大審院長會計檢査院長、行政裁判所長官及帝國議會ノ議員ト爲ルコトヲ得スト定メタリ但一定ノ年限ヲ經タル後勅裁ニ依リテ內務大臣此ノ制限ヲ解除スルコトヲ得

第二國籍ノ喪失ノ原因

第二國籍ノ喪失　國籍ノ喪失モ亦親族法ノ結果ニ依ルモノト特別ノ行爲ニ依ルモノトアリ親族法ノ結果ニ依ルモノハ(イ)日本ノ女カ外國人ト婚姻シタルトキ(ロ)婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者カ離婚又ハ離緣ノ場合ニ於テ其ノ外國ノ國籍ヲ有スヘキトキ(ハ)日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻又ハ子カ其ノ者ノ國籍ヲ取得シタルトキ(ニ)日本人タル子カ認知ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキ是レナリ特別ノ行爲ニ依ルモノハ自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキ是レナリ

國籍ノ喪

國籍ノ喪失ニ關スル制限

國籍喪失者ノ財產處分

第三國籍ノ回復

國籍ノ喪失ニ關シテハ二箇ノ制限アリ一ハ滿十七歲以上ノ男子ハ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルカ又ハ之ニ服スルノ義務ナキトキニ非サレハ假令ヒ國籍喪失ノ原因ヲ備フルモ國籍ヲ喪失セシメス是レ國民ノ一大義務タル兵役ヲ免レサラシメムカ爲メナリ一ハ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ假令ヒ國籍喪失ノ原因ヲ備フルモ國籍ヲ喪失セシメス是レ外國人ハ文武ノ官職ニ任スルコトヲ得サルヲ以テ國法ノ原則トスレハナリ

日本ノ國籍ヲ喪失シタル者カ日本人ニ非サレハ享有スル能ハサル權利ヲ有スル場合ニ於テ一箇年內ニ之ヲ日本人ニ讓渡サルトキハ其ノ權利ハ國庫ニ歸屬スル例ヘハ前ニ擧ケタル土地所有權、鑛物採掘權、日本船舶所有權等ノ如キハ皆然リ(三十二年法律第九十四號)

第三國籍ノ回復　日本ノ國籍ヲ喪失シタル者ニシテ一定ノ條件ヲ充タストキハ再ヒ日本ノ國籍ニ復歸スルコトヲ得一般ノ國籍取得ノ規定ニ從フコトヲ要セス即チ婚姻ニ因リ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ國籍ヲ回復スルコトヲ得又自己ノ志望

ニ依リ外國ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及子ニシテ其ノ者ノ國籍ヲ取得シタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキモ亦同シ但歸化人歸化人ノ子ニシテ日本本國籍ヲ得タル者又ハ日本人ノ養子若クハ入夫ト爲リタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニハ此ノ限ニ在ラス元來外國人タリシ者ナレハ容易ニ國籍ヲ回復セシムルノ必要ナキノミナラス却テ其ノ法律上ノ制限ヲ免ルヽ虞アレハナリ

第二款　戸籍

戸籍ノ何タルコト既ニ之ヲ說ケリ而シテ戸籍登記ノ基本タルヘキ身分ノ得喪變更ニ關シテハ前節ニ其ノ届出ノ方式ヲ略述セリ然レトモ身分ニ關係ナクシテ全然戸籍ノミニ關スル事項ハ別ニ之ヲ考察スルコトヲ要ス

第一　本籍及寄留

一六四　本籍トハ戸籍ノ存スル所ニシテ本籍以外ノ地ノ居住ハ皆之ヲ寄留ト稱ス其ノ居住ハ營業又ハ公務等ノ爲メニスル一時ノ假住タルト又永遠ノ居住タルトヲ問ハサルナリ歐洲諸國ノ制度ニ於テハ寄留アルコトナシ唯

住所ノ制ノ外ニハ旅行及移轉ノ制アルノミ是レ其ノ住所ト本籍トノ間ニ區別ヲ置カス住民籍ノ在ル所ヲ以テ屬籍トスルノ原則ヲ採レハナリ民法ノ規定ニ依レハ各人生活ノ本據ヲ以テ住所トシ住所ノ知レサル場合ニハ居所ヲ以テ住所トストアリ故ニ民法ハ唯住所ヲ以テ法律上ノ關係ヲ定ムル標準トシ本籍及寄留ノ別ヲ設ケス又市町村制ハ凡ソ其ノ市町村ニ居住スルモノヲ以テ住民トシ其ノ權利義務ノ標準ヲ住民籍ニ取レルヲ以テ實際本籍ト寄留トヲ別ツノ必要ナシ然ラハ法律上ノ屬籍ハ現住ノ市町村ニ在リトシテ之ヲ以テ本籍ト見做サハ寄留ノ制度ハ之ヲ廢スルモ毫モ不可ナルコトナキノミテラス却テ今日ノ如ク有名無實ノ本籍ヲ設クルニ比シテ夐カニ行政上ノ便益アルヘシト雖モ前ニモ述ヘタルカ如ク本邦現今ノ法律制度カ個人制度トシ家族制度トノ混合セル狀態ニ在ル以上ハ本籍及寄留ノ區別ヲ設クルモ亦已ムヲ得サルナリ

寄留ノ届出及登記

寄留ノ届出ニ關スル方式ハ明治十九年内務省令第十九號ニ定マレリ本令ハ戸籍法施行ノ後ニモ尙効力ヲ有スヽ是ニ依レハ他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタ

ルトキハ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其ノ土地家屋ヲ管理スルモノヨリ十日以内ニ其ノ地戸長ニ届出テ且同時ニ本籍地戸長ニ届書ヲ發送スヘク其ノ寄留地ヲ去ルトキハ又十日以内ニ其ノ地戸長ニ届出テ寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ同シク十日以内ニ届出ツヘシ若シ正當ノ理由ナクシテ之ニ違背シタル者ハ二十五錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處セラル尚ホ寄留登記ノ手續ハ十九年内務省令第二十二號第二十條以下ニ就キテ看ルヘシ

第二轉籍及本籍ノ變更

第二　轉籍及本籍ノ變更

一六五　轉籍トハ本籍ヲ其ノ戸籍吏ノ所轄區域ニ移スヲ謂フ一戸籍吏ノ管轄區域内ニ於テ甲地ヨリ乙地ニ其ノ本籍ヲ移スハ轉籍ト云ハスシテ本籍ノ變更ト云フ若シ日本ノ國籍ヲ喪失シ又ハ外國ノ國籍ヲ取得シタルニ因リテ本籍ヲ外國ニ移ストキハ轉籍ニ非スシテ本籍ノ消滅ニ屬ス

轉籍ノ届出

本籍ノ所在ハ必スシモ土地家屋ニ依ルヲ要セス又本籍者カ其ノ本籍ノ所在地ニ居住スルヲ要セス唯特定ノ人カ特定ノ場處ニ屬シテ一家ヲ組成スル關係ヲ法律上ニ公證シタル帳簿ノ在ル所ハ即チ本籍ナリ故ニ轉籍ニ於テモ亦有形的ニ之ヲ解釋スヘカラス轉籍地ノ戸籍ニ入リ原籍地ノ戸籍ヨリ除カルヽヲ以テ法律上轉籍ハ成立ス唯實際ニ於テ轉籍ヲ爲ス原因ニハ種々アルヘシ一戸轉籍ヲ爲スハ生計上ノ便宜職業又ハ營業上ノ必要職務地ノ變更等ニ因ルヘク又家族ノ一人轉籍ヲ爲スハ婚姻養子緣組等身分ノ變更アリタルニ因ルヘシ其ノ何レノ場合ニ於テモ戸主ハ一定ノ事件ヲ具シ戸籍ノ謄本ヲ添ヘ正副二本ノ届書ヲ作リ之ヲ轉籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス其ノ戸籍ノ謄本ヲ添ヘシムルハ新ニ編製スヘキ戸籍ノ正確ヲ保タシムカ爲メナリ其ノ轉籍地ノ戸籍吏ニ届出テシムルハ轉籍者ノ便宜ト戸籍事務取扱上ノ便宜トニ出ツ正副二本ノ届書ハ一ハ轉籍地ノ戸籍役場ニ留メ置キ一ハ原籍地ノ戸籍吏ニ送付スルモノナリ其ノ届出ヲ爲スヘキ事項ハ(一)轉籍者ノ氏名出生ノ年月日及職業(二)原籍地及轉籍地トス總テ原籍地ト云フハ轉籍ノ際ニ現ニ

屬スル所ノ本籍地ナリ

本籍變更ノ届出

本籍ノ變更即チ同一戸籍吏ノ管轄地内ニ於テ甲地ヨリ乙地ニ本籍地ヲ移ス場合ニモ亦一戸全籍ノ變更ト他ノ家族カ自己ノ家族トシテ入籍スルニ因ル變更トアリ而シテ其ノ何レノ場合ニ於テモ戸主ハ届出義務者トシテ原籍地及新本籍地ヲ具シテ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

第三就籍及除籍

第三　就籍及除籍

一六六　凡ソ人ハ必ス本籍ハ有スヘシ然レトモ或ハ届出ノ闕漏其ノ他ノ事由ニ因リテ戸籍ニ登記セラレサル者ナシトセス例ヘハ子ノ出生アリタル際其ノ父母又ハ其ノ他届出ノ義務アル者カ届出ヲ遺忘シ又其ノ届出ハアリタレトモ戸籍吏カ登記ヲ怠リタルカ如キ場合ニハ戸籍ニ記載セラレサル者ヲ生スヘシ是ヲ本籍ヲ有セサル者トス又人ハ唯一ノ本籍ヲ有スヘキモノニシテ同時ニ二箇以上ノ本籍アルヘカラス然レトモ届出ノ闕漏其ノ他ノ事由ニ因リテ又或ハ二箇以上ノ本籍ニ屬スル者ナシトセス例ヘハ東京ニ本籍ヲ有スル者カ京都ニ於テ私生子ヲ擧ケテ之ヲ認知シタルニ因リ其ノ子ハ東京

第三就籍及除籍ノ届出

ノ父ノ戸籍ニ入リタルニ京都ニ在ル母ノ戸籍ニハ依然私生子トシテ記載セラルヽカ如キコトアルヘシ是ヲ複本籍ヲ有スル者トス就籍トハ本籍ヲ有セサル者ヲ本籍ニ入ルヽヲ謂ヒ除籍トハ複本籍ヲ有スル者ヲ單本籍ニスルヲ謂フ此ノ二ノ場合ノ届出ハ所轄區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ要ス蓋シ戸籍ノ整齊確實ヲ保シテ濫ニ其ノ變更ヲ爲サシメサラムカ爲メニ其ノ手續ヲ鄭重ニシタルナリ其ノ就籍及除籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ一定ノ事件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ就籍又ハ除籍ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スヘシ其ノ届出ツヘキ一定ノ事件ハ此ニ之ヲ省略ス何レノ場合ニ於テモ届出義務者ハ戸主トス

第三款　旅行及移轉

第三款旅行及移轉

旅行及移轉ハ一個人ノ自由ニ屬スルモノニシテ一個人ハ隨意ニ一時其ノ居住ノ地ヲ離レ又ハ其ノ居住ノ地ヲ變スルコトヲ得然レトモ國家ハ公益ノ必要上ヨリ之ヲ制限スルコトヲ得サルヘカラス但其ノ自由ハ憲法ノ擔保ニ本ツクカ故ニ之ヲ制限スルニハ法律ノ範圍内ニ於テセサルヘカラス

旅行ノ制限

一六七 旅行ヲ制限スル目的ニ二アリ公安ヲ保護スルノ目的及一個人ヲ保護スルノ目的是レナリ而シテ更ニ其ノ場合ヲ區別スルトキハ(一)內國人ノ內地旅行ニ關スル制限(二)內國人ノ外國旅行ニ關スル制限(三)外國人ノ內地旅行ニ關スル制限トスルコトヲ得

(一)內國人ノ內地旅行ニ關スル制限　公安ヲ保護スル目的ヲ以テ內國人ノ內地旅行ヲ制限スルハ衞生上又ハ警察上ノ必要ヨリ起ルコト多シ例ヘハ傳染病流行ノ市町村ニ於テ其ノ住民ノ他市町村ニ旅行スルヲ禁シ又或ハ人民ノ不穩ノ擧動アル府縣ニ他府縣人民ノ出入スルヲ禁スルカ如キハ是レナリ一個人ヲ保護スル目的ヲ以テ制限スルハ其ノ一個人ノ屬籍、身分、職業等ヲ證明シテ旅行先ノ安全ヲ求ムルカ爲メニスルコト多シ往時各國ニ於テ此ノ目的ノ爲メニ旅行券ヲ受ケ又旅行先ニ於テ屆出ヲ爲サシムルカ如キ義務ヲ一個人ニ負ハシメタルコトアレトモ現今ノ立法ハ行政官廳カ自ラ進ミテ保護ヲ與フルコトナク唯一個人ノ願出ニ依リテ之ヲ與フルコトアルノミ故ニ此ノ場合ニハ一個人ノ自由ヲ制限スルニハ非サルナリ(明治四年布告戶籍規則第十四則ハ旅行鑑札ノ制ヲ設ケタレトモ同年七月布告ヲ以テ之ヲ廢止セリ)

(二)內國人ノ外國旅行ニ關スル制限　內國人ノ外國旅行スルハ兵役ノ義務ニ悖戾セサル限ニ於テハ自由ナリ但國家ハ一個人ノ保護ノ爲メ一定ノ規則ヲ設クルコトヲ得其ノ場合ハ明治十一年外務省布達第一號海外旅券規則及九年布告第三十號外國船乘込規則等ニ定メラル凡テ海外ニ旅行セムトスル者ハ外務省又ハ開港場管廳ニ願出テ一定ノ手數料ヲ收メテ旅券ヲ受クヘク外國船ニ乘込マムトスル者ハ出船地管廳ニ屆出テ又一定ノ手數料ヲ收メテ乘船證書ヲ受クヘシ然レトモ此ノ規則タルヤ臣民ノ義務トシテ之ヲ命スルニ非ス外國旅行者ハ旅券ヲ携帶セサルモ差支ナシ唯之ヲ携帶セサルモノハ旅行先ニ於テ相當ノ保護ヲ受クルノミ故ニ此ノ場合モ亦別ニ制限ヲ設ケタリト謂フコトヲ得ス

(三)外國人ノ內地旅行ニ關スル制限　外國人ノ內地旅行ニ關シテハ前二箇ノ場合トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニス外國人ノ內地ニ來タルハ必スシモ內地ヲ益セスシテ却テ公共ヲ害スル場合ナキニ非ス國家ハ其ノ境土權ノ作用ニ依リ

テ固ヨリ十分嚴密ナル監督ヲ行フコトヲ得或ハ外國人罪人ナル場合ニハ罪人引渡規則ニ依リテ捕縛スルコトアリ或ハ傳染病流行地ヨリ來ル場合ニハ其ノ上陸ヲ停止スルコトアリ或ハ一個人若クハ國家ノ安全ヲ害スル場合ニハ之ヲ國外ニ追放スルコトアリ蓋シ此等ノ場合ニ於ケル取締ハ內國人ト雖モ齊シク適用セラルヽモノナレトモ外國人ハ一旦內地ニ居住シタル後モ其ノ內地旅行ニ關シテハ旅券ノ携帶ヲ條件トスルカ如キ一定ノ制限ヲ受クルコトアリ改正條約ノ實施セラルヽ今日ニ於テハ條約國ノ人民ニ對シテハ一般ニ此ノ制限ヲモ廢シタリ條約若クハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ニ對シテモ三十二年勅令第三百五十二號ハ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住、移轉、營業其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ許セリ但勞働者ハ旅行ニ關シテハ別ニ制限ヲ受ケサレトモ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フニハ地方長官ノ許可ヲ要ス此ニ勞働者ト云フハ家事ニ使用セラレ又ハ炊事若クハ給仕ニ從事スル者ヲ除キ總テ農業、漁業、鑛業、土木建築、製造、運搬、挽車、仲仕業其ノ他雜役ニ關スル勞働ニ從事スル者ヲ指スコト同

年內務省令第四十二號ニ見ユ尙ホ一般外國人ノ居住、寄寓、宿泊等ノ場合ニハ外國人若クハ家屋所有者又ハ旅店其ノ他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシムル者ヨリ一定ノ事項ヲ届出スルコトヲ要ス其ノ手續ハ同年內務省令第三十二號ニ細定セラル

一六八　移轉ニモ亦國內移轉ト國外移轉アリテ國內移轉ニ關スル制限ハ主トシテ警察ノ必要ニ本ツク例ヘハ刑法上ノ監視ニ附セラレタル者ハ隨意ノ移住ヲ許サヽルカ如シ(刑法附則第二章)國外移轉ニ關スル制限ハ從來海外旅行規則ノ外未タ一定ノ規則アラサリシカ明治二十七年勅令第四十二號移民規則ハ移民ノ保護幷ニ取締ノ方法ヲ定メ二十九年法律第七十號移民保護法ヲ以テ更ニ其ノ規則ヲ修正セリ

一六九　移民保護法ニ依レハ移民トハ『勞働ニ從事スルノ目的ヲ以テ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ』故ニ該法ハ一般ノ國外移轉ニ關スル規則ニ非スシテ特ニ其ノ移民ト稱スル者ニ就キテノ規則ナリ而シテ法律ハ命令ヲ以テ勞働ノ種類ヲ指定スル

コトヽシ移民保護法施行細則(二十九年外務省令第三號三十年同第四號)ハ此ノ法律ノ委任ニ依リ勞働ノ種類ヲ指定セリ(一)耕作、栽培、牧畜、漁業、鑛業、製造、土木運搬、建築ニ從事シ勞力ヲ供スル者(二)炊事、洗濯、裁縫、給事、看病等ノ爲メ家事ニ使役セラルヽ者是レナリ

移民ニハ移民取扱人ニ依ルモノトアリ其ノ何レノ移民タルヲ問ハス總テ移民ノ渡航ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一定ノ期日内(六箇月以内)ニ出發セサルヘカラス若シ其ノ期日内ニ出發セサルトキハ渡航ノ許可ハ效力ヲ失フ行政廳ハ移民保護ノ爲メ若クハ公安保持ノ爲メ又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民渡航ヲ差止メ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得其ノ渡航差止中ノ日數ハ出發期間ニ算入セサルモノトス

移民取扱人トハ『何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業トスル者』ニシテ其ノ營業ヲ爲スニハ左ノ諸條件ヲ必要トス

(一)帝國臣民又ハ帝國臣民ヲ以テ組織スル商事會社ニシテ帝國内ニ主タル營業所ヲ有スルコト

(二)行政廳ノ許可ヲ受クルコト

(三)一定ノ保證金額ヲ納ムルコト(一萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム)

(四)許可ノ日ヨリ一定ノ期日内ニ開業スルコト(六箇月以内)

以上ノ條件ヲ以テ業務ヲ營ム所ノ移民取扱人カ移民ニ對シテ渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲スニ當リテハ其ノ契約ハ書面契約トシテ行政廳ノ認可ヲ受ケサルヘカラス渡航周旋料若クハ手數料等ハ總テ其ノ書面契約ニ定ムルモノヽ外移民取扱人ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

移民取扱人ニ依ラサル移民ニ於テハ行政廳ニ於テ其ノ移民ノ渡航ス可キ地ノ情況ニ依リ適當ト認ムル二人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若クハ歸國セシムヘキノ義務ヲ負ヒ又行政廳ニ於テ移民ヲ救助シ若クハ歸國セシムルトキハ其ノ費

用ヲ辨償スルノ義務ヲ負フ

第六節、校民事務

第六節　校民事務

一七〇　人口ノ增減ハ國家ノ實力ト密接ノ關係ヲ有スルカ故ニ行政上其ノ異動ヲ知リテ適宜ニ國家ノ實力ヲ保持發達セシメサルヘカラス口數、年齡、男女、職業者ヲ調査校較スルノ事務ヲ校民事務ト謂ヒ民籍事務ニ附帶セル一種緊切ノ行政事務タリ我カ現行法ニ依レハ年々人口ノ異動ヲ查較シテ每五年卽チ六年目ニ於テ十二月三十一日ヲ期シ其ノ日ノ現在數ヲ一定ノ樣式ノ示ス所ニ從ヒテ統計表ニ調査記入スルコトヽ爲レリ（明治三十一年內閣訓令第一號）

第一節、公用徵收ノ定義　公用徵收

第二章　公用徵收

第一節　公用徵收ノ定義

一七一　公用徵收トハ公共ノ利益ノ爲メニ國家命令權ノ作用ニ依リ相當ノ賠償ヲ以テ一私人ノ所有權ヲ剝奪スル法律上ノ行爲ヲ謂フ故ニ公用徵收

ノ元素

第一所有權ノ剝奪

第二國家命令權ノ作用

ハ左ノ四種ノ元素ヲ以テ成ル

第一公用徵收ハ一私人ノ所有權ヲ剝奪スル法律上ノ行爲ナリ　所有權ハ本來無制限ノ權利ニ非ス公益ノ爲メニ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依リテ之ヲ所有權ノ上ニ加フルコトヲ得ルハ帝國憲法カ所有權不可犯ノ原則ト共ニ認ムル所ナリ其ノ公益上必要ノ處分ハ一ニシテ足ラス或ハ所有權ノ享有ニ及フモノアリ或ハ所有權ノ行使ニ及フモノアリ而シテ公用徵收ハ曾ニ一私人ノ所有權ヲ制限スルニ止ラスシテ全然之ヲ剝奪スルヲ以テ通常トス是レ其ノ學者カ普通ニ行政上ノ地役ノ趣ヲ同クセサル所ナリ

第二公用徵收ハ國家命令權ノ作用ニ依リテ行フ　凡ソ所有權ノ讓渡ハ當事者ノ一方カ强迫ヲ以テ其ノ所有權ヲ奪ハルヽトキハ其ノ自由意思ヲ行フコト能ハサリシカ爲メニ合意ノ瑕疵ヲ致シ所有權ノ讓渡ハ從ヒテ完成セサルコトハ民法ノ法理ナリ然ルニ公用徵收ハ全ク是ニ反シ民法ノ法理ニ從

ヒ合意ヲ以テスルヲ條件トセス國家ノ命令權ヲ以テ強制スル所ノ一種ノ行政處分タリ從來ノ學者ハ民法ノ所有權讓渡ト對比シ讓渡ヲ分チテ任意ノ者ト強要ノモノトノ二トシ通常ノ讓渡ヲ任意ノ讓渡ト名ツケ公用徵收ヲ強要ノ讓渡ト名ツケタリ然レトモ此ノ如キハ便宜上民法ノ用語ヲ假リ來リテ行政處分ノ名目ヲ附シタルニ過キス何トナレハ既ニ讓渡ト云フ以上ハ其ノ強要ニ出テス又一私人相互ノ間ニ行ハルヽコトヲ示スモノニシテ學理上讓渡ニ強要ナルモノ存スルノ理ナケレハナリ今夫レ用語ノ當否ハ姑ク之ヲ舍ク公用徵收ハ即チ國家カ一私人ノ上ニ有スル命令權ノ作用トシテ當然ニ存スルモノナリ國家ハ別ニ法律上ノ擔保ヲ設ケスシテ任意ニ一私人ノ所有權ヲ收用シタル例證ハ古來諸國ノ政治上數ヽ之アリシコトヲ見ル輓近ノ立憲國ハ然ラス公用徵收カ一私人ノ所有權ニ打擊ヲ加フルコト著大ナルヲ以テノ故ニ命令權ノ濫用ヲ防カムカ爲メニ立法ノ手續ニ依リテ所有權ノ擔保ヲ設ケ以テ行政官ノ專斷ヲ檢束スルニ至リシナリ

第三公用徵收ハ公共ノ利益ノ爲メニ行フ　公共ノ利益ノ何タルコトハ事

實ノ問題ニ屬シ法律ヲ以テ之ヲ一定スルコト能ハス故ニ固ヨリ行政官廳ノ認定ニ委ヌサルヲ得ス而シテ其ノ公共ノ利益ト云ヒ公共ノ必要ト云ハサル以上ハ公用徵收ヲ要スル事業カ果シテ能ク公共ノ必要ニ應スルヤ否ヤヲ考察スルニ非ス唯其ノ利益如何ト顧ルノミ且其ノ事業ハ何人カ之ヲ施設スルヲ問ハス苟モ公共ノ利益ニ適フモノナラハ起業者ノ國家タルト公共團體タルト一私人タルトニ拘ラスシテ其ノ事業ニ必要ナル一私人ノ所有權ヲ徵收スルコトヲ得

第四公用徵收ハ相當ノ賠償ヲ以テ行フ　賠償ハ被徵收者ノ損失ヲ補償スルノ目的ヲ以テ與フル金錢ニシテ通常ハ當事者ノ協議ヲ以テ其ノ額ヲ定メ若シ其ノ協議整ハサルトキハ審査委員會ノ議定ニ從フ故ニ賠償ハ目的物ノ代價ニ非ス國家カ被徵收者ノ特別ナル損失ヲ補償スルカ爲メニ之ヲ拂渡スモノトス學者或ハ以爲ヘラク賠償カ協議ヲ以テ定メラルヽトキハ徵收者ト被徵收者トノ間ニ一種ノ賣買行ハルヽモノナリト然レトモ此ノ如キハ行政法上ノ行爲ヲ把リテ強ヒテ民法ノ法理ニ符會セムトスルモノニシテ恐ラク

ハ公用徴收ノ性質ヲ沒了セム抑モ公用徴收カ私法ノ範圍ニ屬セサルハ其ノ主格タル國家カ權力ヲ以テ一私人ニ臨ムニ在リ其ノ根本ニ於テ一私人ノ意思如何ニ拘ラス國家ノ單意ヲ以テ處分スルコトヲ得ルニ在リ其ノ豫メ協議ヲ以テ定ムルハ國家カ務メテ平和ノ行爲ヲ欲スルニ依ル之カ爲メニ國家ハ權力的國家ノ性質ヲ捨テヽ私人的國家ト爲ルニ非ス若シ其ノ協議整ハサルトキハ國家ハ常ニ之ヲ强制スルノ自由ヲ有ス一私人カ相互ニ賣買ノ合意ヲ爲スモノトハ既ニ其ノ根本ノ關係ヲ異ニス又何ノ必要アリテカ協議整フヲ賣買トシ協議整ハサルヲ公用徴收トセムヤ學者又或ハ以爲ヘラク租稅モ亦公用徴收ノ一種ナリト此ノ論必スシモ誤レルニ非ス租稅モ亦公益ノ必要上一私人ノ財產ノ一部分ヲ收用スルモノナルヘシ然レトモ租稅ハ一私人ノ出捐ニ成リ公用徴收ハ賠償ヲ以テ行フカ故ニ法律上自ラ二種異質ノ行爲ナリト思惟スルヲ可トス余輩ハ未タ租稅ハ動產ノ公用徴收ナリト云フカ如キノ說ヲ採ルノ要ヲ見ス寧ロ之ヲ混同セサラムコトヲ望ム者ナリ

第二節　公用徴收ノ方法

一七二　公用徴收ノ方法ハ三樣ニ區別スルコトヲ得第一、每回指定ノ方法第二、一般規定ノ方法第三、手續規定ノ方法是レナリ每回指定ノ方法ハ徴收ノ必要アル度每ニ法律ヲ以テ其ノ徴收ノ目的物及條件ヲ定ムルモノニシテ一般規定ノ方法ハ此ニ反シテ法律ヲ以テ豫メ徴收ノ場合目的物竝ニ條件ヲ定ムルモノナリ此ノ二箇ノ方法ハ唯學者ノ想像ニ止リテ未タ實際ニ之ヲ行ヒタルヲ見ス獨リ第三ノ方法タル手續規定ノ法律ハ現今諸國ニ行ハル即チ此ノ方法ニ依レハ法律ハ唯徴收ノ手續ヲ確定シ徴收ノ必要ハ時ニ應シテ行政權ノ認定ニ任カス我カ國法ノ採ル所モ亦實ニ此ノ手續規定ノ方法ナリ蓋シ每回指定ノ方法ハ徒ニ繁褥ヲ重ネテ隨時ノ須要ニ應スル能ハス一般規定ノ方法ハ到底言フヘクシテ行フヘカラス故ニ現今ノ法制ハ唯一定ノ手續ヲ設ケ之ニ依リテ行政上ノ便宜ト一私人ノ權利擔保ノ道トヲ併立セシメムコトヲ期スルモノナリ

第三節　公用徴收ヲ行フ人

一七三　公用徴收ハ公益ノ爲メニ行フモノニシテ其ノ公益ニ應スル事業